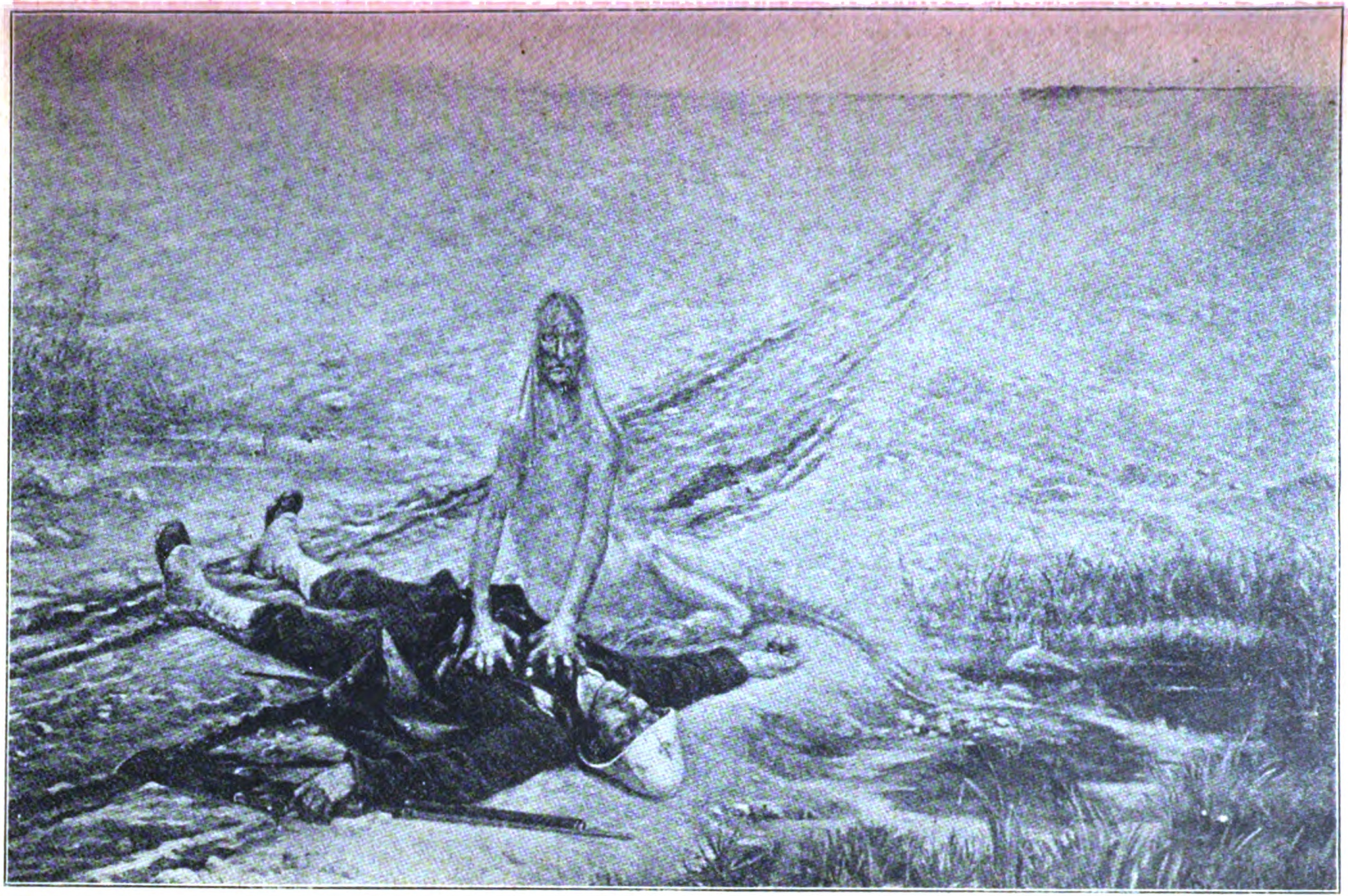
中央公論

本號目次



FEVER. BY PAUL LEGRAND.

熱帯遠征の兵士疫神の擒となる

N. 175.

中央公論

第十八年
第九號



露國の死命を制すべき三大問題

吾人は平素より戰爭排斥論を主張するもの、平和の神長へに世界列國の上にあれかしとは、恒に之を念じ之を冀ふところなり、然りと雖、茲に暴戻の一國有り、我の正理を無視し、我の國權を蹂躪し、漫りに血に渇ける惡魔の所業を逞ふせんとするに際し、猶平和を唱へて屈從これ事とせんとするが如きは吾人の堪へ得べきことに非ず。時と場合に依りては、一國の存亡を賭しても、進んで一大血戰を試むべきなり。

日露開戰は昨今益す世界各國の評判物となれり。果して如何なる成行を見るべきか。由來外交は見戲に類す互に威嚇の根比べを爲し、互に虚勢の張り合ひを競ふ兩國互に滿を持して今にも切て放さんとするが如く見せ掛け、其實之を放つを發せざるは近時外交界の常態なり。戰爭嫌ひの張本人ウヰッテ彼に在り、恐露病の本尊藤侯我に在り、吾人其戰爭の容易に起るべきを思はず、又其起るを欲せず。然れども今に於て萬一の場合を豫想して言を立つ、又決して無用の言に非るを信ず。

乞ふ吾人をして日露開戰の場合に於ける、一場の豫想談を試ましめよ。

開戰既に免るべからずと假定す。戰鬪の常法として何人も其思考力を費やすべきは、如何にせば我の力失ふこと最も少くして、彼の力失ふところ最も大なる時機、及び場合を見出し得べきかにあり。

吾人は此時機及び場合を二種に區別し、我に利有る時とに彼に不利なるの時との二點となさんとす。則ち我に利なる場合及び時機とは、陸海に於ける彼と接觸すべき地點の指定なり、彼と戰鬪を開始すべき季節の撰擇なり、彼が主力存在地の偵察なり。然れどもこれらの項目は委く軍事上の祕密に屬し、吾人が今日に之を言ふべき場合に非ず。唯夫れ彼れに不利なるの時機及び場合に至ては、何時何人が之を言ふに毫も差支へ無之を信ずるなり。

何をか彼に採て我國との開戰に最も不利なる時機及び場合なりと云ふか、左の三問題が露國を煩はすの時則ち然り。

一は內亂問題の起れる時なり。

現今世界列國中、內亂の起り易きもの、露國の如きはあらず。廣大の版圖に六十餘の種族を包含し、芬蘭人、土耳古人、猶太人、獨逸人、波蘭人、彼等は悉く露國版圖內に於ける內亂の煽動者なり。虛無黨の陰謀、大學生の一揆、勞働者の暴動、いづれか彼に採て內顧の患ならざらんや。頃者南露に於けるバク油鑛の暴動及び工場罷工の紛亂等相踵いで起れる、又其內亂の一なりとす。露西亞の統一難も亦大なりと云ふべし。かゝる問題の紛起せるに際して、他國と戰端を開かざるべからざるは、彼が最も痛苦を感ずるところなり。

二はバルカン問題の起れる場合なり。

東歐バルカン半島は、他日歐洲列國大動搖の震源地なり。ブルガリヤ、セルビヤ等の閙者は、露國に採て其影響決して滿州問題の比に非ず。

彼が外交難は恒に此方面より發生し、一たび其處置を誤らば歐亞全局の大亂を釀さんとす。極東に在て露と戰はんとするものは、須らく東歐の形勢に其注意を怠る可らず、此方面の問題興起せるに乘じて、以て彼の死命を制せざるべからざるなり。

三は波斯灣問題の起れる時なり。

東歐に次て、露國南進の第二の出口は實に波斯灣に非ずや。此地は現に英獨露の三國勢力が、一進一退其利益線を爭へるところなり。其歷史よりするも、其利

害よりするも、波斯灣の一角は、露西亞に採て滿州よりも更に重要視せるところのもの、若し此方面に於ける問題の紛糾せるに乘じ、開戰を宣言せば、露國を屈すること最も容易ならん。

以上の三問題其孰れを問はず、我國に採ては毫も利害の相關するもの無くして、彼に採ては實に死活問題たり。邦人は露國が現時、萬事を抛て獨り滿洲問題にのみ勢力を集中するが如く思へるも、これ實に露國の實際を知らざるものにして、露國當局者の眼より見れば滿洲問題の如きは此三問題に比し、寧ろ第四に來るべき比較的輕微の問題に過ぎず。

試みに此三大問題を移して、我國情に該當して一考せんか、第一の內亂問題を我が明治十年西南の役或は又江藤新平の亂に比し、其際海外の歐國より或る問題に關し手強き最後の抗議を受けたるものとせん、我國に取て其苦痛果して奈何。第二のバルカン問題は比較やや小なりと雖、以て我が馬山浦問題に比すべし、我國が馬山浦問題に關して其對手國と解決せんとしつゝあるに際し、他の一國が突然或る問題を捉へ來て、開戰を通告するものありとせん、一國の困厄果して奈何。第三の波斯灣問題は、以て我が臺灣海峽問題に比すべし。對岸福建省の我勢力圈內に於て二三の與國我利益線を犯し問題の火の手將に大ならんとせるに際し、他の無關係なる一國が新問題を捉へ來て、背後より迫るものありとせんか我國の難局則ち想到するに餘り有らん。

日露雌雄を決せんとするに當り、我の力失ふこと最も少くして彼の力失ふこと最も大なる場合は、以上の三大問題を利用するに如くものなし。これ吾人が露國の死命を制すべき三大問題として之を言ふ所以にして、國民が此點に注意を拂はんことを切望せざる能はず。

由來我國の政治家、其朝に在ると野に在るを問はず、悉く近眼なり。只近き滿洲や韓半島の一局部に注意して、その風聲鶴唳に空しく心膽を上下するあるのみ。露國に採て生命問題たる以上の三大問題の如きに到つては却て對岸の火災視して何の利害をも感せざるが如し。近視眼も亦甚しからずや。近眼の音頭に盲目の和

聲、徒らに野犬の喧々として騒ぎ廻はるが如き擧動をなすも何の所詮かあらん。思ふに彼のクロパトキンの如き、身は滿洲に在り又は日本に在るの際も、其眼光は恒に東歐中亞に注ぎ、腦髓の大部分は滿洲問題の解決に先ち、寧ろ此三大問題に方向て費やされたるならん。我政界の諸君、特に近時成立せりと稱する對露同志會の諸君。諸君の眼光は對露の方針に關し果して滿韓の一局部にのみ注がれずして、廣く露國の全局部に注がれ居るや奈何。

今や歐洲よりの警報は頻りに露の内亂問題と、バルカン問題の危機に迫りつゝあるを報ず。吾人は實にかゝる情報に接して近き龍巖浦問題と同一の注意を以て其成行を觀望せんとするものなり。（楓堂）

中央僻在論

大日本、大々日本、大々々日本の首府を東京と名く。我等はこれを世界第六番目の大都會と誇り、東洋第一の文明都府と自慢するなり。

奈何にも然り、北、千島の北より、南、臺灣の南に至る、細長帝國の地形より見て、東京は其中心點に近し。地勢上之を中央首府と云ふ何の不可無し。明治天皇茲に在まし、政治の中樞機關悉く玆に在り。政治上之を帝國の中心と云ふ、誰か之を否まんや。

然れども此都會に住み、自ら中央市民と稱する百七十萬の都民、其大多數は果して首府の市民として恥しからぬ資格を備へ居るや否や。詳しく言はゞ帝國に於ける他地方の市民に對し、又は東洋各國に於ける各首府の市民に對し、其模範となり、先道となり、敎師となり、先覺者となるの價値有りや否や。撿して東京市民の中央的なる首府的なる且つ世界的なる分量の如何を見來れば、誰か二度吃驚の感に打たれざるものあらんや。

吾人は言ふ、東京市民は唯名のみ首府と名け、中央と稱する、一の地方に僻在するに過ぎずと。則ち彼等が帝國腦地の市民としての行動皆無なるを云ふなり、模範市民としての見識空零たるを云ふなり。

一

流石に龍動市民は世界第一の市民なり。市民としての模範、紳士としての標本、彼等は獨り英帝國の中央たるのみに非ず、實に世界の中心を以て自任す。其信用に於て、其品位に於て、其見識に於て、其伎倆に於て、其言語其業務、一として英帝國首府の都民として耻ぢざるの行を爲すに心懸けざるものあらず。彼等は悉く世界を家とし天下を狭しとするの慨有り。我東京市民は果してこれらの心掛け有りや奈何。世界を狭しとするの慨は未だこれ無しとするも、少くとも東洋列國の中心を以て自ら任ずるの市民たらんことは、吾人のこれを希望するところ、而してこれを見ざるのみか、日本一國の中心地たる模範市民の資格すら未だ備はり居らざるなり。

一

國民教育の根本は小學校に在り、此義務教育に對して不完全なる東京の如きはあらず。不規律たる代用小學に多數の子弟を托して、平然たるもの東京の如きは全國他の市町に於て見るべからざるの汚點なりとす。文部省を有し、帝國大學を有し、各種の專門學校を有し、一國文教の中心たる東京として、其小學教育の一點冲縄北海道と相若くが如き市民の耻辱、豈これより大なるものあらんや。

一

言論の代表は新聞に在り、市內幾十の大小新聞、其二三を除非して果して中央首府の機關たる躰裁を具ふるものありや。中央首腦地にあるの特色は、世界列國の形勢を一目の下に知得するにあり、內地全部の情報を總括して之を諒知するに有り。而して都下多數の新聞に依ては世界列國の形勢を知る能はざるのみならず、內地の出來事すら之を知るを得ず。其報道挾きは市內に限り廣きは箱根以東に局る、則ち中央に在る一地方新聞と云ふに過ぎず。只地方新聞と異にところは、住民の多きが爲め、東京の廣きが爲め、三面記事の饒多なるにあり。横町の夫婦喧嘩大道の泥棒沙汰、新橋芳原の記事、これらの報道は所謂地方新聞の企て及ばざるところ、これ地方新聞と首府の新聞との毛色の異れる唯

一の點なり。又ナサケ無き中央の特色ならずや。

一

東京市政は正しく全國の摸範市政たるべし。而かも不幸にして未だ善良なる摸範を示さずして賄賂の摸形を示し、泥棒の摸範を示し繁文の雛形、紛擾の標本を示す。其交通機關や公園の設備や、遠く緬甸印度の亡國にも及ばず、其街道や家屋の規模、上海廣東の諸港にも遙かに劣れり。首府の眞中に沙漠有り、沼澤有り、誰か之を見て東洋の覇權を握れる大日本の主府として之を首肯するものあらんや。

一

東京市民の商業は只東京市民を相手としての商業のみ。全國を相手としての商業は未だ東京に於て發達せず。況んや清韓國を相手とするの商業をや、更に況んや世界列國を相手とするの商業をや。此點に於て東京市民は贅六の本場たる大阪京都の市民に幾十等を輸せざる能はず。東京市民が東洋の各港に英獨と其商品を爭ひ、世界の各國に米佛と其取引を初むるが如きは、永久望むべからざることに屬す。海外貿易の中心を永く贅六のぺー〱に托し、其下風に立ちながら猶且つ我は中央首府の商業家なりと云ふ、そも〱これ烏滸の沙汰なり。

一

兄は加奈陀に出稼ぎし、弟は印度に奉職す、姉は濠州に往き、妹は南阿に嫁せり。日常一家團欒の茶話すら其話頭は恒に渾球の各所に飛べる龍動生粹のコクネーと、足品川の南に出でず、偶ま内地を離るゝものある、臺灣の出稼にも水盃をなし、亞米利加や濠州は其西にあるか東にあるかをも知らざる我が首府の江戸ッ子と其差又大なる哉。今の江戸ッ子は遙かに廣島和歌山の農夫よりも其世界的なるの點に於て劣れり。ドノ面下げて天子様のお膝下に生れたる人間一疋と意張るを得んや。

一

最も世界的常識に缺乏せる東京人、最も亡國根性に富める東京人、中央に居て中央を利用するを知らざる東

京人、首府に居て首府の市民たる資格なき東京人、吾人彼等を呼んで中央と呼べる一地方に僻在せる田舍者と云ふ。果して非耶

(里山)

資本勞力調和論

松井柏軒

本論

一、實行すべき方法　今日直ちに社會主義を實行して良好なる結果を得べきや否やは少くも一疑問也。若し強ひて實行せんと欲すれば多くの困難あり。多くの危險あり。或は血を流すの不祥事なきを保せず。故に今之を實行するよりは更に危險なくして而て今の社會組織の不完全なる處を補ふの手段を執るには如かず。茲に於てか資本と勞力とを調和するの必要あり。

二。勞働者の不幸　資本論(カピタル)の著者カールマークス氏。及び社會主義神髓の著者幸德君が歷史的に勞働者の不幸なる地位に陷ゐりしよを説明せる一節は。從前の經濟學者の多く道破せざる所なるも。而かも的確なる事實也。然り社會組織上最も注目すべき事實也。其の説に曰く。「製作者は最初自から或る物品を製作して之を賣れり。故に其の損得の全部は製作者自身に歸して。利益多き場合には。其の全部全く製作者の有たりき。所謂個人的工業の實狀然りし也。然るに工場的工業起り。製作者は單に工場の雇勞働者となるや。唯だ一定の賃錢を得るのみ。其の製作品より生ずる利益は全く工場主即ち資本主の有に歸するに至れり。是れ今日資本主の益々富みて而して勞働者の獨り彌よ貧なる所以也」と。

斯の如くにして製作の主として力を致せる勞働者が。賃錢の外何等の利益に與からざるに拘らず。資本主が其の出資に對して普通金利として得べきものゝ外。更に多くの利益を占有するは不公平の極也。故に資本主が利益を得るが如く勞働者にも亦利益を分配するを至當とす。製作品は資本主よりも寧ろ勞働者の力を待つと多きものなれば也。即ち製作品より生ずる利益は勞働者寧ろ資本主よりも多くを受くるを至當とす。而して今の社會は之に反す。

三。資本主の過幸　資本主が利益を專有するを。實に驚ろくべきものあり。余の知る所によれば。我が東京に於て割合上最も多くの利益を得たるものは事業經營者に非ずして單純なる資本主也。鹿島某なる一寡婦

地主として土地の收益に衣食し。其の剩餘を以て年々土地を買ひ足し。今や巨萬の富人となれり。銀行業者。外國貿易業者。工業者等拮据經營するも。其の收益の割合は竟に此の鹿島某なる女資本主か唯だ逸居晏坐して一事を成さゞりしに及はざると甚だ遠しといへり、故に危險を冒して外國貿易を營むよりも。營々役々として銀行業に從事し工業を起すよりも。唯だ資本主として安全なる土地を買入れ。若くは會社の株主となり。若くば銀行に預金して其の利益を收むるの安逸氣樂なるのは如かず。

斯の如きは、獨り資本主を利益せしめて。社會組織を益々不正偏頗ならしむる也、其の結果は啻だに貧富の懸隔を甚だしからしむるに止まらずして。實に社會を腐敗せしむるもの也。勤勉なるもの貧苦にして懶惰安逸なるもの富樂なるが如きは。嫉妬。不平。傲慢。淫靡。惰弱の弊を增長して竟に人心を破り國を亡すに至れば也。

四。利益分配法の改良　今日社會組織の最大弊は富の分配の正當ならざるにあり。具躰的にいへば。資本主のみ利益を占有して勞働者に利益を分配せざるにあり。故に之を改むるは資本と勞力とを調和して各々其の宜しきを得せしむる所以也。而して余は大要左の如き方法を行はんとを主張す

一。全純益の内

時の最低金利率を以て先づ出資者に分配し。殘る中より

三分を積立金として資本主勞働者の共有とし

二分を資本主に配當し

五分を直接事業の經營に當れるものと勞働者とに分配す。

一。利益の分配に與かるべき事業經營者と勞働者とは一年以上勤續の者に限る。

一。事業經營者勞働者の受くべき利益分配法は。其の俸給賃錢に比例す。

其の分配を事業經營者勞働者に多くして。資本主に少くしたる所以は他なし。資本主は普通の金利を得るを以て也。既に普通金利を得たる上。唯だ資本者たるがため。何等の勤勉をも爲さずして、二分の配當を受くるが如きは寧ろ過分なるも斷じて少きとなければ也。

試みに此の主義を實地に計算すべし。左の一表は東京電車鐵道會社の卅六年度上半季の決算報告に由て製せ

しものにして。其の資本金を百六十万圓としたるは。増資の分が全く動力變更に費消せられて。未だ收益を看るに至らず。現在の收益は實際百六十万圓の資本より生ずるものなるが故也。

一。純益金廿八万圓(以下打切)の内資本金百六十万圓に對し最低利率を五朱として株主へ配當四万圓殘り二十四万圓の内

七万二千圓　積立金(三分)
四万八千圓　株主配當(二分)
十二万圓　役員以下配當(五分)

一。同社が事業經營者勞働者に仕拂ふ諸給は左の如し

八千五百七十圓(以下打切)　社員給料及重役報酬
一万二千四百十五圓　諸雇員給料
六万千七百十三圓　車掌馭者給料
二万五千八百四十四圓　馬丁給料
一万六百七十七圓　常雇料
計十一万九千二百十九圓

即ち略々配當金(五分)十二万圓と相齊し。即ち勞働者は其の賃錢と同一額の配當を受くる也、一ヶ月十五圓一ヶ年百八十圓を得る車掌は配當金として一ヶ年百八十一圓餘を得る也。

若し此の例を以ていはゞ。他の事業に於て八十錢の日給を受くるものは。實際一圓六十錢を受くべくして、勞働者の所得は正しく現在に二倍すべき也。

而して電車鐵道の株主の受くる配當は年一割一分弱に當るの算也。

且つ積立金を費消するとなければ。二十ヶ年（實際は十八ヶ年前後）の後には。資本金を償却し終りて。電車鐵道會社は全く株主經營者勞働者の共有となるべし。而して其の利益配當は益々多かるべし。茲に至れば資本勞力の調和正に其の好境に達せりと謂ふべし。

五。同盟罷工　同盟罷工の恐るべき結果を知るものは。能く勞働者の尊重すべき所以を悟るべし。勞働者は同盟罷工をなすがために賃錢を得る能はずして。甚だしき苦痛を感ずべく。從つて資本主の必要なる所以をも解すべきも。資本主が同盟罷工に由て受くる損害は。勞働者の感ずるそれよりも更に深くして且つ大也。同盟罷工のため製作品の注文を外すの大損失あり。競爭者のため華客を奪はるゝの大損失あり。其の事業の信用を他に墜すべき恐あり。竟に其の事業の衰微を招くべき恐あるとは。英國の諸工業が同盟罷工のために

大打撃を受け、其の繁榮を米國及び獨逸に奪はれたる事實能く之を證す。茲に於て資本主は勞働者の甚だ重んずべき所以を悟るべき也。

今の多數の資本主は。輙もすれば勞働者を多く得易きものとして之を輕侮するの傾きあり。是れ非常なる誤見也。資本あるも勞力なければ竟に用ゐる所なく。器械工業益々進むに從つて勞力を省くヿ多きも。而かも勞働者の貴ぶべき所以は益々大なるべし。巧妙なる器械を運轉し利用する一に勞力に待たざる可らずして。斯の如き勞働者は容易に得難ければ也。

* * *

カーネギー曰く『我が製鋼所成功の秘訣は他なし。成るべく勞働者をして利益の分配に與からしめたるにあり、勞働者をして漸々株主たらしめたるにあり、既に然る後。勞働者は單に一の雇人たるに止まらず自個の製鋼所自個の事業として誠實に勤勉して倦むヿなし。成功せざらんとするも得ざりしのみ』と、世の資本主深く察すべき也。

我國水產業の今後

米國　篠原沼東

（三）水產業奬勵の一方策　下

古來の遺風慣習のみを墨守して、僅に業務を營みつゝある、無敎育なる漁民に向つて、水產業の擴張を計らんには、兎も角も、先づ敎育上よりして之れを起し、斬新なる科學上の智識と、新規なる技術の適用とに依らざる可からず。さりながら此等の事たる到底一朝一夕の事業として望む可からざれば、そは將來の事業として暫らくこれを措き、目下或は實行し得らる可しと信ずる二三奬勵の策を擧げて世に諮らんか。

（一）漁場の調査は其の一なり。現在の捕獲法及び漁船にては、所詮五六十里以外の海洋に於て、其の風波に堪へ其の事業に從事し難きは、縱ひ斯道に從事せざるものも既に熟知して餘りある所なり。果して然りとせば、此等の改良を計るに先つて、須らく世の注意を要す可きものは、斯かる範圍内に於て、新たに適當なる漁場を發見するの一事なり。即ち潮流の性質、海岸の地形、產魚の種類、及び魚族群集の季節等を探知し、處々の水域を調査測量するに在り。但し此等の事とても、新事物を理解する能はざる、現在の漁民に向つては、

到底不可能の事に屬せば、宜しく政府に於て、適當の所置を講ぜざる可からず。縱ひ當局に於ても、旣に幾分の注意する所あるには相違なきも、目下の急務として、若しくは又世界水產國としては、尙ほ甚だ及ばざるものあり。かの佛國の如きは、年々三四艘の船を以て、巡廻調査する所あらしめ、各漁船は、概ね其の通知を待ちて、漁場に赴く事となれり、其の準備の行届ける、誠に以て盡せりと云ふ可きなり。

(二)遠洋漁業の奬勵も其の一なり。我漁民間に於て、遠洋漁業とも稱す可きは、僅に北海及び朝鮮近海に於ける、捕鯨の如きを云ふ可きか。水產業としては、木曜島附近の採珠業ありと雖も眞に微々たるものなり。且つや其の捕鯨の如きも、其の船體の風波に堪へ難きと、捕獲法の舊式なるとは、元より外國漁船の新式なる器械によれる、巧妙なる捕獲法には及ぶ可からず。近時の事情は、或は俄かに此等の改善を行ひ難しとするも、やがて之れが實行の奬勵を怠る可からず。僅に彼等が射殘したる手負ひ鯨を獲て、滿足するが如き現況は、苟も世界水產國の漁民として、何時までか甘ず可き面目ならんや。

遠洋漁業の利益は、啻に近海に於て、捕獲し得ざる水產物を得るに止まらず、同一種類の水產物にても、其の漁獵範圍を擴張し得るの利あり。例せば鰯鰹の如きは、彼等が黑潮に沿ふて接近し來るを待つて、漸く漁獲するに過ぎざるも、進んで遠洋に乘出て、之を其の通路に要獲せんには、更らに幾多の增額を見る可きは、蓋し疑なき所なり。或は又間接に於ては、魚殖の保護法ともなり得可し。我が漁業は概ね沿海に在て、同一漁場に營まるゝを常とするを以て、收獲の減少すると共に、魚族產殖の如何を慮るの遑なく、自ら濫獲亂漁の弊を免るゝ能はざるなり。されば鮑海鼠の如き、殆んど同所に滯住せるものは、爲めに其の跡を絕たんとするの恐れあり。然るに之を遠洋に於て營むに於ては、自ら其の弊を矯め得るの道理ならずや。歐米の漁夫に就て見るに、總收入三分二以上は、皆な之を遠洋に獲るものなり。彼我漁民の、貧富の懸隔ある、亦實にこゝに存せずんばあらず。

凡そ此等の利益あるに於ては、遠洋漁業の奬勵も、亦一日の惰慢を許さゞる所ならずや。

(三)漁禁日の制定も亦其の一なり。本年七月、コッペンハーゲンに於て開きし、列國海洋研究會議に於ては、主として北海の重要食料たる魚類、鰊、鱈の減少に關

する研究、北海、スカゲラック、カアガジット附近の、トロール漁場に於ける濫獲、即ちプライス、ソール、フラットフイッシユ等の、蕃殖保護に關する問題なるが如し。本邦に於ても、亦沿海魚殖の保護を要す可きは、斯業に志ある者の、夙に唱導する所なり。而して之を行ふの簡易なる良策として、而も亦一種の美風として、我が漁民間に施行せられん事の望ましきは、彼の英領コロンビヤ州に於ける、フレザー河漁場の、禁漁日の制なるかを思ふ。

英領コロンビヤ州に於て、最も價値ある財源は漁業なり、就中フレザー河に於ける鮭漁は、其の主たるものなり。鮭の種類にはスプリング、サカイ、及びホックビルとて鼻の曲りたるものなどありて、初春より冬季に至るまで、期節を異にして來り、漁場常に間斷なしと聞く。但し其の今日の盛況を來たせし所以のものは、其のはじめ、魚族蕃殖の保護策として、嚴正なる法律の下に、三四ケ月間の、禁漁期を制定せられたるに基づけりと、而して今尚ほ土曜日曜の兩日に於ては、全く同魚の漁獵を禁ぜられ、總ての漁夫は、何れも船を洗ひ、網を收めて、盡日談笑快樂を共にするの慣習となれり。且つや、平常其の漁獲の多寡を誇り、多獲者を尊重するの風あるより、自ら競ふて撓まざらんとするの忍耐力と、風波を事とせざるの勇力とを養成しつゝあり、若し此制にして、我が無教育なる漁夫間に用ゐられ、斯かる風習の一般に、我が無趣味なる漁民社會に行はるゝに於ては、啻に濫獲の弊を矯め得るのみならず、傍ら漁獵の奬勵ともなり、併せて又彼等をして、幾分か精神的快樂を味はしむるの一端たるを得可きか。

(四)萬國水産博覽會の開設も亦實に其の一なり。明治十三年獨逸のはじめて伯林に、萬國水産博覽會を開くや、彼れは當時、僅に六十餘種を有するに過ぎざりしも、我國に於ては、優に六百餘種の出品を有し、當時既に世界稀有の水産國として、列强の間に知られたりき。然るに獨逸は爾來益々其の發達を計り、バルチック海の漁業の如きは、近年非常の進歩をなし、毎年海外に輸出する水産物の額、凡そ七百万馬克に達せりと云はずや、而して本邦に於ては、今尚ほ二百万圓を過ぐる能はざるなり。之を其他の列强に見るも、英國は毎年漁獲する總價額、凡そ八千万磅、佛國は其沿岸及び海洋漁業の産額、九千餘万磅、米國は四千五百万弗、加奈陀は二千餘万弗を産せり。獸肉供給の豐裕なる諸國にして、其の水産物に待つこと如此し。況んや、類稀れ

なる天惠を有する我水產國にして、いかでか之れか發達を忽にするに忍んや。

水產業の進歩遲々たると共に。又其の製造法の如きも、未だ幼稚にして、折角の華客を有しながらも、充分に其の販路を擴張する能はざる有樣となれり。魚油、昆布、寒天、皆な然らざるはなく。其の他の魚類に於ても、製造法の如何によりては、正しく歐米人の嗜好に投じ得可きもの、決して尠少にあらず。或は又海藻類に於て勞力低廉なる本邦に於ては、盛に沃度、加里の製造をもなし得可れば、縱ひ近來沃度酸鹽より製造するにもせよ、本邦の如きに於ては、進んで一大沃度國として起ち、其の販路を智利產沃度酸鹽に競ふも、蓋し未だ遲きにあらざる可し。

如上の次第に加へて、なほこゝに戒しむ可きは、我商人の奸手段なり。之れあるが爲めには、往々にして其の物品の聲價を下らしめ、華客をして、自ら一種の危疑をも抱かしむるものなきにしもあらず、例へば鮑昆布の如き、徒らに其の量目を增さんが爲めに、或は鹹水を注ぎ、或は貝殼を混ずるの多きを以て、支那人間に於ても、稍もすれば之を危險物視するに至れりと聞かずや。さきには長崎に評物役所ありて、一切の輸出荷物を檢し、之に證印を捺したる事ありき、而も今日なほ此等の手數を要せんとするは、日本文明の進歩も、亦餘りに遲々たるの感なからんや。

兎にも角にも、水產製法の改善を計ると共に、一方に於ては、其の顧客の危疑を去らしめ、他方に於ては、更らに彼等をして、我が水產物の種類の多寡、若しくは其の品質の良否及び用途を知らしめ、併せて歐米列國民の、嗜好需用の程度をも察せんが爲めには、少しも早く萬國水產博覽會の開設を促すに如かざるなり、これ獨り我が販路の擴張、國家經濟の上に於て急務とするのみにあらず、又實に斯業發達の點に於て、世界水產國の有す可き當然の責務たればなり。

貧民狀態の研究（下）

横山源之助

前々號及前號に於て職業及經濟狀態の調査項目を擧げたり、經濟狀態に次いて研究すべきは風俗上の調査に屬す、左に其の大要を揭ぐ。

第一　風俗問題

甲　家庭

イ　正式に婚姻せる者の割合
ロ　貧民部落に於ける婚姻の儀式

(2)　出產
イ　私生兒と公生兒との割合
ロ　死產の有無、其の割合及其の原因
附　產婦日常の行爲動作如何

(3)　貰子
イ　東京市各口入宿より出づる貰子の統計、子を他に與ふる家庭上の原因如何
ロ　貧民部落の貰子
藝人と乞食の貰子需用の比較――貰子の方法――子供借用の定價

(4)　夫婦喧嘩
イ　夫婦喧嘩の原因
ロ　夫婦喧嘩の影響

(5)　離婚
イ　離婚の割合及其の原因
ロ　離婚後の婦人狀態

(6)　同居人
同居人多きは細民社會の常態にして、特に貧民部落に於ては常に數組の同居人あり、近時貸家札を張れる明家を見ること多し、余輩は貸家札の多少に由りて常に不景氣の程度を測量しつゝ有り。

乙　近隣

(1)　日常の交際如何
(2)　婚姻及死亡等非常の場合に於ける近隣の關係

東京市の生活社會にては、近隣は殆ど無意味にして、平日何等の關係なしと雖も、唯貧民部落に於て聊か研究に値する者あるのみ。

丙　娛樂

(1)　鈍帳芝居
鈍帳芝居の劇場組織―各鈍帳芝居の一ヶ年の開場回數―入場者統計―演劇の種類
(2)　寄席
(3)　貧民部落に在りて娛樂とせらるゝ者

貧民部落に在りて娛樂とせらるゝ者は何ぞ、下谷万年町等に於て、職業多忙を致して部落の景氣良好なる時は其の融通機關たる質屋が常に繁昌を極むるを以て通例と爲す、是れ賭博の行はるゝが故にして、而して賭博は渠等の間に最も喜はるゝ娛樂の一方法たり、但し賭博は警察事項に於て研究すべきを穩當とすれば、此處

には他の娯樂方法を研究するを可とす。

第二　衞生問題

甲　食料

(1) 外國米の需用高

イ　景氣の好否と外國米需用の相違

ロ　勞働者にして一ヶ月若くは半ヶ月拂に米を需用せる者と然らざる者

ハ　貧民部落の米屋は幾何の信用を其の住民に與へつゝありや

ニ　殘飯屋の狀況如何

(2) 副食物として最も行はるゝ物

(3) 小商人と日稼者との食物比較

乙　飲酒

(1) 混成酒の需用せらるゝ程度

(2) 木賃宿所在地と濁酒屋の數

(3) 貧民部落に在りて飲酒する者と然らざる者との割合

(4) 飲酒の多少は職業の種類に依るが如きとなきか

(5) 禁酒運動者は幾何の勢力を貧民及勞働者に與へつゝありや

(6) 飲酒者と犯罪

丙　醫藥

(1) 貧民及勞働者の衞生思想

(2) 一般醫師の貧民及勞働者に對する態度及其の取扱

丁　施療

(1) 一個人の施療

(2) 公共團體の施療

衞生問題に次ぎて研究に資すべきは、教育及宗教狀態と爲す、左に概略を擧ぐれば

第三　教育及宗教狀態

甲　貧民教育

(1) 特殊學校の成蹟

(2) 宗敎家の手に成れる貧民教育如何

(3) 貧民部落に遺れる五厘寺小屋の現狀

乙　技藝教育

(1) 從來の徒弟教育

徳川時代の職人養成法—親方と年期小僧との關係—年期—禮奉公—年期終りし後の兩者の關係—明治以來の變遷—今日行はるゝ職人見習方法

(2) 徒弟學校の成蹟

丙 貧民部落の宗教

(1) 最も行はるゝ宗教は何ぞ

(2) 佛教と貧民部落

佛教信仰の程度—僧侶との關係—法話の實例—葬式—僧侶は無縁者を如何にしつゝ有りや

(3) 天理蓮門等の淫祠妖教の行はるゝ範圍如何

(4) 吉凶禍福に對する感念卜筮—咒字—神符—巫女—鬼門等

(5) 救正軍の及びつゝある勢力及範圍

と爲す、世に幾多の宗教家あり、宗教學者あり、然かも進んで貧民部落に入り、其の熱誠を濺いて、貧民の爲に慈悲を垂れ、渠等の味方と爲り朋友と爲り父母と爲りて慰籍と教訓とを與ふる者甚だ尠し、慨すべき哉。

第四 警察事項

甲 警察取締規則違反者の種類

乙 乞食と掏兒

丙 無宿者

丁 淫賣婦

淫賣の種類—白首の巣窟—ヒツパリの出沒する所—仕入方法—獨身者と夫婦者—西洋賣淫婦との比較

戊 賭博

以上は實に貧民狀態研究の概略のみ、尚貧民及勞働者に對する法例規則あり、巳人及公共團體の慈善事業あり、特に慈善事業に伴ふて貧民救助の目的物たる所の棄兒、孤兒、行旅病者の消息の如き貧民狀態の調査上逸す可らざる研究事項たり。

余輩は更に如上の研究と連續して、淺草龜岡町に大部落を作れる新平民の一階級に十二分の注意を拂はんと欲す。中央公論の寄書家某氏は、新平民と貴紳とを比較し、渠等無告の民の爲に椽大の筆を揮へり、喜ぶ可し。余輩の知れる所を以てすれは、最も深く新平民を研究したりしは故柳瀬勁介氏なりき、其の救濟の爲に臺灣の地に赴き、不幸にして疫病の爲に中途に倒れたりと雖も、其の遺書は今日之を見るも、尚苦心を諒とす可き者あり。

余輩は不完全乍ら貧民狀態の研究項目として、以上、其の概要を擧けたり。僅に机邊に備へる一私案にして、之を世に發表するは潜越の誹を免れざるべしと雖も、一は之を以て同好諸氏の參考に資し、他は之に依りて

江湖識者の指摘を得て聊か自ら益せんと欲するの微意のみ。英吉利にはチャールスブースの「英國倫敦の勞働及生活」あり、佛蘭西にはルプレー氏の「歐州勞働者の狀態」あり、獨乙にはベーマード氏の統計的研究に成れる「七十七の大都市の貧民事情」あり、而して我國に在りては、社會問題を唱ふる者、年に增加するに拘らず、未だ一冊の參考に値する貧民に關する著書あるなし、貧民及勞働者の狀態にして明らかなれは、社會問題首唱者が如何に諤々の議を稱ふるも、一種の空言のみ、漫語のみ。苟も二十世紀の新運動者を以て任する者は、空言を弄び漫語を弄して豈其れ得々として已む可けんや。

（完）

形式の基督教（三）

正岡藝陽

元老と外國宣教師

吾人は曾て、『現代百人豪』に於て、日本に於ける監督メソヂスト派の頭梁本田庸一氏を論じ、基督教會の重鎭となし、其要領を得ざる木偶の如き所、亦能く多數の人を服せしむるに足るものありとなせりき、本田氏を以て一方の人傑とする者は、獨り吾人のみならず、基督教會の人のみに非ず、教會以外の人も亦爾か信ぜしもの丶如し、蓋し其經歷と、其風貌と、其態度とは自ら人にエラサウに思はる丶第一の資格たるべきものにして、多くの人より其實質以上の聲價を買ふに至りし所以也、然れども吾人は氏の近時の行動に徵するに、敢て遠大の計畫あるにも非ず、敢て燃ゆるが如き大信仰の存するにも非ず、唯基督教內に於て平凡なる形式を練習しつ丶ある一老爺に過ぎざるを信ぜんとす。

青山學院は實に氏の主宰の下にあるもの也、然れども氏の青山學院に總理たるは、伊藤侯の政友會に總裁たるよりも微力なるもの也、唯無能平凡なる多くの牧師連に左右せられ、其周圍に動かさる丶こと、宛然一個の後入齋也、基督教の重鎭の一人は實に斯の如き木偶也。

江原素六氏は政治界のエラ物にして、又基督教界のエラ物なりと云ふ、然るに又氏の爲す所を見るに、基督敎より見る時は、一個の惡魔たる故星亨の前に叩頭拜伏したりき、腐敗墮落の極にある政友會の一員たり、選擧競爭に於いて基督教徒にあるまじき行爲をなせりき、是れに依りて見る時は、彼れは實に綿羊の姿をな

せる狙にして、其心事、其行動共に其基督教徒らしからざるもの也、是れ亦基督教界の名士たり。

片岡健吉氏は、衆議院の議長、自由黨の名士なると共に、基督教會に於ても亦議長に匹敵すべき地位に居り、彼れが政治界に於て尊重せらるゝと同じ尊重を基督教界より得つゝあるもの也、然れども彼れが政治界に於ける行動を見るに、反覆常なく、一として信を置くに足るものなし、彼れは常に代議士たらずと聲言して、代議士となり、議長たらずと稱して議長となり、天下万衆の耳目の集注點にありて公々然として其所信を狂げて平然たり、其圖々しさ彼れの政友たりし故星亨と仝列にありと云ふべし、而も星の赤裸々なりしに反して、彼れの行動は常に誠實の裝の下になさるゝを以て、寧ろ罪深きものありとすべし。是れ基督教に於て莫大なる聲望と恐るべき信用とを有するもの也。

明治學院に井深梶之助氏あり、此人溫厚篤實にして、江原氏の如く利口ならず、片岡氏の如く虚言家ならず、本田氏の如く不得要領ならずと雖も、氏の特長は唯進むで惡をなさずと云ふまでにして、さりとて大に善事をなすにも非ず、唯日々形式的基督教を安全に復習しつゝありと云ふに過ぎず、其胸底火の如き信仰あるに非ず、其雄辯人を動すに足るものあらず、無爲無能、怠りなく其日課を勤めつゝあるの人也、斯の如き人平安なる一教會の牧師として可なるべし、堂々たる基督教會の重鎭を以て目すべからざる也。

以上は基督教界の元老にして又其に無能なるもの也、少くとも今日の基督教界が形式を主とし、形式以外に逸すること能はざるは、其の罪の一事を彼等元老に歸せざるべからざること、恰も政治界に元老あるが爲めに、少なからず國運の進捗を阻害せらるゝが如き也。基督教界は概して人材に貧なりと雖とも、尙青年有爲の人に乏しからず、然れども此等の人は皆老人輩の爲めに其手足を縛せられ、其信ずる所を直裁に行ひ得ざるの地位にあり、彼等にして一新事業をなさんと企つるものあるも、老人輩は直ちに其事の舊き習慣に反するを云ひて排斥する傾きあり、斯の如くなるが故に、青年は唯說教をなし、結婚、葬式の儀式を司る一器械に過ぎざるに至れり、而も青年にして其地位に安ぜずして去らんには、十年の苦學何の益する所なきに至るを以て、徒に老人の鼻息を覗ひ、以て一日の小康を得るに過ぎず、是れ當今の基督教會の青年傳道者の境遇也、其の罪青年に意氣なきにありと雖も、青年の手足

を縛し、青年の口を箝する老人の罪亦少しとなさゞる也。

老人は形式に拘泥し、青年は形式を破らんとす、茲に於て常に兩者の間に暗闘を生ず、今日の基督教會は、今や當に其暗闘の頂上に達せしもの也、更に是れに加ふるに外國人の干渉あり、茲に於て事情愈々錯雜し、容易に解決すべからざるに至れり、蓋し外國宣教師なるものは、生れながらにアーメンを唱ふる一種の迷信者にして、形式と習慣とを除きては彼等に一の信仰心あるなきを以て、彼等は極端に云へば形式なくんば基督教なしとせるもの也、故に此形式を以て日本人に强ひんとするは當然のことゝ云はざるべからず、今日の日本に來り居れる基督教は、基督を中心としての基督教に非ずして、外國の形式を中心とせる基督教也、故に人情風俗を異にせる日本人には一として奇異の感を生ぜしめざるものなし、斯の如き方法を以て日本に傳道せんとするが如きは眞に木に椽つて魚を求むるが如きのみ。

吾人は多くの外國傳道師を見るに平凡無智にして、形式の奴隷たらざるものなし、彼等の知れる所は聖書の講義のみにして、甚しきに至つては、青年がカーライル、バイロン、ゲーテ等を讀むを禁ずるものすらあり、彼等は觀光半分に日本に來遊せるものにして、一として往昔死を顧みず、異邦に道を傳へんとしたる傳道者の態度あるものなし、要するに彼等は本國に於て地位を得ざるものが、止むを得ず日本に逃げ來りたるものと云ふの外なし、彼等に新生命を有するものなく、大信念を有するものなき何ぞ怪むを要せんや。

日本の基督教は、此外國傳道師と、此老人との司配の下にあるもの也、宜なり志あるものゝ滔々相率ひて去ることや、宜なり血氣の青年の不平滿々たることや

故に若し日本の基督教に、今少し生氣を注入し、形式を打破せんとせば、先づ外國宣教師を逐ひ、次に平凡なる老人連を追はざるべからず、今少し活動をなし、生命ある、力ある人物を得んとせば、外國宣教師と老人とを葬らざるべからず。

白髮のある所には平凡あり、平凡ある所に形式あり、形式ある所に僞善あり、已に僞善あり、基督の志なき也、基督の志なし、即ち基督教なき也、今日の基督教は基督教にして基督教に非ざる也。

（完）



海外大勢

故羅馬法皇と世論

レオ十三世の病急に革まりて、遂に簀を天國に易ふるや、各國の諸新聞は爭うて其顛末を報じ、其才德を讃しぬ、之に依て見るも羅馬の法王位は尙、疑もなく世界の舞台に於て、宗教、社會、政治上、共に大なる勢力を有するものなることを知るを得べし、而して其の個人の側よりいふも、レオ十三世の性行は、啻に羅馬教教會のみならず、一般に基督教國の注意を引きたるもの丶如し、ニユーヨークより發する、「イープニング、ポスト」は曰く

神の子孫たる如何なる人も――グラツドストーンも、ビスマルクも――此の最後の法王ほど世人に深き印象を與へたるものなかるべし、二百五十有七の大數を以て算すべき歷代の羅馬法王中に於ても、レオ第十三世ほど開化せる國民の心服を得たるものは稀なるべし。彼は其の卓絕せる精氣に依り遂に九十三歲の高齡に達し、二十五年の在位を保つことを得たりき。レオ十三世が老いて益々壯なるは、吾人をして、伊太利の勇士ダンドロが、百に近き高老の路を以て、能くコンスタンチノプルを滅落せしめたる傳記の、必ずしも妄誕の說にあらざることを、信ぜしむるに足るものといふべし。云々

此の記事たるや、固より「全世界中の最も著大なる組織」と呼ばるゝ羅馬教教會の管長として、更に二億五千万人以上の信徒を總括する法教師として彼れを讃嘆したるに過ぎず、ブルークリンなる「イーグル」は曰く、

誰れか、彼が精神の偉大なると、彼が品性の卓越なるとを疑ひ得るものぞ、世界は既に彼が宗教以外に於ても尙、當代得易からざるの大人物たることを信じて疑はず。

と、ボストン、の「ツランスクリツプト」は、更にレオ法王が社會政策に於ける眞意を評價して、左の如く述べたり。

レオ十三世は千八百七十八年、パイアス九世の後を受けて、羅馬法王の寶位に上れり、當時歷代流弊の餘、法王權は衰微の極に達し、伊太利の支配は、其首府なる羅馬の有に歸してより既に八年の久しきに亘り、其支配權は、羅馬は現世の神なる法王の首府なりてふ說に反對して、羅馬は伊太利國の首都なることを主張せる伊太利人等の手に落ちたりき。レオ十三世は此間に立ちて、一方に伊太利の政府とは和せず又爭はず、他方に僧侶中の有力なる論者と相結托して、其親交を溫むるに勤めたり。

極端なる法王黨は、レオをして急激なる改革を行はしめんと企てたり、されど法王は、衆議を排して極めて圓滑に、而も極めて着實に其

の改革の歩を進めぬ、實にレオ十三世が法王權の利益を圖らんが爲めに、伊の國政に對して行ひたる諸種の改革は、其の即位の初年よりして既に他の企及し能はざる技能を示したりき。特に彼が佛國に對して、法王は共和政治に反對してまでも教會の勢力を擴張せんと欲せざるのみならず、又彼は現に佛國の現政府と平和を維持し來りたることを公言したるが如きは、以て其の手腕の凡ならざることを窺ふに足るべし、然り而して、法王の全盛時代は既に過去に屬すること、俗政府を威壓せんと企つる僧侶は却て之に屈服せざるべからざること、並びに、羅馬市民は僧侶の政治に容喙するを憤れること等は、又彼が烱眼の夙に看破して誤まらざる所なりき。

レオ法王の恬淡にして且つ敏腕なることは、比律賓に於ける僧侶問題に關して、羅馬教會と我合衆國との間に行はれたる交渉に於ても著しく發揮せられたり。彼は徹頭徹尾、僧侶は如何なることをなすも常に無罪なりといふ舊來の傳說に同意する能はざりき、然れども又亞米利加の僧侶が自國の領内に於て、法王の承認權を受くべきものなることに對しては、敢て不同意を示さゞりしが如し。斯くして、レオ法王は終に僧侶無罪說を認むることなしに、彼の權勢を維持し、彼が覇圖を擴げぬ。彼は一大新教國と交渉せり、されど彼が所置たるや、合衆國の人民は、悉く皆彼れの忠實なる教徒なりしものゝ如く、極めて平穩に、極めて懇篤なるものなりき。

之を要するに羅馬の法王權は、レオ第十三世の長き治世に依りて、大に其勢力を回復しぬ。羅馬教會が宗教上有する所の權力は、只斷乎として、衆人の心神を惱ませる疑問に速答するにあり、されば其の言たる、單に「然り」と「否」との二字にありて、彼の曖昧なる語、兩意を含むの語等は、斷じて用うべきにあらず。其の聲たるや直ちに教權の聲なり、而して法王は常に羅馬教會の教長なり。「ニユー、ジーランダー」が幾千年の未來に於て、倫敦の滅亡と、法王權の隆盛とを目擊すべしといひたる、マコーレー氏の夢想は、啻に文章の修飾として輕視すべきにあらずして、必ずや、科學上の智識に依て一の慰籍をも見出す能はざる百万の愁訴者を、如何に熱心に、如何に懇切に羅馬教會が導くかを豫言したるものならざるべからず云々。



露西人「満州」と名くる回轉機を弄す去て又還へる撤兵の意義此の如きのみ

東部亞非利加に於ける獨逸殖民地

二十年前、獨乙の開拓兵は、初て東部亞非利加に上陸し、直に本國の國旗を其處に飜しぬ、當時獨逸は大に海外殖民の必要を感じ、屢々餘分の人口を之に移して、以て生產事業に從事せしめ、是に依て、該地物產の利得を收納し、年々殖民地經營に費す所の八千億マルクを償はんと企てたり、然るに先年該殖民地の知事として、久しく其

地に職を奉ぜし、リユーテナント、フチメ、リーベルト氏は、去る六月の「ドイッチユー、レープユー」紙上に於て、過去二十年間に於ける殖民地の變遷を記し、本國が未だ殖民地の事狀に通ぜざると、移住者が生活狀態の不整頓なるとに依り、從來の經營は殆ど失敗に終りしことを說き、併せて將來の發達に必用なる政策に就て痛論する所ありき、此の議論一度世に現はるゝや、大に獨逸人士の注目する所となり、政府又、前の失敗に鑑みる所あり、今や獨逸は非常なる熱心をもつて、再び之が改革を企つるに至れり。氏は曰く、

そも〳〵此の殖民地の貿易は、從來本國より課する義務の重きに過ぐると、他に競爭地たるザンヂバルの自由港が特に大なる勢力を有するとに依りて終始微々として振はざるものあり、元來此地は最も農業に適し、珈琲は海岸に近き高地に、著しく繁茂し、フサンバラ珈琲及び香氣ある荳類は共に此地の特產物にして、常に市場に山を成せり、土人が他國に向つて輸出する所の產物は此他(一)穀物——其主なるものは「ムタマ」、「マニオック」、荳類、玉蜀黍、及び米等にして其の大部分は印度に送くらる)(二)脂肪性菓物——(其の主なるものは椰子の樹より得る「コプラ」、「セセーム」、及び「ピック、ナット」等にして、之等は皆歐州の市場を賑はしむ)(三)纖維質の植物——(其主なるものは、「アゲーブ、」「ラミー、」等、(四)綿花及び彈力樹膠等なり。)

最初、殖民地を此處に設けし當時にありては、綿樹栽培は收支相償はず、到底成功すべき見込なかりしが、現今は非常に好結果を見るに至れり、リーベルト氏曰く、若し吾人が國內にて消費する多量の綿を此殖民地より供給することを得ば、其の利益擧て數ふべからずと。

農業に關係して、將來此の地の繁盛を圖るべき二個の問題あり、曰く土人の勞働、曰く運輸の利便、即ち是なり。

土人の勞働

リーベルト氏は、曰く、阿非利加に於ける獨逸殖民地の發達は、土人の勞働問題と非常に大なる關係を有するものなれば、先づ此問題を整備せざるべからず、諸種の源因よりして此地は近時人口大に減少し、現今は九十四万一千平方キロメートルの面積中、僅かに六七百万の住民を含めるのみ、而して之等の土人は其家族を養はんが爲め、少なくとも一年に三ルーピー(即ち四、二〇マルク、)の賃銀を得ざるべからず、彼の黑奴の如きも、漸次勤勉なる殖民に化せられて、勞働に依りて賃錢を得んとする、正當なる利慾心を起すに至りしかば、今や是等黑奴をして、盛に勞働に從事せしむることを得べし、此黑奴の利用は殖民地の發達に第一の重要なるものなり、但し黑奴を使役するに際しては、決して虐待すべからず、常に慈悲の心を以て之れに向はゞ、黑奴は良主(アワナ、ムズリ)として政府の官吏を慕ふに至たるべし、之れに反して一度惡主(カリ、ムズリ)なりといふ評判を立てなば、黑奴は直ちに遁逃して、其命を奉ずるものなきに至らん、果して然らば何れの日にか、農業の隆盛を見ることを得ん。

今や鞭韃に依りて黑奴を驅使するの惡習時代は既に過ぎ去りたり、されば政府に於て、是等黑奴をば十分保護監督して、以て益々忠實に、其勞働に從事せしむることは、目下の急務にして、之亦成功の第一要素なりと。

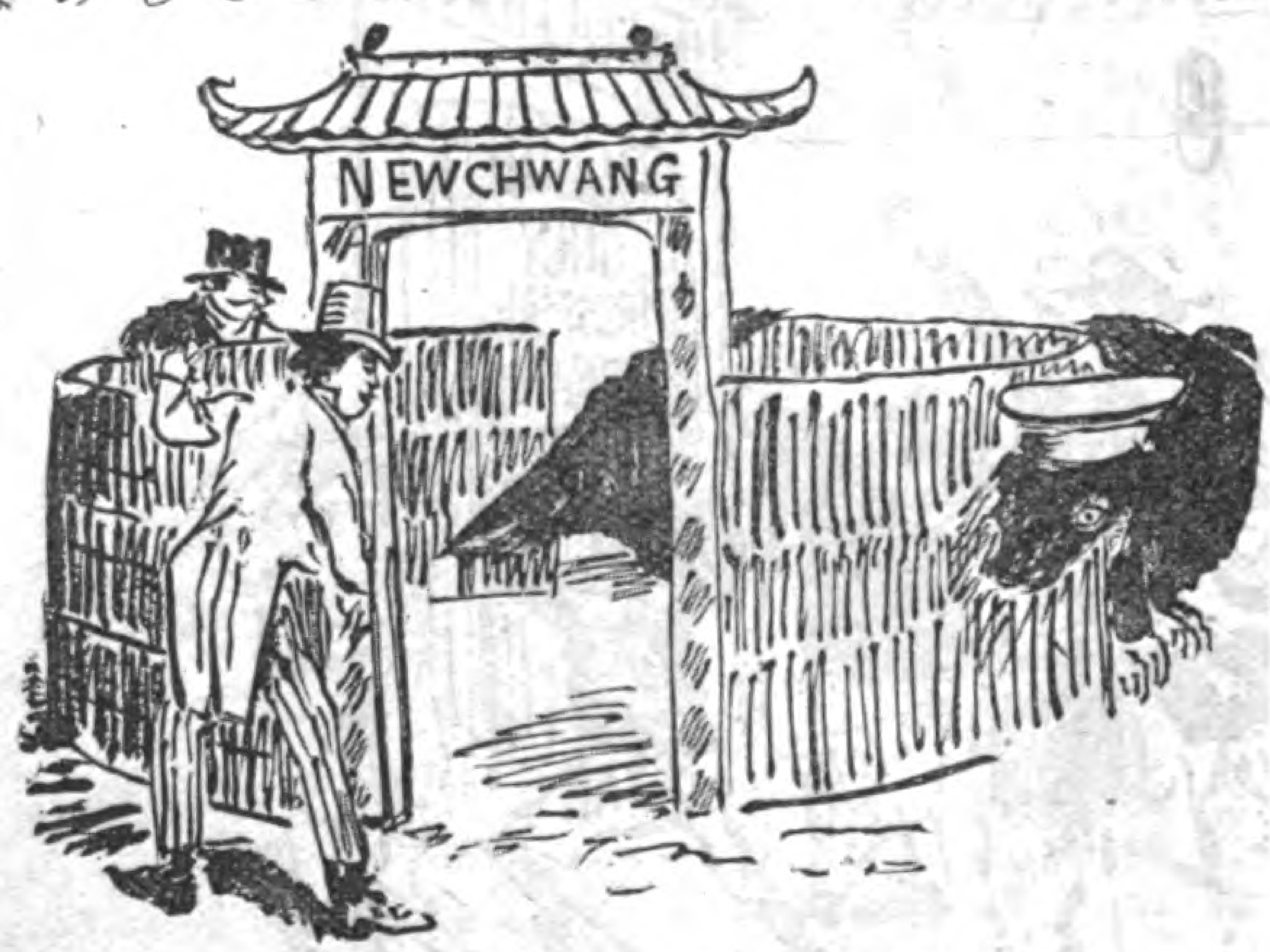
因みに云ふ、東部阿非利加の黑奴は、他地方の黑奴に比して才智の度稍進み、物事を、觀察し、記憶し、模倣をもなすを得、されど論理的の才能は猶全く缺如せり。黑奴は凡て一切の物を二種に區別す、即はち、チヤクラ(食し得べきもの)と、ハベナ、チヤクラ(食し得べからざるも

の）之れなり、近時此地に黒奴學校なるものを設けて、年少なる黒奴を教育しつゝありしが、其の結果大に見るべきものありと。

運輸

獨逸政府は年々道路を改修して、隊商の通運に便ならしめ、且旅客の便を圖りて數多の宿舍を造設せり、されど之等の改良も未だ全く交通の完全を圖れる者といふべからず、何となれば、此地には、もと牛馬の如き勞働に從事する獸類少なく、爲めに南部及び西部阿非利加に於けるが如く、荷車を使用して物品の運搬を計ること能はされば也、現今此の殖民地にて行はれつゝある主要なる運搬法は只土人の擔夫によりて、貨物を內地より海岸に荷ひ出すの一方法あるのみ、然るに黒奴は、時として其の荷へる物品を、途中にて悉く食ひ盡し、空手にて目的の町に出で來ることあり、斯くの如き有樣にては到底商業の繁昌を期すべからず、されば此地の貿易を盛ならしむるためには、先づ第一に、先年計畫し初めし鐵道の布設を完成せしめさるべからざるなり、云々、

海外雜纂



露の熊牛莊より追はれて又廻はり込んで返へらんとするの圖

植物の殘忍性

エム、バーデル、プランヂコート氏は、其の著「コズモス」に於て、或る種類の植物は、殘酷なる特性を有するものなることを說けり、されどこは決して彼の蠅捕草の如き、肉食植物を指していへるにはあらず、是等の植物は人類魚鳥に於けるが如く、自己の營養分を吸收せんが爲め、必用上止むを得ず、小虫を捕へて之を死に至らしむるものなれども、此處に所謂、殘忍性の植物は之と異なり。彼等は捕へたる虫類より聊さかも養分を吸收するにあらず、恰も兒童が蛇や蛙を窘める如く、只單に戲むれのために數多の小虫を窒死せしむに似たり、此處を以て、プランヂコート氏は、之等の植物を、殘忍性を有する植物と名づけたる也。而して之等奇怪なる植物の第一位に算へらるゝものは、植物學者が、「フイジアンズス、アルペンス」と名づくる、彼の弱々しけに見ゆる攀援樹なり、氏は曰く、

「此植物は每年八月即ち夏季の最中に於て花開き、著しき香氣を放ちて以て昆虫を誘ふ、花は鋸齒狀の纖毛を具へたる雄蕋に依つて圍まれたる二重の胚珠を有す、而して之等の纖毛は最初は、極めて柔軟なるも、日を經るに從ひ漸々太く固くなる、今若し一匹の蝶、此花の甘汁を吸はんが爲め飛び來りて、其觸官を花の蜜槽內に挿入するや、觸官は直ちに危險な

る管内に滑り落ちて、釘抜き狹みにせられ、恰も蹄係にかゝりたる鼠の如く、其身遂に花の擒となるなり。

一旦擒にせられたる昆虫は、決して此の殘酷なる植物の許す所にあらず、彼等は遂に觸官を狹まれたるまゝ其處に餓死するを常とす。而して此處に最とも奇とすべきことは、彼の茅膏菜(イシモチサウ)や、蠅捕草の如く、其捕虜を以て自己を養ふことなく、昆虫の死するや否や其觸官の狹みを緩めて之を打捨て置くことにあり。

然りと雖も、斯く數多小虫の此花を訪問することは此植物に取りては頗る有益なる事項なりとす、何となれば、此の花の花粉は甚はだ重くして、到底風媒或は其他の間接方法を以て生殖作用を行ふこと能はざれば也、されば、多くの小虫は一度此花に陥るや、遂に之を脱する能はず、と雖も、猶勇氣あるものは屢々之に抵抗して、容易に其の虐殺を免がれ、再び他の植物を訪ふて、之が花粉の媒介をなすものなり。



○○○オイオイ此戸を開けて呉れ(伯林新聞轉載)

滿州の門上に煙草を吹かせ居るは露西亞人にして下には日英米獨伊人其開放を迫り居る其側らに支那人の泣き居る圖なり

此植物は、カナダに於て產することもあれど、尙ブラジルは其の特產地なりとす、アームストロング氏の報ずる處によれば此植物は時として、勇氣ある蝶蛾、及び蜂雀(ハンミングバード)等の攻擊する處となり、其の花瓣を粉蠹さるゝこと屢々ありと雖、之が爲め其の花粉を諸方に傳播し、却て此の植物の繁殖に非常なる利益を與ふといふ。

北亞米利加には更に他の殘忍なる植物あり、そは「クニカス、ヂスカラー」と呼ぶ薊類の一種にして。プラッチレー氏に依て、大に研究せられたり。此花は總苞各片の内面に一個の大なる腺を有し、其の中に一種の粘液を藏す、此の液が即ち小虫を誘ふもの也、されど其の成分は未だ判明ならず。

或時ブ氏は多數の小虫を此植物の側に放ちたりしに、彼等は皆其の香

氣に誘はれて、爭うて其花の周圍に飛び行き、其足、粘液の捕うる所となりて、瞬く間に、小虫の大部分は花の擒となれるを見たり、捕はれたる虫は、直ちに倒れて死したりしが、其を摘まみ上げし時不思議にも虫は粉末となりてボロ／＼に崩れぬ。

氏は又或時、八匹の甲虫が此の花に集まれるを見たり、其の中の一匹は、足を粘液に溺らせて藻掻き居しが、他のものは悉く、其吸收せる液に依て醉へるが、如き狀をなせり、之に依て察する時は、此花の粘液は昆虫の如き小動物を麻睡せしむるの作用を有するものなることを知る。

吾人はブラッチレー氏以外に此粘液腺を說明する能はず、此の腺たるや、他の植物に往々見る所の膠質毛の如く、害を加へんとする昆虫類を防禦するの作用あるにもあらず、又其の捕獲したる昆虫は其の植物の養分に何等の益する所も無きが如し。要するに此の粘液腺の必用は、現時に於ては未だ審かに知ることを得ず。」云々

昆虫の風船旅行

近頃、佛蘭西に於て、自から輕氣球を作り、其れに乘じて空中を遊行する一種の奇なる昆虫を發見したり、エム、アンリ、クーパン氏は巴里の、「ラ、ナツール」紙上に其事實を記して曰く、

一日、田園を散歩しつゝありし時、輝ける小さき物軆の數多く空中に浮べるを見たり、而して猶能く之を注目するに、其運動は風の力に依て始めて動けるものにあらずして、自から舵を用ひて其の運轉を進めつゝあるものゝ如し、今其の二三を捕へて之を驗せしに、驚くべし、そは皆粘液より成れる隋圓形の小輕氣球にして、其の長さは約七ミリメートル（殆ど四分の一インチ）位なり。其の全形は只一層より成れる小泡沫の集合を以て形成されたるものにして、日光に依りて虹色の反映を示し、各輕氣球には、エンヒス屬の昆虫（熊蜂に似たる蠅の一種）其足をもて附着せり。而して更に奇なることは其の各球內には、何れも蠅の死軆を乘せたることにして、蓋し之れエンヒスが、自己の食用に供するものなるべし。されど之等の輕氣球は水にも、アルコールにも共に能く溶解するを以て久しく保存する能はず。吾人は既に或種類の蜘蛛が、其の分泌したる糸をもて風船を作り、之に乘りて以て空中を飛行することを知れり、されどエンヒスの輕氣球は猶、之等蜘蛛の風船に比して一層輕便なるが如く思はる、云々、

世界を基督教化するの費用

全世界の基督教を維持する爲めに要する、一年の出費は、平均十億弗以上にして、亞米利加は實に其の三分の一、即ち三億弗の巨額を之に費やす、而して之等の驚くべき金額は、殆んど全く浪費として見做すことを得べし、今、「ゼ、セントラル、クリスチヤン、アドボケート」の報ずる所に依りて、合衆國のみの費用分類を示せば、左の如し、

（一）普教の祭壇に要する費用は、三一、〇〇〇、〇〇〇弗、（二）メソヂストは二六、〇〇〇、〇〇〇弗、（三）プレスビテリアンズは、二〇、〇〇〇、〇〇〇弗、（四）エピスコーパリアンズは一四、〇〇〇、〇〇〇弗、（五）バプチストは一二、〇〇〇、〇〇〇弗、（六）救世軍は七五〇、〇〇〇弗なり、之に加ふるに猶、教會の監督に要する費用を以てすれば、（七）建築事務の出費二七、〇〇〇、〇〇〇弗、（八）孤兒院の出費二八、〇〇〇、〇〇〇弗、（九）教育事業に要するもの、二一、〇〇〇、〇〇〇弗、（十）日曜學校に要するもの七、〇〇〇、〇〇〇弗なり。

教會制度の發達と其の財産高とは、比較に依りて明了に説明することを得べし、一千八百年には、合衆國全体の教會數二千三百四十個ありて、其の財産の總額は一、五〇〇、〇〇〇弗なりしが、現時は教會の數十一万八千四百八十一個に上り、其の財産實に七二四、九七一、三七二弗に達せり、而して之等の增加は決して基督教が利己的所爲の結果を示すものにあらずして、皆之れ熱心なる基教徒が世界の神たる耶蘇基督に對して、正當に拂ふべき仁慈と歡喜の心より出でたるものに外ならず。

五十年前、吾人は全世界の教會事務に要する費用が、僅かに現時の半分、即ち五〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に過ぎざりしことを見たり。而かも現時の一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗は、將來に於ては。又必らず不足を來すなるべし、何となれば基督教の發達すると共に、其費用も亦增加するは止むを得ざるの事實なれば也、云々。

公園の共同椅子

▲世界の公園　たる瑞西には外國人の建てたる別莊及普通家屋總計三十八万五千戸有り

▲骨牌の專賣　法に依つて、伊太利政府の一年收入額八百万圓に上る

▲比律賓群島　は年々癩病患者增加の傾向あり、現今各島に散在せる全病患者一万二千人に上る

▲色盲患者の　世界各國中最も少きは支那人にして、同人種中には殆んど全患者を發見するを得ず、歐米其他文明國民中には總人口の四分は同患者なりと稱せらる

▲蝸牛を食用　として喰ふこと最も多きは佛蘭西人なり、現今巴里にての時價蝸牛一千個に就き三圓七十五錢

▲駄馬は普通　の馬よりも價貴し、英國にては通常一頭に就き馬よりも二十圓高し

▲英國にては　柳の樹が最も輕き植物なり

▲白楊樹にて　製せる燐寸、近年露國、特に芬蘭地方より輸出し、漸次歐米に勢力を得つゝなり

▲喜望峰より　埃及のカイローまで、阿弗利加縱貫鐵道完成せられ、其長さ二千九百哩に上る、途中バルワヨの地點にて海拔四千四百六十九呎あり、これを同鐵道最高の地點とす

▲印度は道路の完全なる國なり、碎石を布きつめたる一等道路の世界最長なるもの全國にあり、則ちラホールを起點として一千八百哩の長さに達す

▲希臘の道路　は普通一ヤードの四分の三に過ぎず

▲男子の戸主　英國にては其八割を占め、他の二割は女子の戸主なり

▲蹄鐵の製造　に從事せる女工、千零四十四人、針の製造に從事せる女工、七百三人とは、ウオーセスター市に於ける最近の統計なり

▲世界第一の　大なる豌豆畑は北米合衆國南カリホルニヤに在り、一千五百エークルの大農組織、悉く豌豆を殖ゆ、每年此畑に蒔くべき豌豆の種子四十噸を要す

▲北米合衆國　にて穀物耕作の爲にのみ使用せらるゝ土地、英蘭土、蘇格蘭、愛蘭土、白耳義、和蘭を合併したる面積よりも猶大なり

▲地球上の人　類が日にするバタ一年二百六十四萬封度に上ると算せらる

▲紙類の獨逸へ輸入するもの一噸に付き四磅十五志の輸入税を徴せらる

▲獨逸より外國に出稼ぎするもの、千八百八十三年には一年十七万一千人に上りしもの、千九百年には減じて二万一千人となれり

▲最近のセンサスにて、ニューサウスウエールスには百才以上の者十六人有り其中の最年長者百十三才

▲實價八百万圓の甲鐵艦を作るに、其三百五十万圓までは職工の賃金に費やすとは、英國に於ける各造船所の實況

▲豫告▲

帝國の外交益す多事我社は次號より**歐人の眼に映ずる極東の風雲**に就て汎く歐米の新聞雑誌より其材料を蒐集し他に比類無き周到敏活の報道をなさんとす世界の列強が如何に極東の時事を見るかを知らんとするものは乞ふ我誌次號よりの本欄を讀め



中學罵倒論

青柳有美

▲第一段　中學教員

われ中學に行けり。行ひて而して中學教員となれり。頂戴せるところの月給、辱くも無慮五十五圓にして、『總理大臣……宣』の辭令を授けられ、一郡を支配すべき印綬を帶ばしめられ給ふ郡長様よりも價の高きこと一ヶ月五圓。あゝ、是れ實に身に餘る光榮ならずや。中學教員は此る光榮ある職業なるが故に、天下を擧げ沛然として之を欽仰し、世間の父たり母たるものゝ、願くは長ずるに及んで其の男の子をして中學に先

生たらしめんといふ、又宜なる哉。

されど、悲哉、中學は人間の塵棄場なり。中學先生は社會の塵芥なり、もし、自から強ひて活世間に出でなば、たゞ人に履まれ人に唾せられんとするものゝみ、即ち走りて中學に入り、その先生となる。われ又實に此くの如き鼠輩なるを以て、中學教員の職を奉ずること、實に八ヶ月に餘るの幸を得たり。

われの中學校舍に足踏み入れたる第一日、職員會議なるものあり。即ちこれに列せんとして會議室に至る。至りて愕然自失することと稍々時あり。蓋し一坐の面々其二三者を除くの外、悉く人間の血相あるもの稀にして。概ね皆な生けるミーラなりければなり、其顔面を纒へる筋肉には、津々たる活力の宿る無く、たゞ疲勞と絶望との色を浮ぶるに過ぎず。是に於てか、まづ我れ以爲らく、中學教員は夫れ生存競爭の劣敗者なる乎と。

然り、中學教員は生存競爭の劣敗者なり。人間の去勢せられたるものなり。それ活社會は競爭激甚にして意氣なく活力なき者の生存をゆるさず、忽ちにして其のパンを奪ひ其身を疲れしむ。されば、この間に立ちて口を糊するに足るべき好收入を得んこと、丈夫と雖ども又實に難しとするところなりとず。況んや、意氣なく活力無き輩に於てをや。

教育は幸にして神聖なるものなり。支那歷代の後宮の如くしかく神聖なるものなり。後宮に入るもの宦官ならざるべからざる如く、教育界も又人間の去勢せられたるものを歡迎す。即ち、活社會に出でゝ活專務に當れば僅に十五圓の收入だに得難きグズ〳〵の鼠輩も、中學先生となれば一躍卅五圓乃至四十五六圓の高給を辱ふするは、甚だ易々たるなり。蓋し、教育界は人間活動の自由を束縛するを以て、學才ある有爲の人物のこれに入らんことを希ふもの少なく、爲に需要の供給を越ゆる誠に甚しければなり。而して思へ、かく自由を束縛せらるゝは、去勢せられたる如き人物に非ずんば、到底忍び難きことたるを。

かくの如くにして既に自由を賣るを敢て意とせざる人物のみなれば、多くの中學教員には別に理想あるに非ず、又熱意あるにもあらずして、其脳中常に畫くところのものは『如何にせば月給の上ること更に五圓なるを得べき乎』の一事にあるのみ。素より生徒を薫陶して之を發達せしめんとするが如き眞面目なることに留意せず、生徒に對しては、唯偏に人氣を取らんとする

にのみ日夜汲々たり。時には其喝采を博し其愛顧を蒙らんとして、諂問類似の擧動を生徒の面前に敢てするまでに至る。其醜態眞に唾すべき哉。

されど、又一方には切りにたゞ虚勢のみを張りて教師の威嚴を維持し、以て生徒に臨み其輕侮を防がんとするに鋭意するもの無きに非ず。かの烏賊の類を知らずや。其躰軀柔軟にして自ら我が力によりて敵に當る能はざるが故に、巧に黒汁を吐き敵をして容易に近づくに難からしむ。中學先生は其身また實にこの烏賊の如きものなり、別に鍛錬せられたる品性の鞏固なるありて、生徒の心を動かすに足るに非ず、又敏活なる智能才力のあるあるにも非ず、所謂生存競爭の劣敗者なれば、其實力によりて生徒を壓倒せんとするは、甚だ難しとする處なり。是に於てか、烏賊の黒汁を噴くが如く、可笑しきまで高くトマリて己が權柄を示し、所因なき些事のためにも漫りに生徒を叱し、絶えず之れを責めんとす、かるが故に中學先生の生徒を叱し責むるや、これ其生徒の品性を改善し智能を陶冶せんとする難有き心よりするに非らずして、たゞ生徒の輕侮を恐れ、これを防がんとするが爲めのみ、寸毫の誠意だも遂に其間にある無し。是に於てか、生徒は先生に叱責せられて愈々ネヂけ、益々先生の教訓に敬意を拂ふこと少なきに至る、何ぞ怪むるに足らんや。

又、中學先生は總て尻の穴の小さきものなり。既に活社會の競爭激甚なるに恐怖し其『神聖』の二字を冠らせらるゝを奇貨とし、教育界に逃れ隱れ、寢るにも起るにも、たゞ〳〵『如何にせば月給五圓アガルことを得べきか』を後生大事のお題目として念じ唱へ居る人々のことなれば、其觀察範圍頗ろ狹隘にして、人間活動の餘地が天地至るところにあるを思はず、その所屬學校なる小社會に跼蹐して、この間に充分の『成功』を收め、其間にハバを利かせて得々鼠輩に誇り、月給の可成速に昇ること五圓ならんことを欲するが故に、切りに有力なる同僚を排斥して我が朋黨を作り、傍ら校長の御覺え目出たからんとするに全力を注ぐ。是に於てか、教師仲間に對しては、恰も校長に疎外せられつゝあるが如くに吹聽し、且つ又その校長を罵倒するなどの狂言を演じて彼等の同情を買ふに力むるも、一たび身自ら校長の御前に出づれば『校長サン……へへへ……へ』などと米搗バッタ然たる敬意を表してこれに媚び、三太夫もなほ恥づべき醜さを敢てす。又この種の輩は萬遍なく絶えず同職の間を歴訪し、彼等

の自らに對する愛憎と觀念との如何なるかを探偵し、これに應じて種々の離間策と中傷策とを講す。又時々事務室に往來して、豫算の都合及縣廳よりの命令等を探知し、これによりて、或は旅費を分捕りし或は榮進の計をたつるなど、其醜躰實に笑ふべきものなり。

かくの如き末事に其日と時とを消費するが故に、中學敎員の多くは、千年を經萬年を隔つるも、依然として呉下の阿蒙たり、自らの品性を向上せしめ智識才能を練磨せんとする心懸けの如きは、到底これら先生輩の胸中に見出し難きところなりとす。曾て師範學校に始めて敎諭となりしもの、われに告げて曰く『敎諭にして新聞を手にするも、絶えて社説を讀むもの無し。たゞその目にするところは三面記事のみ』と。されど、中學先生の多くは三面記事を見るだに、なほ且つ之れをウルサシと爲すもの丶如く、新聞代の爲めに毎月賦課せらるゝを物憂く覺ゆるに似たり、されば、その曚昧にして世間の大勢に通ぜざること實に夥しく、これと談じて趣味ある如き點、素よりこれ無し。

その共に相會して飲むことあるや。話題は生徒の批評に非ずんば、婦人談なり。されど、その婦人談も世の美はしき乙女子將た唄女などに及ぶ能はずして、たゞ互に其妻に就て談るのみ、即ち妻の姙娠出産の經過等を談るのみ、あゝ！中學敎員は他人の妻に就てだに談る勇氣なきものなり。あゝ、たゞ己が妻のノロケを臆面なく吹聴するのみ、况んや如何にして時事を談じ文藝を談じ、以て樂むことあるを得んや。

此くの如くにして修養の精神乏しきが故に、實力によりて榮進の道を計らんとする如きは、甚だ難しとするところなり。是に於てか、轉任によりて其度毎に一級を昇せられ、以つて榮進の謀をなさんとするに鋭意し、その果して敎員營業なるか將た轉任營業なるか、人をして容易に伺ひ知るに難からしむ。この種の轉任營業先生は、概ね妻子を故國に殘し、可成遠距離の地に轉任し、普通旅費に二倍する赴任旅費を受け、舊任地よりは一日附の解職辭令によりて其月額俸給全部を收め、又新任地よりは同月二日附の拜命辭令を受けて又その月の俸給を受取り、一ヶ月の俸給を二重取と爲し、以て懐を肥し、恬然恥づるの色なし。更に甚しきものに至りては、夏期講習に出京して其旅費滯在費を取り、その間に轉任運動を爲して首尾よく轉任し、改めて前任地より新任地までの旅費を請求し、その上一ヶ月の俸給を前の如く二重取りにするを敢てするな

り。大凡そ今の世に於いて金錢に穢きことと中學先生に如くはなし。最近中等敎員の轉任昇給に關する文部省令の出でたる實に止むなきなり。

又中學敎員中にありても、殊に野卑にして意氣地なきは、免許狀を有する正敎諭なり。中等敎員免許狀なき所謂雇敎師のうちには、間々奇骨あり氣慨あるものなきに非ずと雖ども、その免許狀を所持しつゝあるものは『別に金を取る術も無いから……まづ……試驗でも受けて免狀でも取り、中等敎員にでもなりて、食ふに困らぬ工夫でもして置かうか』との、弱き觀念より受驗せしに過ぎざるを以て、其精神の萎靡して振はざる又所因なしとせじ。されど、校長の愚鈍なるものは、人物及勞力を鑑識する力なく、且つ生徒の父兄ッケをよからしめんとする淺薄なる心より、多くは此くの如きヨタ／＼正敎諭を雇入るゝを常とす。されど、生徒の眼中には、たゞ『先生』あるのみにして、免許狀なく又雇敎師無きを以て、其の實力によりて最も能く敎員を否定するものなることおかしけれ。

われの中學先生となるや、既に長くこの職にありし一友人、遙に書を寄せて曰く『君、何故に好んで中學校に敎師たるや。余の如きは實に中學敎師の耐僧に愛憎づかしを爲して、將に正業に就かんことを心懸けつゝあるものたり』と。然り、中學敎員は正業に非ず。これ幇間の業なり。詳く言へば、中學敎員は校長と生徒とに幇間の任を盡さゞるべからず。又中學敎員は小人の業なり、離間中傷を職とせざるべからず。又、中學敎員は詐欺師なり、月給の二重取をせざるべからず。然り／＼、中學敎員は生存競爭の劣敗者なり。生けるミーラなり、人間の去勢せられたるものなり。

（▲第二段　中學校舍）

不景氣難

上

斯波貞吉

近來商人として不景氣々々々の嘆聲を洩らさないものは無い、併も時を逐ふて其嘆聲が益甚しくなるやうである。若し之が實際であるならば實に憂ふべきことである、しかし多くの人は不景氣の聲を聞飽きて居る、假令實際であるにしても致方のないと想ふて居る、隨ィ眞面目に其原因を探らうとか、又は之が挽回策を講じやうとか、心配するものは一人もないやうであ

る、默つて居て好況が來るものならば論ずるまでもないが、然ることは無論望み得られぬことである、望み得られぬとしたならば大に研究を要することゝ思ふ、其所で實際の商況は何うであるかと云ふに、勿論正確に之れを知ることは出來ぬけれども、色々の事實を總合して見ると、容易ならぬ不景氣であることが分る、手形交換高が增加せずして手形不渡高が益多くなる、外國へは金貨が續々流出して行く、一方に銀行の預り金は大に增加して動かぬ、一般商人に通貨の不足して居ることは明かである、目拔の大通りに貸家札が續々張られる、正札附掛直なしの立派な商店が平氣で直段を負ける、或る店では捨直賣が始まる、中には押賣をするものもある、或る勸工場に店を出して居る人の話に、此八月に入つてから、凡そ一週間に僅々十一錢、即ち平均一日に一錢五厘の品物を賣り得たのみである、如何に頃日の暑さとはいへ二月八月は商人の最も閑な時であるとはいへ、此樣な不景氣は、二十年來曾て經驗したことがないといふことであつた、更に或る人の話に據ると、之はまだ良い方である、中には十日間も二十日間も一品を賣らないものがあるといふことだ、今年の暑さて諸方の溫泉や海水浴が非常に繁昌する所を見ると、不景氣といふ考は浮ばないやうである、しかし裏面から開くと、燒けで高利の金を借りて飛出すのであるといふことで、其證據には錄な商人は出掛けぬといふ話だ、丁度不景氣の時に、芝居が大入りであると同じことであるといふに至つては驚かざるを得ない、之では不景氣を過ぎて殆んど狂亂の沙汰となつて居るのである、甚だしいのは、一錢でも二錢でも現金を握つたら離さないと覺悟して居るものがある、此樣な商人は最早損益を眼中に置かぬもので、商人が損益の計算をしないに至つては、不景氣の極端である、果して此通りであるとしたならば、實に激しい不景氣である、殆んど恐慌の狀態に在ると云つて差支ない、そも此不景氣は何から原因したのであらうか。

◎不景氣の原因

今日まで、不景氣の原因として數へられて居るものが澤山にある、戰爭以後種々の事業勃興したからであるとか、資本が固定したからであるとか、內閣が動搖するからであるとか、戰爭を氣構へ居るからとか、物價が騰貴するからであるとか、いふのである、此等は確に不景氣の一因となるべきものに相違ない、しかし今

日の不景氣は一時的のものではなく、已に今日まで久しく續いて、尙今後も徐々に其度を增して行く可き傾向を示して居る、としたならば一時の現象から來たものでなく、別に大なる原因がなければならぬと想はれる、余輩の考では其原因は二つある、即ち

一、人口の著しく增加したる事

一、生活程度の大に進みたる事

此二つであると想ふ、人口の增加することは極めて明瞭である、每年吾邦の人口は五十万人宛も增加するのである、之に對して海外へ移住するものが僅に二万に足らない、即ち每年四十餘万の人が殖えて、其割合に富が增加しないとしたならば、吾々日本人の富は年々多くの人に分配せられて、平均一人の富は益減少するのである、四千万の人口に五十万の增加即ち一分二厘餘の增加は、左程驚くに足りないと云ふ人があるかも知れない、しかし之が商人には驚く可き影響を與へて居る、何の樣に影響したかと云ふに、僅々十數年の間に百二十万の東京の人口が百七十万に、五十万の大阪の人口が七十万に、其他の諸市も同樣の割合に人口が增加した、此の如くに都會の人口は、少なきは三割多きは一倍の增加を爲したのである、全國の人口より云へば平均一分二厘餘の增加であるが、市街は數年の間とは云へ、少なくとも三割餘の增加を爲したのである、隨て商人の數が著しく增した、而して通貨は更に增さないのであるから、自然の結果として競爭が激烈になつて、尋常の手段では商人が利益を得られぬ樣になつた、智慧もあり熱心に其業を勵むものは稀に競爭に勝つことも出來るが、多くは困る許りである、中には奸策を廻らして一時の利を得んとするものも出來る樣になつた、詰りは信用を害して益困窮に陷る、其中に居て困らぬのは、專賣的の商業を營んで居るものゝみである、そこで金の有る人は飽迄金が殖える、一般商人は、少ない富を次第に多くの人に分配しなければならぬ樣になつて來た、此の如きものが今日の有樣である、即ち不景氣と稱するのは、都會の人口が著しく增加した自然の結果であつて、今後益人口が增加するに從ひ、不景氣は益々甚しくなるに違ひないと想ふ、又人口の增加が商人のみならず、如何に多くの人を困らせて居るかと云ふことは、比較的少數の人を要する種々の職業界に於て、競爭の激しくなつたので分る、例へば官吏にしろ、會社員にしろ、敎員にしろ、辯護士にしろ、或は又醫者の如きものにしても、之に志さす人

が容易に其業に就くことが出來す、假令其職を得たにしても安逸なる生活を送ることが困難になつて來た、即ち人口の增加は商業界のみならず、次第に孰れの社會にも影響を與へるのである、只今日に於ては商業界が最も早く、而して最も甚しく影響を受て居ると云ふのみである。

夫から生活の程度の進んだことも、甚しく商人に影響して居る、一般の生活殊に食物に於て甚しく贅澤になつて來た、最も著しく贅澤になつたのは田舍の人である、昔は米の飯を食べたことはない、甚しいのは臨終の時に鳴米の音を聞いて滿足して死んだと云ふのもある、稗だの粟なんどを食べて甘んじて居たものが、米の飯を食べる樣になつた、是は統計を以て示すことは出來ぬけれども、米を食ふものが殖えることは、年々輸入米の增加するのを見ても分る、昨年の如きは米が輸入品中に於て最も多額を占めて居つた、內地に於ける米の產額は減じても多くならず、米を食ふ人は年々に殖えるとしたならば、輸入米が年々に增加するは當然である、又其他の食物が贅澤になるのは、善く言へば衞生思想の普及かも知れないが、之が爲めに生活は益困難になる、歸鄕する兵士などは大に此贅澤を助けて居る、時事新報の慈善旅行なども惡いとではない、其旅行記事を讀むと、貧民の兒童が望外なる饗應を受けて喜ぶ樣などは、實に淚が零れるやうである、しかし之が爲に間接の弊害が生ずるのである、一般人士の贅澤が增すのである、子の爲に罪惡を犯す親が出來るのである、贅澤は如何なる場合に於ても進み易きものであるが、曾て外國と交通しなかつた吾邦では、各其分に安んじて、贅澤は槪して一局部の人に限られ、贅澤する力があつても出來ぬやうになつて居つた、それが今では何んな贅澤でも自由自在に出來るやうになつて、外國の限りなき贅澤までも見傚つたのであるから、恰も堰き止めた水を流したやうに、非常な勢ひで贅澤が進んで來た、贅澤をして居る人から見ては分るまいが、餘所から見たら此十數年來の贅澤は、實に驚く可き進み方であらうと想ふ、其結果生活が次第に苦しくなつて來て、今まで百圓の月收で滿足な生活が出來たものが、二百圓でも慣れな生活しか出來ぬやうになつた、頃日は勤儉貯蓄といふことが流行する、實に月給取などは勤儉貯蓄より外に仕方がないのである、しかし商人などは迚も勤儉貯蓄などで追付く話ではない、資本は益多くを要する、利益は次第に薄くな

る、そして生計の度が高くなつたので、如何とも致方のない境遇に陷つたのである、唯一の手段は商賣を止めるに若くはないと云ふ有樣なのである、而して世人は此の如きものを稱して不景氣と言つて居るのである、假令露西亞と戰爭が起らぬと定まつても、内閣が動搖しなくなつても、此不景氣は容易に挽回せられないのみならず、益す其度を高めて行くことは明かである、若し此不景氣を挽回しやうとするならば、先づ其原因を除くか、然らざれば他に非常なる手段を考へなければならぬ、サテ其挽回策はどうしたものであらう

（以下次號）

中央亞細亞探險記　二

四月廿七日　庫車にて　渡邊柞原

堀晩雪

四月十二日則ち博士の一行に遇ひ、翌日、輕裝してミンブラックに向て發す（ミンブラックは土耳古語千泉を意味す、是纏人の與へたる村名にして、土人は此村をカインと稱す、カインは樺樹を意味す）途はキジル河を渡り、其右岸に沿て東北に進む、行くこと二十清里許りにして、途の右方のクリツフに一のコウナシャールを見る（古城なり）、十清里を行きて一川西北よりキジル河に來り會するものあり、此の河床に沿ふて行けば、突兀たる岩石千態万狀、其山巓に立つものは、城岩の如く、或は倫敦城の如きあり、其遙か霞に立つものは恰も廣東邊の支那船の席帆を眞帆片帆、沖間一抹の霞の內に入る如きものあり、或はポンペーの發掘せられたる法庭の柱礎林立せるが如きあり、或は將に怪漢タクラマカンの砂を一簸せむ門出に其脚を安むる風神の榻子の如きあり、或はアヤソフイアの柱の如きあり、一奇を迎へ、一怪を送りて行く、而も其赭色の岩面に鹽分凝結して、白色の橫線を劃し杉材の木理整然たるが如きあり、キジルより九十清里餘を行きて、小さき分水嶺なる坂を越へ、カイン莊の平野に來る、水東流してキジル河に入る、露版の地圖及スウヘンヘデンの地圖此の邊を說明指示するに不十分、誰人も亦此の山中に如斯凡百數十清里の廣袤を有する平野あらむとは想像せざる可し。

想ふに西域圖考の

武后垂拱中突騎施烏質勒方强拓三國北爲沙陁州再北

則爲突騎厥十姓可汗也

の沙雁州と云ふもの又宋歐陽忞輿地廣記に

過大龍峪千佛洞(キジルのミンウイカ)踰嶺至突騎沙

雁州西至撥換城由北山口二百里

の沙雁州と云ふもの是れ則カインの地を云ふならむか此村に四百の家ありて、二人の百人長(イズバシ)、一個の市(バザー)あり。

十三日四十餘清里を北に進んで、所謂烏壘碑のある所に至る、此碑はアルチンクス山とウヲスゲラゲン山の深谷(ゲー)より流れ來る一河の右岸の岩面に刻せられたるものにして、其文面蝕剝して明了に讀むを得ざるも、龜茲左將軍劉平國の始めて岩を斷ち伊犂に通ぜる此の道路を拓きし頌德の碑なるが如し、されば漢朝烏壘都護の古蹟を此地方に發見し、清人間の古説を一變せむの豫想は失望に皈しぬ、然れども猶清人の何か故に之を烏壘碑と呼ぶや、是一の疑問なり、但し此碑は距于今廿五年前の發見なりと云ふ、カイン莊に洋裝したる者の到りたるは生等を以て始めとなす。

此夜を百人長の招きに其家に投じて、石炭の火に暖を採る、此地方石炭多く、驢一駄の石炭日本貨の四錢を價す、而かも其質良好にして、夕に焚きしもの曉に至りて猶盡きず、釋氏西域記に龜茲國の石炭を説く亦宜なりとす。

十四日此莊を出發してキジル莊の皈途に就く、途上キジル河右岩のコウナシャル(古城)を見る、是れ古城趾に非らずして千佛洞なり、風と水とは千餘年の間其嵓角を破壞して、佛洞の多は崩落したれば、現今完全の洞として存せるものは僅に八九個に過ぎず、其洞中にはキジルのミンウイの繪畫と同しき畫あり、此村はキジル莊中の小村にして、其名をタイタイトラと稱し、亦テットラーと呼ぶ、此の岩角の麓に多くの柱礎存じて、古昔僧房の連りしを證せり、此古趾に佇蹄徘徊暫くにして、暗を踏んで、キジル莊のセライ(木賃宿)に皈る。

十五日キジル河の如何にムザート河に合流するかを見んとて、キジルの流に沿ふて行く、ムザート河に入りてより水馬腹を浸し急瀬眼暈を起したりき、水路行く可からずとの土人の言に、僕モミンは生等を案じて、跡より馳せ來り殆ど馬と共に溺れむとせり、蓋し彼の馬は生等の馬より小なればなり。

ミンウイに着し、余は直ちに佛洞に詣しぬ、洞室の多くは崩壞して、其の完全に存する者は土人の牛小屋なり、糞臭紛々、或は土民冬季の住家となり、煤烟其燦爛たる壁畫を黑沒し了り、魏唐佛敎の靈蹟の今日、佛

徒の一人之に詣する者なく、一吹の香は千餘年間其佛前に燻せず、一句の法音は千年の久しき此のミンウイに響かさりき、思ふて玆に到れば浩慨に堪へず、一の繪畫なき素質の構造せる洞室に入りし時、思はず洋靴を穿ちし儘砂上に跪坐して、光顏巍々の偈を誦しぬ、此時洞下に聲あり、瞰下せば二人の土人一頭の馬に騎りて、生等の馬の爲めに苜蓿艸を得むと、其草の貯藏しある佛洞の一に行く者ありき。

四月十六日より廿二日迄一週間、晩雪生は此地方の地形測量に忙はしく、余はアルバインロープと梯子とを携へて、佛洞に入りて佛繪の臨寫に晷を吝めり、其の終りの二日間は人夫を役して發掘にかゝりたり。

生等のミンウイに着せし時、猶蕾なりし桃杏は滯在の三日目に既に綻ひむとす、此デザート地方の邊邑咲きし櫻はなけれども、駒繋く桃花あり、柳、白楊樹亦青芽立ちて、紅綠青水古洞の燦爛たる丹青と相映し、一幅の畫景を描出しぬ、如何なる詩人そ、此古佛蹟の春をや其句にせむ。

洞室の數は約二百にして、生物的繪畫を好まさる回徒は、悉く佛菩薩の面部を毀剝したれば、完全に存する佛畫一もこれなし。

此の古佛洞の地に七日間生等の滯在は、其水白柳綠の間、古洞陰暗の影に終日春光を浴ひ、一の佛洞に入りて、其古の熾盛を想ひ、他の古窟を窺ひて今日の衰運を嘆し、或は壁畫を寫し、或は鋤を提けて舊室を發掘して、其餓へし時は寓居とせし閑散の民家に皈りて、羊飯を大牢の美味と稱し、其疲れし時は狗子と戲れて桃杏の花下に坐し、或は千佛洞の山頂を跋涉して、滔々として河身の磊石を流して、轟々たる渭干の蜿蜒たるを見、此河身より突兀千古に嶄く壁立したるチユルタツグ山を眺め、又遙か西北の方は、カインの山、バイ鎮の山脈、或は淡く或は暗く、四方の景物宇宙の大景を顯はすを望み、不識の間、自然の呼搏を感ずるの想ありき。

之を要するに、千佛洞に於ける滯在は、閑散優々鋤ッカム外世事を知らさる村夫子の如く、時に或は白雲綠水に其神を洗ふ仙骨の如く、最も無我に近き生活をなしたりき、此生活や故國肩摩轂擊の紅塵中に埋沒する都人士の想到する所に非さるなり。

七日間佛洞の研究の結果と、其發掘せし少許の物とは、素より世に示すに足らさるも、復一二學者の研究に資するに足らむか。胡桐の筏を作りて渭干の流に浮ひ、

柘厰の關、白馬の渡(?)を觀て、沙雅原の里に到らむ生等の計畫は、土人の忠告にて之を廢し、四月廿三日亦もや鞍に倚りて住み慣れしミンウイを立ち出てゝ、四十七哩半を行き星を戴きて庫車に着す。

西藏觀察談（二）

（西藏の商業及社會狀態）

河口慧海

隊商の食事

一躰行商の人が肉を食いますに三斗も這入るやうな大きな鍋がありまして其中に肉をどッしり入れて煮ます、(手にて示し)此位の大きさの七八寸或は一尺もあるやうな肉を其儘鍋の中に入れます、骨の中の所謂脂肪が出て之が大變旨くなると云ふことでございます、それを煮ますには水で煮て其中に鹽を入れます、煮上がると斯んな大きな肉に肉の塊りを一々手で取りまして自分の持つて居る庖丁で切ッて食べます、それは羊肉もございますが毛牛(ヤク)の肉が多いのでございます、大抵は山羊の肉で羊肉は大抵一週間に一遍五日目に一遍位しか當らぬさうでございます、又都會の地に出掛けますると豚の居る所ならば豚も食ひます、僧侶は豚を食べませぬけれども大抵普通の商人ならば食べます、さう云ふやうな順序で先づ肉を食い運動しつゝ往きますから雪も降らず風も吹かず何もさう云ふ障りがございませぬければ左程辛いことがありませぬけれども、雪が降り寒くて手が屈ッて伸びない餘程摩擦をして漸くのことで手が伸びるやうになッて來る、さう云ふ風(かぜ)な所で荷物を拵へ掛ッて居りま　ると若し手でも屈で(形容にて示し)斯う云ふ風にして居る所を親方に見られると、馬を打つ鞭を以て其手を擲り付けられる、(大笑)手のみならず顏でも何んでも撰ばずに擲り付ける、所で其擲られた痛で却ッて手のカジカンで居ッたのが解けるさうであります、皆擲られて却ッてよいと云ふやうなことを言ッて居ります、親方が見廻はりに出てゝ來ると今迄ブル／＼顫へて居ッた者が仕事の出來るやうになるさうでございます、それ位冷たい困難な中を行かなければならぬ、其上に雪でも降ると堪りませぬ、或は風が吹いたりすると溜りませぬ、風が吹くとか雪が降ッたときは逗留して居る時なれば宜しうございますが、道を歩るいて居る時に雪が降り風が吹くと

云ふ目に遇ッたときはとても日本では想像の出來ぬ困難であるさう云ふ中に天幕を張らなければならぬ、隊商も中々困難な仕事であります。

西藏の輸出入品

其荷物を運搬するのは何處から運搬されるのが多いかと云へば、印度地方と支那地方から運搬されるが最も多い、其地方から來るのは茶でございます、此茶は支那政府が多くの税を掛けまして、さうして西藏に賣付けるのでございますさうでございます、西藏では中々茶は高いものでございます、一斤と云ふのは塊りで長さは九寸位で横巾は六寸でございます、厚さが三寸位でございます、丁度二斤か二斤半位あらうと思ひます、それは番茶でございます、番茶がさう云ふ風に固めてあります、是は拉薩府で十タンガーで買へますから、十タンガーと云へば一タンガーは二十四錢でありますから十タンガーで二圓四拾錢でございます、西北原は十五タンガーでございますから三圓六十錢位になッて居ります、支那地方から輸入される物は絹類等は隨分澤山參りますけれども、是は茶に較べますれば少ない、どれ丈の荷物が支那から西藏に這入るかと云へば不明瞭でございますが拉薩府に着くだけの茶でも大したものでございます、大抵三万圓か四万圓位取扱ふ商人は十六軒ございます、是は西藏の財政にしますれば大きなものでございます、拉薩府の以東になりました所は又大したものでございます、先づ拉薩府へ這入るより少なくない、まだ其以上這入るだらうと思ひます、其以東の方が人が多いからしてどうしても拉薩府に這入るだけの茶よりも拉薩府以東で賣れて仕舞ふ茶が多からうと思ひます、さうしますれば茶に就ては支那政府は利益を取ッて居ります、其代り西藏からは税金などを取立てませぬ、以前は税金を支那政府に納めましたが、支那政府から西藏に依頼して祈禱して貰ふ——西藏の三大寺其他の諸寺の僧侶が集ッて、二万五千位の僧侶が集ッて正月の三日から二十五日まで大祈禱會をやる、其入費を送らなければなりませぬが、それを支那の北京から送ッて西藏から租税を取立てると云ふことは互に徒勞の入費を費やして詰らないことであるから、其金を北京から送ることを廢して、其代り西藏から北京に送る租税を免じて貰いたいと云ふ示談が整ひまして、祈禱の入費を支那から送らぬ代りに税金は西藏で費すことになッて居ります、租税と云ふものは別

段に支那政府には這入りませぬけれども、此茶を輸出するだけでも支那政府では非常に利益を得て居ります。印度から這入って來る物は西洋小間物類或は更紗木棉、「マッチ」類が澤山這入ります、大阪製造の「マッチ」が西藏の拉薩府地方に澤山這入ッて居る、前には瑞典の「マッチ」が這入ッて居りましたが其「マッチ」が壓倒されて今は大抵拉薩府邊には日本「マッチ」が這入つて居ります、さう云ふ風に外國品が輸入されて居る、輸出品が何があるかと云へば羊毛、犛牛の毛、毛皮、鹽、先づそれ位のものでございます、外に産物と云ふて、あゝ云ふ涸れた地てございますから何もございませぬし、又工業品などは殆んと無いと言ッてよい位てございます、自國の内輪で費やして仕舞ふだけて外に出すと云ふことはないのでございます、其内でも羊毛は澤山出ます、ダージリンの東カリンポンと云ふ所に出て來る羊毛でも五千以上六千駄以上も出て往きます、騾馬に載せるのは五千駄以上六千駄も出ます、ラータニー、ブータン、ネパール、此方面にも澤山出ます、それからシムラの邊にも出ます、そこらの方は別段どれ程出ると云ふことは聞きませぬから、どれ程出ると云ふことを御話することが出來ませぬけれども随分出るやうでございます、鹽が沼鹽と云ふて沼澤などに出て居る鹽がございます、西藏北方或は拉薩府から十五里も往きますると沼澤がございます、西藏は北の方にはどの地方から行ッても沼澤がございます、其鹽が水の中にウラ〳〵して浮んで居りますさうでございます、それを取ッて來るのでございます、水の涸れて居る所はどうかと云へば鹽が溜ッて居りますさうでございます、水が涸れますれば吹き出たやうになッて鹽が溜ッて居ります、それを撈ッて取ッて來る、其儘何でも精製しませぬ、其鹽の中にはイロ〳〵の成分が這入ッて居ッて純粹鹽分ばかりてありませぬ曹達等が澤山あります、さう云ふ鹽が出ましてそれを何處へ出して賣付けるかと云へば、ネパール、チエンケンキン、ブータンの地方に賣付ける、輸出輸入と云ふことは外に言ふこともございませうけれども、是位にして置きます。

賣買の奇習

それから西藏の内部で賣買するときに面白いことがございます、普通日用品食物とか何んと云ふものを賣買する時には變ッたことはやりませぬが、或は何か書物を買ふとか或は他の物品を買ふときには先づ直段を付

けます、大抵正札付と云ふ事はないのでございます、どんな店でも掛直を言はぬ店がない位でございます、拉薩府などでは餘程大きな商買をするにも矢張り掛直をして居る、物品などでも二倍に賣る三倍に賣ると云ふやうなことで大抵掛直が甚ひ、それて直段を付けて直段が極りますれば先づ此代物に對して私は買たのだからモンランムを付けて呉れと言ふのです、モンランムと云ふことは、どう云ふことかと云へば、先づ買手がさう云ふことを希望すると賣手が其品物を持ちまして「此代物を貴下がお買になッて病氣と云ふこともなければ災難と云ふこともなく、此代物が貴下の手に這入ッた爲め貴下の家が繁昌して斯う云ふやうな品物を澤山買ッて置き所のないやうになッて、其内に倉も建てるやうになッて、此代物よりも良い物を澤山買ふやうにお爲りなさい」と云ふやうなことを言ふて渡す、それをモンランムと云ひます、緣起を祝ふことです、さうすると買ふ人が錢を勘定して渡す、錢を勘定して渡すときに錢を持ちまして、能く見まして、一タンガー二タンガ…と見まして、それから斯う云ふ風に摑みまして(手眞似にて示し)口に錢を當てゝ舐りましてさうして自分の襟で拭きます、それから能く見てから渡します、可笑いやうな事をするやうでございますけれども、それは其錢の福分を自分の身体に拭き付けて取ッて仕舞ッて粕を向ふにやると云ふ事になッて居るのでございます。(大笑)書物などを買ひます時分には尚ほ其良いモンランムを言ひます、此は極ッた所のモンランムでございます、何とも言はぬでも御經を買ひますると錢を拂はぬ中から書物を差上げまして「貴下が之を御持になりまして此書物を能く讀むのみならず、意味が分ッて、分ッたのみならず同じやうな行を爲して其道徳を積んで斯う云ふやうに經文を人に說き聞かす程の人になッてシンテー、サムテー、を初め衆徒を濟度するやうな立派な人になるやうに、此書物から得た所からしてそう云ふ人になるやうに」と云ふことを言ひます、其言ひ方には上手下手がありまして書物は二圓であるけれどもモンランムのやり方が二圓で都合四圓であッたと云ふやうなことを言ひます、それは何ぜかと云へば物を買ふときには是だけに買てては惜いとか云ふ念慮が浮びますると其代物にケチが付いて居りますから、其ケチの爲に禍を受ける、其ケチを拂ッて其代物の緣起よくなるやうに願を叶はせるやうなことになつて居ります、まあチョット緣起を祝ッてやるの

て物を氣にするやうな人にはチョットよいことでございます、それから澤山の物を買ひますると云ふと勘定が大變面倒でございます。

面倒なる計算法

それは此間チョット新聞にも書いてありましたけれども尙ほ實際に説明するのと新聞で讀むのとは違ひますから又て説明いたします、物を二品なり三品なり買ひますれば一ッの物は三タンガー、一ッの物は二タンガー、一ッの物は五タンガーであるとすると、是は三タンガーと言てて一ッ二ッ三ッと三ッ數へます、是は幾ら五タンガーと言ふと一二三四五と五ッ數へます、是は幾ら二タンガーと言ふと一二と數へます、之を合せて一二三四五六七八九十と數へて成程十になッて十タンガーになッた、これで宜い併しもう一遍やッて見やう、是は三タンガー、是は五タンガー、是は二タンガーと繰り返します、又もう一遍繰ッた所で違ッて居らなければ初めて得心する、さうでなく是は一ッは三タンガーで一ッは二タンガーで一ッは五タンガーだと口で言ッただけでは承諾しませぬ、幾品を買ふても直段を言ふて居る内に勘定して仕舞ふてこれだけになるからと云ふて――買ふ者がこれだけになるからと云ふて渡してもそれはいけませぬ、もう一遍勘定しなければなりませぬと言ひます、一遍でよいかと云へば品は五品でも六品でも三遍やらなければ承知しませぬ、併し三遍の内二遍合つて居れば一遍は間違として二遍あッて居るのを取ります、さう云ふ風に數へることが暇が掛かる、それは店前きの物を賣ッて居る勘定のやり方でございますが、まだ澤山の物になりますると果しが付かぬ樣でありますが、それには又石屑を以て數へる方がある、白い石を集めてそれが十集まると黑石一ッになる、黑石を十集めると細い棒片一ッになるそれから今度は坊子貝がある、其坊子貝が十集まるとタンガーになると云ふやうにして敎へる、中々之を數へるのは早いものです、尤も早くやらないと暇が掛りますから……けれどもまあさう云ふ面倒なやり方でございます、併し感心にも拉薩府丈けの茶の商買をして居るものは流石に算盤をやることを知ッて居ります、其算盤を用ゐることは利益ありと云ふことも知ッて居り時間も掛らぬと云ふことを知ッて居りますけれども算盤を用ゐない、何ぜなれば西藏人は古來の習慣を非常に貴んで居りますので、私の國にはさう云ふ習慣があり

ませんからさう云ふことが出來ませぬ、自分の國では古來さう云ふ習慣がないからと云ふて刎ね付けます、農業のことでも田地に石がゴロ／＼澤山ある、西藏位畑に石の澤山ある所はありませぬ、石殼ばかりでございます、畦を拵へてやるのでなく石殼を穿くッて其上に麥を蒔くので石の上に麥を蒔いては生へるものでありませぬ、石殼を掃ッて土ばかりにして麥を蒔いたならばよいだらうと言ッた、さうすると百性は曰くさう云ふことは昔から習慣がございませぬから出來ませぬと言ひます。（大笑）まあさう云ふやうな鹽梅で何んでも習慣に基いてやッて居りますから商買上でも習慣に基いてやッて居りまして便利に基いてやッて居りませぬ。

▲濠州の大地主

廣大の地面を所有せる人の最多きは濠州にあり其著しきものを擧ぐれば左の如し（一エークルは約我が四反）

●ダブルユー、エチ、パーバ氏	六十二万エークル
●ゼー、ベートマン氏	百二十万エークル
●エー、ゼー、カンニンガム氏	三百六十万エークル
●ダブルユー、マッキノン氏	四百万エークル
●濠州ユニオン銀行	七百八十万エークル

思潮

日本人は如何なる病氣にて死するか

「大日本私立衛生會雜誌」　醫學博士　三宅秀氏

三十四年度末現在の本籍人口四千五百二十二萬七千四百六十四人であつて其男女別は未だ詳かになりませぬ、之を前年度の人口に較べますると四十二萬千五百二十七人増して居ります生産の數は百五十七萬二千百八十七人、死産の數は十六萬二千二百二十三人、生産率は人口一萬に對して三百四十七人六分二厘でありまして前年度より三十三人六分八厘を増して居ります、死亡は九十三萬二千三百六十五人、死亡率は人口一萬人に對して二百六人一分五厘に當りまするし、前年度と死亡者の數を比較しますると二萬千八百四十八人殖えて居ります、それ故に死亡率も二人九分四厘増して居ります、其死亡の原因に依つて區別して見ますれば、呼吸器病で死にました者が最も多くございまして二十萬五千五百九十八人であります、前年に比較すれば五千八百六十五人増して居ります、更

に小區別をして肺病死亡者の數を擧げまする八萬千六百六十九人て前年より三千六百九十四人増して居ります、其次は消食器病死亡者てあつて十九萬七千四百三十人てありまして前年より六千五百八十六人を増して居ります、其次は神經系病てありまして十九萬三千二百四十一人てあります、前年より九千七百五十人増して居ります、其次は營養發育病てありまして十三萬五千六百八十八人てあります、是のみは一萬千六百四十四人を減じて居ります、元來此營養發育病と云ふもので死んだ人は殖えるのが却つて良いのであります、何故に死ぬ人の數が殖えて喜ばしいかと云ふのに此病氣は天然の壽を保つて老衰して死んだのが此病類に這入るのでありますから當然外の病氣で死んだ人よりは此病類で死んだ人の殖えるのは目出度いのであります、然るに三十四年度に於ては外の病類で死ぬものゝ數が増して居ると云ふのは詰り全體の死亡の多かつた年であると云ふことでも分りませう、其次は傳染性の病氣で死んだものゝ數でありますが五萬四千七百七十一人であります、前年と比較すると二千三百六十六人増して居ります、それより以下血行器の病氣などて死にました人の數と云ふものは皆五萬千以下でありまして、中毒の爲めに死んだものなどは僅かに千餘人しかありませぬ、それてありますから是等の死亡數は一々は申上げませぬ。

次に臺灣の人口生死統計を申しますが三十四年度の現住人口と云ふものは二百九十二萬五千七十二人であつて、其中內地人が四萬二千百二十四人本島人が二百八十八萬二千九百四十八人、內地人は前年より四千百七十人増し本島人は八萬二十九人増して居ります、生產死產の數は三十四年度のものはまだ分りませぬ、死亡數も分りませぬ、三十三年度の生產數は五萬七千五百六十四人ありまして人口百人に付き生產數は二人と三厘に當つて居ります、死亡者も亦三十三年度の統計であつて四萬八千九百八十一人死亡比例は人口百人に付き一人七分二厘に當つて居ります、其死亡の原因を調べて見ますると傳染病で死んだものが最も多くなつて居ります、其數を擧げますると一萬千百七人となつて居ります、其次は消化器病で死んだ者五千六百三十人其次は呼吸器病で死んだ者五千四百七十九人てある、其死亡者を細かく調べて割合に內地人が餘計に死んで居るか本島人が餘計に死んで居るかと調べて見まするると、其割合は內地人でも本島人でも別に甲乙がないやうに見へます、それ故に安心して內地人が臺灣に行つてもよからうと思ひます、併し今年は初めて此臺灣の統計を皆さんに御報道する譯でありますが、內地では呼吸器病で死ぬ者が一番多くて第一位を占めて居るのに臺灣では呼吸器病は第三位に位して居ります、之に反して何つても內地では傳染病死亡者は五番目位の位地に居るのが臺灣では第一位を占めて居ります、是は臺灣と內地との大なる違てありますから能く注目して頂きたいのてあります。

國民の矛盾せる思想

「太陽」　臺灣總督府民政長官　後藤新平氏

一方に世界の大勢に鑑みて、大局の進取を決行せんとするの思想あり、同時に之に對して、一方に國內の事情を顧慮して、內部の障礙を融和せんとする思想あり。列擧せんとする中に就き、其最も大なる者即ち是れなり。是れ以て矛盾せる思想の第一に數ふべし。何人と雖ども、苟くも眼を開きて、宇內の實勢を觀來らば、列國の競ふて世界の大局に輸贏を決せんと試むるを認めざるはなかるべし。隨ひて我邦の獨り國內の小問題に齷齪して、力を外に展べ得ざるの不可なるを思はざるなし。たとひ內國の政局に於て、庶般の政治問題に熱衷し、爭渦の中心に立つ者と雖

ども、決して國外の進取を無視するはあらず。然れども又決して國外の進取の爲めに、庶般の政治問題に就き、一歩を他に讓らんとするの色なし。國外に力を展べざる可らず、又庶般の政治問題に於ても、極力之を爭はざる可らず。二者を兩立せしめて、其間に輕重する所以を認めず。衆心を傾けて、國外の進取を決行せんとする如き、寧しろ意料の外に在る者の如し。翻ひて二者を合致せしむるの期し難くして、二者の矛盾は、依然たる兩立の狀を呈せり。唯だ内國問題の直接に利害を感ずる所たるより、覺えず之を爭ふに熱衷し、亦他を顧みるに遑あらざるを致し、却て重視する所の、主として内國の問題に在り、國外の進取の如き、全く之を度外に措くの觀あるに及びぬ。矛盾せる思想を抱きて、之が兩立を認めながら、爭ふ所却て其一方に偏して、而かも決して全力を之に傾注するといふにもあらず、亦依然として國力の外に伸ぶべきを思ふ。是れ蓋し内の爲めを以てして、決して全く外を棄て得ざるに依れり。たとひ内國の問題に、幾歩を讓るとも、國外の時局は、決して我邦をして全たく關知せざるの地に立たしむるを許さず。故に直接の利害の爲めに、方さに内國問題の爭渦中に在る者と雖ども、決して全く外を無視するを得ず。尙ほ未だ内の爭を捨てゝ、外の進路を開かんとする如く、斷く果斷なるを得ずと雖ども、内の爭を以てして、決して全く外に進むべきを忘れざるは、居然として矛盾を免れざる者といはざる可らず。たとひ内の爭を一擲するとも、寧しろ外に進むに於て、其全力を舉げざる可らざるは、其理既に炳乎として日星の如きあり。然れども直接の利害を感ずる所は、最も熱衷し易き所にして、内國問題の寧しろ重視せらるゝの觀ある如き、亦事情已むべからざる者たるに似たり。一方に外に進むの必要、漸く其力を得來り、一方に内に爭ふの事實、根抵益々拔く可からざるを致し、矛盾せる思想は、益々其矛盾を大にせり。國外の進取と、國内の政爭と、二者併せて現代の思想を衝突せしめ、外に進まんとして内に制せられ、内を定めんとして外に促され、進退共に果決明快なるを得ず、朝野を通じ、上下に亘り、此矛盾の影響する所、其國運の進暢に關する亦甚だ大なる者あり。

余が處世の方針

「家庭の友」　男爵　石黒忠悳氏

私は幸に交友が多い。紳家大臣富豪もあり、また赤貧小戸の人もある。そして殊更同じ學業の人達には、先輩にも後輩にも金滿家が多い。近くは池田、高木、佐々木、戸塚、青山、北里といふやうに、また他方面では大倉とか安田とか三井とか金持長者の友人もタントある。若しも私が此間に立つて居て、人間の樂しみが榮耀榮華をする事であると思ふて居たならば、いつも不滿足であつたに違ひない。併し私は人世の樂園は我が戸内にありと信ずるもので、家族相團欒して食卓に就きまた相語るのが、樂しみの中の樂しみであると思ふて居ます。家族の者も常によく此意を躰して吳れるので、芝居を見に行きたいと云ふものもなければ寄席が聞きたいといふものもない。花でも咲くと花見に行かうぢやないか、では參りませうと云ふやうなとて打連れて行きますが、飯は矢張家に歸つて食ふ方が樂しみだと皆が云ふて居ります。

私は見らるゝ通りの灑然たる生活をして居るが、自分は勿論子孫までも、他人や社會の厄介にならぬ樣にしたいといふのが私の主義です。それて現在の一身一家ばかりでなく、出來る丈後日のため、子孫のための計をして居ます。子孫の爲めと申しても勿論子孫の榮耀榮華を希ふのではなく、唯その獨立を意味する丈であります。て、若しも何か不幸があ

つて私の收入が減じるといふやうな場合があつたら、他人が砂糖を食う時に鹽を嘗めても、酒を飲む時に水を飲んでも、自分のことは必ず自分に始末する積りです。借金して體面を保つといふことは斷じてしない。これが私の世渡りの方針で、一家のみならず、一町村でも一國でも吾黑は必す此方針をとるのです。

貧生學資を得るの新方法

「東洋哲學」　文學博士　井上圓了氏

亞米利加にては貧生が半日勞働してよく半日の學資を得ると云ふも、我邦の如き勞力の安き國にありては、勞働によりて學資を得ること難し、故に他に然るべき方法を講ぜざるべからず、其一法として余が案出せるものは、上京留學費每月十二圓と定むれば、同鄕の知己及有志十二名に乞て、每月一圓づゝ出金せしめ、卒業後何年の間に漸時に返濟する契約を結て、若し中途にて病死する恐あれば、返濟すべき金額に相當する生命保險を約し、万一の場合には此金によりて返濟の道を立つることにすべし、例へば十八九歲の者にして保險金四百圓を得んと欲すれば、每年六圓五十錢乃至七圓を拂ひ込めば足れり、或は又三年間の學資金を一人の篤志家より借り入れ、成業の上返濟の見込立たざる場合には、何時死しても元金を二倍にして返濟する約束を結び三年間の學資金假りに四百圓と定めれば、其二倍は八百圓なり、而して八百圓の生命保險料は每年凡そ十三圓位なれば、此保險料を拂ひ居れば、死時元金を二倍にして返濟することを得べし、此方法によりて學資を得るは、勞働によりて得るより容易なること明かなり。

青年は哲學を學ぶ可らず

「成功」　文學博士男爵　加藤弘之氏

青年が哲學を學ぶの可否如何と問ふ者あらば、余輩は下の如く答へんとする者である、曰く少くとも大學生か、或は其れと同等の智識を有する者ならざるよりは、哲學は決して之を學ぶ可きで無い、高等學校或は中學程度の青年にあつては、哲學を將來に於て學ぶ可き準備、或は豫備として哲學史の講究位ゐに止む可きで、決して其の以上に赴く可きで無いと。元來余輩は今日の教育に嫌焉らざるものである、今日の教育家は常に、教育は所謂詰込主義では不可ない、生徒をして其學ぶところを能く消化せしむる樣に爲なければならない、と言ふて居る、これ一應甚だ道理の如く思はるゝが、併し此が抑も謬見と言ふ可きもので、余輩は何處迄も詰込主義——最も過度では不可ないが、適當に爲る時は或程度迄は、却て此主義、換言すれば即ち唯だ學ぶと言ふ方が宜い、消化させる換言すれば未だ多く學ばない先に學んだ所の利害得失を考へさせると言ふ主義は、決して宜しく無いと斷言して憚らないのである、而も今日の學生が、まだ何にも解らない中學時代に徒らに理窟を捏ねる事ばかり知ると言ふのは、要するに教育が消化と言ふ方にのみ傾いて居るからで、從てこれが爲に少なからぬ害を彼等に與ふるものである。

彼の哲學上の懷疑の極、華嚴の瀑布に投じた藤村某の如き即ち又是である、彼れは唯だ學ぶと云ふ事をのみ專にせずして、これを消化せんとした、即ち其れに付て死角の判斷を下さんと思を惱ました結果、遂に人生を不可解と斷じたのである、然し乍らこれは甚だ生意氣な話で、此宇宙此人生古來幾多の哲人が涙を揮ひ血を灑いての研究も、而も充分の解釋

を得なかつたものが、然り、今日歐米の學者が七十歲八十歲の高齡に達してゞさへ、究めれば究める程、益奥深くなつて竟に到達するところを知らないと言ふのに、況や十七や十八歲の少年が、僅かばかりの研究をして、其れで早くも人生は不可解と斷じて、あたら有爲の身を自ら殺す杯とは、實に寧ろ生意氣、否狂氣の沙汰たるを免れ得ない、これは謹ずる所あまり若い者が哲學などを學ぶの弊害なのである、と言つて哲學を學べば必ず藤村某の樣な人ばかり出來るとは言はれないが、何ふしても然うなり易い、況や或る一派の哲學の如きは、無闇に物質を卑むのがある、これなとは、漫に科學を厭ふて空想にのみ走つて、其極哲學としても亦更に人生に接觸しない、價値なきものとなつて終ふので、厭世思想は此等から多く生ずる。

四種の事業家

「實業の日本」　フォックス、ウエル氏

凡て商品の賣價は二の要素より成り立つものなり。其の一は生産費にして其の二は利潤なり。例へば卷煙草一箱の賣價を五錢なりとせんか、其の五錢の中には必ず其の卷煙草を製造するに至るまでの入費を包み、猶ほ其の上に幾分かの利潤を包めるなり。而して生産費と利潤との割合如何は事業者の狀態如何に依りて定まる、事業經營者にして無能の人ならんには利潤極めて少く或は却つて反對に損失となることならん、もし之に對し有爲の人其の經營の任に當る時は生産費に比し利潤たるの割合甚だ大なるべし。扨て世の中には無能のもの多くして有爲の人少きが故に、凡ての人同樣に利潤を得て一樣に成効することなく、唯だ僅かに其の一部のものゝみ益々富者たるの地位を得るに至るなり。一國に於ける事業家はかくて四種に分つことを得るなり。

一、破産者（英國の例に從へは其ものゝ利潤はマイナス五パーセント即ち損失五パーセントに當るもの）

二、無利事業家（何等の利潤を得ざるもの）

三、普通事業家（利潤七パーセントに當るもの）

四、事業成効者（利潤二十パーセント即ち二割宛に當るもの）

思ふに事業家なるものは極めて多し、彼等は同じ時代、同じ國土に生活し、等しく電話を用ひ電信を發しつゝあるなり。しかるに或る者は成効し或る者は失敗するは何が故ぞ。これ果して資本の大小に因るか？成効し得ざるものは皆な思へらく、予の成効し得ざるは資本少きが爲なり、我に一萬圓の資本あらんか富者たること誠に易々たらんのみと。しかし乍ら成効失敗の因つて分るゝは決して資本の大小に因るに非らず、試に彼等に與ふるに幾萬の資本を以てし事業を經營せしめよ、忽ちにして失敗して一文をも殘さゞるに至らん。

大學教育の功果如何

「警世」　文學博士　三宅雄次郎氏

大學教育の功果如何、是は隨分問題になつて居る。勿論一般に云へば益があることは誰も認めて居るが、極く大きな人間になり、權力を握り、えらい財産を拵らへるといふ人物は大學からは出ないといふ說が隨分ある。

チヤンバーレンは、もと倫敦のユニバルサル、カレーヂから出た、出たといつても其の中の小學校位で出て仕舞つたのである。此の頃此の人が自分の出た學校で演說をした『自分は極く小供の時二年此處に居た、其

の後は全く教育を受けたことはない。けれども今は三つの大學總長になつて、四ヶ處から大博士の學位を貰つてゐる』と笑つたさうである。若しチヤンバーレンが小學校だけで止めず、この大學を押通して居つたならば、決して今日の樣な權力は獲なかつたろふといふ評である。

カルネギーは少しも教育を受けずに大きな金持になつた。而も教育を受けた者と同樣に學事の方に目が利く、金の分配方でも中々よく行屆く。此の人の說では、金を拵へるには大學の教育は要らぬといふのである。大學を不必要とするのではない。財產を拵へるには不必要といふのである。以上は無教育で成功した方であるが、こんな人は隨分多いのである。

然るに、玆に、大學出身者が一大援兵を得た樣な感を起したのは、大統領ルーズベルトの成功である。是までの大統領で、大學から出た者は極く僅かである。又大學といつても極く小さな大學、大きな大學出身者は今度でやつと三度目で、以前のは極くつまらぬ學校である。然るに獨りルーズベルトはハーバード大學出身で、可なり稱贊すべき著述もある。此の人が軍事にも行政にも成功して大統領とまでなつた。この大統領は普通の大統領と違つて、唯其の黨派から祭り上げられたのでない。通例の大統領は其の黨派が極めて仕舞ふので、大統領といつても其の實黨派の掌中のものである。前大統領マッキンレーも、表面はえら相に見へても全く運動者の掌の物であつた。處がルーズベルトはさうでない。運動者が推薦しても、若し少しでも中込に不條理があれば刎ねつけてしまふ。かやうに正しい、强い、而して主張ある人物は、學校出身でなければ出來ぬ。大學出身者は權力を得るには適しない。財產を拵らへるにも宜くない、けれども、理想あり、主義あり、而して社會を指導するといふ人物は大學出身者に限ると云ふのである。



主義と人物

棹痕

新政黨の前途を預言す

政界の近事多くは虛僞滑稽其擧殆んど兒戲に類し、何れも不眞面目なるを表せざるはなし、內閣の諸公を始め幾多の政客は果して國家民人を憂ふるの心事あるにや甚だ疑はしきとなり、吾人より之を見るに單に私利榮達を謀り權勢の紛爭に他事なきが如し、極言すれば亡國を急ぎつゝあるに似たり。豈に感慨に堪ゆべけんや。



涼影集

柳塘選

（一） 止舟齋主人

七尾灣雜吟

吟到能州第一灣。悠然攬古對江山。數行過雁三更月。曾入英雄橫槊間。

絕代英雄若無此風流不能擅美於千歲、

湧浦雜咏

峰巒抱海列煙鬟。重疊樓臺蜃氣間。清夜誰橫長笛去。月明九十九汀灣。

峰若屏圍海若盆。風帆雲樹映晴雰。試論溫液醫痾効。山水淸靈是二分。

飄然截浪布帆颺。雨色看憐奇趣長。蔽海雲煙如潑墨。忽開一角引斜陽。

一誦之下、只覺涼雲搖曳、

長府偶咏

群巒如帶擁潮流。聞昔神功此艤舟。千古雄風吹不斷。秋涼干滿兩珠洲（灣內有二嶼對立稱干珠滿珠）

着得雄風字、最覺意匠巧妙、

功山寺講法要有作

胡亂隨緣古浦南。向人徒費口頭談。從來佛法無多子。一片松聲秋滿庵。

妙在解不解之間、知是禪家妙偈、

過廣島邂逅舊交諸子

兩岸燈光映碧漣。曾遊屈指廿三年。喜有舊交猶識面。相逢一笑暮江前。

靑邱集中平淡者亦如此

伊斐川車上作

城牆依舊映帆檣。蓼穗蘋花秋水香。咫尺墳塋無暇拜。奔車如箭過家鄉。

過侍合川

秋川經雨水溶々。千頃稻花殘照風。清世陰陽無否塞。偏忻鄉土亦年豐。

是亦太平雅頌、

△ 梅溪道人

遊山中溫泉

聞說建久昔。靈液湧蘆洲。蕪寂無人住。唯看白鷺遊。今爲歌舞地。綺羅紛滿樓。

醫王寺

寺古多山色。綠樹欲攙天。金磬數聲外。一聲聞新鵑。靈泉湧其麓。藥氣散爲烟。

蟋蟀橋

奇巖撑兩岸。一橋樹杪通。急湍鳴碎玉。散落深淵中。於物香魚躍。飄然似遊空。

其二

山中第一勝。推斯水石寰。橋外樓三四。樓前幾重山。春殘綠葉底。幽鳥啼其間。

高瀨

水急魚潑刺。依稀擲玉梭。釣者踞倚石。罾者揭立波。漁獲不知數。最見香魚多。

小富士

天邊自然畫。寫出小芙蓉。神韻溢八表。千古積翠濃。靈氣凝爲岳。不獨大富峯。

道明淵

幽邃而清絕。深潭月沈時。吟思淡於水。底回步屧遲。隔岸古碑在。蕉翁曾題之。

桂泉

老桂一株秀。翠蓋壓山橫。細泉湧巖嘴。潺々鳴有聲。月上桂枝白。泉熏桂香清。

采石巖

清流激飛雪。孤巖聳巉々。詩佛曾寓目。題稱采石巖。比之落々石。奇崛隔塵凡。

首々寫出本地景勝、警句疊出、不暇應接、細泉湧巖嘴、潺々鳴有聲、選體中佳處、

峨眉山人

同柳谷蒼巖賴洲三子飲于松亭

雨後長空一碧天。雪兒相對捧觥船。水晶簾外月如晝。
烏鵲橋頭人欲仙。臉斫銀鱗聲潑剌。風飄白紵影翩翻。
醉憑欄角吟胙谿。淡黑誰描八朵蓮。

三省樓小集次靜所野澤君韻

高樓置酒喜趨陪。何羨漢皇甘露臺。亦月多情臨席處。
風如有約拂欄來。冬郎得意驚鸚筆。白傅馳名吐鳳才。
滿坐蛾眉爭捧硯。諸公艶福壓袁枚。
夕陽流水杳難追。跡似浮萍合復離。蘇小侑杯呼舊姓。
王郎舞劍唱新詩。胸開抑塞在今夕。友得閑縱能幾時。
勿笑狂奴存故態。樊川薄倖滿城知。余甞姓近藤
凉榭銕馬響玲瓏。恰好良宵此會同。詠妓恨無韓偓艶。
把杯何說阮孚窮。燈映綠葡萄酒。月下吹香茉莉風。
銀扇玉釵相掩映。當筵現出美人虹。

贈天游井原君

萬里球琉逐鰐鮫。官餘今日對雲巢。聞君政績如韓愈。
愧我詩因似孟郊。一夜若成文字飲。百年應訂布衣交。
交情勿問尊卑別。意氣相投便漆膠。

酒間戲賦

高樓聘妓巨杯銜。青眼迎人醉阮咸。一闋曼聲紅豆曲。
滿身涼味白蕉衫。梧桐含露葉相戰。菡萏惜香花尚緘。
坐到黄昏山月吐。宛如明鏡出粧函。

疊韻謝贈

憔悴蛾眉暗涙銜。佳人卜命向巫咸。魂銷薄倖樊川句。
涙灑風流司馬衫。密約金鈿何足恃。相思錦字倩誰緘。
飄零也似潯陽妓。懶把臙脂對鏡函。

藥堀

漱石選

雲に歩み露に宿かる藥堀　銅哥
藥堀桔梗も摘みて歸りけり　琶湖舟
藥堀籠を下ろして麓茶屋　秩父翁
藥堀る人歸らずに山暮れぬ　豐風生
草分けて藥草の露なづかしき　虚牛
閒に見る雲の去來や藥堀　鳳梧桐

藥堀百草の根を收めけり　柳家

本草の耳學問や藥堀　同

枯草に兎の糞や藥堀　丁堂

山頭の霞を吸ふて藥堀　同

三座を置かず

選者吟

岩かげの靈芝見つけぬ藥堀

藥堀飛彈は醫者なき山の里

あの草も疳の藥と堀られけり

雲起る谿を見下ろし藥堀

白衣の僧童顏の翁藥堀る

摘み入れて籠の草の香なつかしむ

藥堀露の醜草分けながら

藥堀る富山訛の男かな

朝風の手籠つめたし藥堀

登仙の望も盡きて藥堀

十月分課題　茶の花（九月十八日）

十一月分課題　小春（十月十八日）

零露集

光風選

○　佐藤星湖

酒もなく歌もなければ戀もなく怨みもなくて我世たのしき

○　氷室紫虹

いまさらに理想もろしと我れ云はじさあれ春說く君ねたましき

山に入りて法衣に戀をつゝみつゝそゞろ戀しと世を想ふ君

○　豐風生

河添のあしふく風のうれしきにそゞろあるきし夏の夜ふけぬ

○　正富汪洋

戀の上に昔を問はゞ後いはじ只その眉根たゞそのゑ顏

十年經ばこゝに歌へる此歌を求むる人のなからずてやは

既成政黨幾變遷、而かも眞個民人の爲めに幾何の利益を與へたりや、其名目は屢々變更せられ、其會合は屢々開催せらるゝも之を組織するものは概ね無主義無節操の徒に非ずんば爭權以外眼中他物なきの似非豪傑連、洵に腐敗せる分子のみ、以て國事を議すといふ、寧ろ滑稽ならずや、此際に當り板垣伯を擁して新政黨を組織するの擧あり既に準備會合を爲し、頃日に至り同伯の起草に成る其綱領政策及宣言書の私案を世上に發表するに至れり、之れ未だ私案にして俄かに嚴密の批評を容さすと雖も其精神に至りては擬るべくもあらざるべし。

其綱領政策乃至其宣言書を見るに、吾人平生の主張に符合するもの少なからず、其表象は頗る美なるものあり、而かも之をして實現せしめ成功せしむるに於て前途の甚だ遼遠なるを覺ゆ、何を以て之を云ふか。

▲眞面目の綱領と不眞面目なる黨人

新政黨の綱領とするもの凡そ十、曰く我黨は自由平等博愛の主義を執る、曰く或程度に於て個人の競爭を必要なりと認む、曰く或る程度に於て法律の力に依り平等博愛の保護を爲すを期す、曰く資本者と勞働者の調和を圖る、曰く社會政策は可成的自治體及私人の經營を期す、曰く外交は平和を旨とす、曰く何曰く何と、悉く吾人の唱導する社會改良の主義に契ふものにして吾人は之に對して聊かも反對するの理由を認めず、實に之れ善にして且つ美なるものなり、然かも其善美なる主義は果して實現され得べきかと云ふに吾人到底其空想に終るべきを悲まずんばあらず、何となれば新政黨組織に與れる諸氏の人格の餘りに下劣なると、綱領の餘りに立派過ぎるが爲めなり、主義を問ふて人物を問はずとは板垣伯の政黨觀にして吾人も之に贊するところなれども、立派なる主義を實行するには立派なる人物を要するは自明の理なり、此綱領は今日の政黨者流に對しては恰も雪と炭との如く到底一致し得ざるものたり、主義にして若し命あり彼等に奉ぜらるゝを知らば必ずや泣かん。

且つ其政策は約二十七より成る、今一々之を擧ぐると能はずと雖も先づ其の目立つものは小作條例の設定、勞働局の設立、工場法の制定、勞働組合及生產消費等の組合の設立等を期する點は勞働者保護に關する政策として既成政黨には未だ見ざる所、又貧民職業學校の設立、窮民救助法、細民の金融機關、慈善事業等に關する項は細民保護に關し、又軍備は細少論なり、貿易

は保護論なり、鐵道瓦斯電燈等は國有又は自治體共有論なり、所得税法には累進率、相續税法を主張し、選擧權の擴張、民間事業の保護、殖民の奬勵等數へ來れば少なからざるとなるが、要するに獨逸流の社會改良主義、國家社會主義者の理想を實現せんとしたるものに外ならず、而して此政策は概ね今日の穩和なる社會改良家の平素主張する範圍外に出づるものあるを見ず又其宣言書には以上の政策樹立に關する説明をなし國民的生活問題の解決は現今の急務なるを説き、之を解決するに國家的社會主義若しくは社會共産主義によるの不可なるとを述べ居るも、吾人の見るところにては其の政策は概ね其の排する所の國家社會主義者の云ふ所と何等異なる所あるを見ざるなり。

要するに新政黨の綱領政策及宣言書は洵に立派なるものなり。曩に急激なる一部の有志が社會民主黨を樹立して忽ちにして解散せられしが如きものに反して穩健の思想に根立せるを以て、吾人の大に歡迎するところなりと雖、今の政治界の餘り幼稚なるが爲め、其前途を卜して吾人は多大の望みを囑し能はざるを怨まずんばあらず。

▲新政黨の成立せざる三理由

（一）其樹立者資格の不足　前にも云へる如く新政黨に就て何人か其樹立者なるかを尋ぬるに、云く某々等、政友會の脱會者に非れば舊自由黨の有志者なり、平生の素行、品性に於ては既成黨員の夫等よりも一層墮落したる徒輩なり、彼等にして此の如き高尚の主義、遠大の政策を實行し得べしとは天下何人も信せざる所、唯一板垣伯は平素社會問題社會改良に熱心にして烏合の徒に超然たりと雖も、雞群の孤鶴、餘りに其徒輩と理想及び素行の懸隔せるを奈何にせん、彼等の如きに擁立せられたる伯も又氣の毒なる哉、寧ろ伯の爲めに惜むべしとなす。

（二）知識足らず感情未だ熟せず　如上の政策に關する知識は、我國民一般に淺薄なるは當今の實情なり、勞働運動は何となく一種恐ろしく感ぜらるゝ今日なり、如何にして上述の如き政策を實行すべきや、政策其物すら能く辯知せざるは今日の政客なり、惟ふに是等に關する知識は僅かに一部者流の間に在るのみして未だ天下の人心を收攬するに足らず、よし多少の學者は其知識を有すとするも彼等は卑屈にして唯空論するのみ、奮然身を政界に投じて其の實行を期する如き勇氣なし、故に其來集するものは無智無貲の野心家のみ、

此の新政黨、吾人より云へば一種の社會黨若くは勞働黨を組織するには、今日の所、一般の知識足らず又國民の感情之に乘らざるを見る、故に失敗するは當然なり、彼等一部の輩が其注入されたる淺薄の知識を以て國民の生活問題を解決せんとし、之を解決するに自由平等博愛主義といふは、實に其柄に合はぬ話ならずや。

(三)時勢未だ來らず　勞働問題は久しく民間人士の口筆に上り多少世人の注目を惹けるも、勞働者自身の自覺未だ生せず、假令生じたりとするもそは一部に限り先覺の聲に驚かされたるに過ぎず、而して勞働者にして這般の政黨に來集せざる間は到底物にならぬは明かなり、貧富の懸隔を云々するも日本は貧者同志の組織する所にして未だ其懸隔を標榜して政治運動を爲すの運に至らざるなり、論者或は云はん、然らば卿等は之を不問に附し去る乎と、然らず、吾人は常に上述の如き政策の實行を一日も早からしめんとを望まざるに非ず、然れども政治運動としてかゝる政黨を組織するは時機未だ熟せずと云ふのみ、內に此の如き社會政策行はれ、以て國民の生活豐かに平和を樂むは吾人の素より希望する所なりと雖も、之を實現せしむるの人物と時機とに顧みざるが故に唯立派なる綱領政策と云ふに止まらん、吾人の大に惜むところとなす。

▲結言

要するに新政黨の私案として板垣伯の起草せる綱領、政策の大半は賞すべく賛すべきものなり、惜い哉、其人と時とを得ざるを以て到底之を實現せしむるに難きを奈何せん。

之れ吾人が新政黨に對する豫言なり、然れども此の如き經歷屢々繰返されて以て將來其實現を見るとなれば其階梯としては大に之を歡迎すべし。思ふに其昔伯が自由民權の語を疾呼せし當初に當ても、時代多數の民心と懸隔せること甚しく、繰り返へしくり返へし唱導せる中にやうやく時熟し人應じ、遂に我邦憲政史の花を飾りしなり、伯の政黨に於ける此點に於て常に豫言者の位地に立つ、今回新政黨の綱領政策も亦豫言者の聲なり、只その實現さるゝは五年の後か十年の後か兎に角今日に於ては一往何等の反響も無くして止まん、吾人は吾人の理想に合せるかゝる善美の綱領政策を提出せる板垣伯に向て感謝の意を表すると共に、未だ其時其人を得ざる伯の爲めに大に之れを悲まずんばあらず。

新聞評壇



余が新聞に對する希望

前田三遊

現今都府に地方に發行せる新聞紙は幾百種の多きありて朝々讀者の卓上に展讀せらるゝものは四頁なるあり六頁なるあり八頁なるあり若くは夫れ以上なるもあり而して地方新聞の一欄二欄は屢々糊と剪刀とに依りて編輯せらるゝことありと雖も大躰に於ては皆多少の苦心を費されたる者にして多數の讀者が晩酌の後一醉陶然其日の活動を休止し全く靜息せる時に於てすら尚多くの勞役を其處に執れる者あるなり蓋し新聞紙を編輯し印刷し發行するに付ての苦心は讀者の想像に餘る者ありと謂ふ可し。

余は斯業に從事せると已に十有餘年、聊か自から得たる所あるを信ずるも現今の新聞紙は余が理想を距ると尙遠くして余は未だ余が理想を實行すべき機會に到達せざるを憾みとなす者なり然るに中央公論は特に「新聞評壇」なるものを設け屢々新聞紙に關する評論を掲げ熱心に其改良を唱導しつゝありて頗る我意を得たる者あり余豈に之に對して其所見を吐露せざるを得んや乃ち禿筆を呵して新聞論一篇を草することゝはなれり。

(一)機關的と營利的　今それ新聞紙を發行するは純然たる營利事業にあらざれども暫らく之を大別して二種となすことを得可し曰く機關的曰く營利的是なり而して機關的新聞紙は言ふ迄もなく政黨政派其他或種の團躰又は個人の機關たるものにして營利的新聞紙はより多く營利的傾向を有する機關的新聞紙以外の新聞紙なり現今多數の新聞紙は實に後者に屬し且比較的に善く發達し居れり然れども吾邦に於ける新聞紙の歷史を訪ねて其發達の跡を觀るに若し新聞紙をして初めより營利的企畫に於てあらしめば都府は兎もあれ地方に於ては未だ斯迄に多數の新聞紙を發行するに至らざりしなる可し蓋し地方に於ける新聞紙は概ね機關的にして其必要より起りし者多ければなり是に於てか過去にありては尤も奇怪なる現象ありき即ち人文の比較的に發達せ

る都府の新聞紙は傍訓を附したりしにも拘はらず地方の新聞紙は傍訓を附せざりしもの多きが如きは其一例にして今も猶其痕迹を留むるものあり然れども今日にありては機關的新聞紙も著く營利的傾向を有するに至り概ね商賣氣を其紙面にあらはし來れるを見るなり而して爾く商賣氣をあらはし來れる結果として或る部分は寧ろ十年又は十數年前の新聞紙よりも退步せるかの觀あるを免れず开は品格に於て特に著く低下したる者あるが如きヿ是なり勿論大躰に於て進步の蹟あるは敢て余が呶々するを待たず。

(二)新聞事業維持の困難　それ斯の如く大躰に於て進步せるにも拘はらず或る部分は退步せるかの觀ありて特に著く其品格に於て低下せるものあるは要するに斯業維持の困難に基けるなる可く是れ所謂「背に腹は替られず」との諺に當篏れるものにして之と同時に「武士は食はねど高揚枝」的意氣は次第に銷磨し來れるなり今既往の事跡に觀るに機關的新聞紙にありては其社員たるものは概ね政客乃至壯士輩にして比較的に經濟の事に暗かりし爲其維持の困難は一層甚だしく一面には堂々國家の經濟を論議せるも一面には紙屋の支拂にだに窮迫し社員をして屢々「飢ゑんか強請らんか」の問題を決定せざる可からざる場合に立到らしめたるもの多し故に今日の新聞紙は此過去の歷史に鑑みて目的の爲に手段を擇ばずとの大發明(?)をなしたるもの多きが如く即ち方便として手段として其品格に關はるヿ多き方法をさへ採用せるなる可し勿論過去の時代に於ては新聞記者の如きも一層不紀律なりし爲其職業を一種の道樂商賣と視做しつゝ規則立ちて働きし者少ければ又之を販賣する側にありても經驗に乏しきより自然手ぬかり多く即ち一方はぞろつき一方はまごつきて失敗に歸したるものも多かる可し且それ新聞事業の維持に伴ふ困難は都府と地方とに於ては格段なる相違あるなり而して尤も地方新聞社の出費に窘しむは東京電報にして今日に於ても絕えず之を掲載せるものは寧ろ少かる可く其多くは一斷一續たゞ資金の有るに任せて一時を糊塗せるのみ然れども東京に於ける新聞紙にありては地方電報の必要を感ずるヿ地方新聞の東京電報に於けるが如く常に爾く緊切ならず即ち此點より云ふも將た新聞紙の材料蒐集(通信利用等)の點より云ふも新聞事業の維持は地方に比して寧ろ容易なる可きか況んや購買力は多く一區域に集まり居り又人氣を引立て易き事情も尠からざるに於てをや。

(三)新聞紙發行に付ての注意　そは兎も角も都府の新聞紙が已にロイテル電報を其本社より取寄せ又勉めて海外電報を其紙上に掲載する迄に進歩せる今日なれば新たに新聞紙を發行して他の既設の新聞紙と競爭せんとする時は非常の苦心を要するは勿論の事にして之を單だ内國に觀るも競爭の餘地尚多く存する丈それ丈資金を要すると大なり故に都府と地方とに論なく輕卒なる企畫は啻に斯業をして成功せしむると能はざるのみならず爲に害毒を社會に流布すると尠からざるなり由來その成功を以て輝ける光明の半面には或る手段に依て眩まされたる暗黑の半面あり確かなる自信あるが如き者に於てすら尚且然り况んや投機師一類の無造作なる考案と不用意なる準備とを以て之に着手するものに於てをや其爲す所は蓋し想像に餘る者あるなり又何ぞ諸種の誘惑によりて其眞守を失ひ本領を没するあるを異まん思うて此に到れば天下殆んど淸議なし能く始終を一貫せるの淸議なし淸の一字豈に言ひ易きの言ならんや既に然り假令淸議を標榜せるも内實不健全なる新聞紙に至りては更に多きに勝へず是亦社會に於ける一種の病的現象なりと謂ふ可し新聞紙を發行せる者及發行せんとする者深く思はずんばあるべからず然れども世間往々始めより之を害用せんが爲に發行し而して娯樂を先にし實用を後にする多數の讀者はまた之を歡迎して其惡德を助長せしむるとなきにあらず此不健全なる二者の抱合は惡德の爲にする心性的情死にして共に墮落の深淵に沈み去らんとする者なり。

(四)新聞記者の墮落　此の如くにして記者と讀者とが其心術の鄙陋なるに於て一致し趣味の低卑なるに於て一致し茲に意氣相投合して一方は書くまじきに忍び一方は讀むまじきに忍ぶが如きは事實に於て屢々之あるを見るなり夫れ既に斯の如きの事實ある時に於て記者の益々墮落するもの有るは寧ろ當然の事と謂ふ可し余は嘗て新聞記者の墮落に付其原因たるものを略ぼ列擧したるとあり即ち左の如し。

一、初めより心術卑しきと
二、社會に於ける自己の位置を自覺せざると
三、所謂コワ持のするより識らず知らず何事にも深入するると
四、一身の事情に迫らるゝと
五、四圍の惡感化を被ると——今や腐敗の空氣上下に滿つ惡感化を及ぼす者の多き知る可き也
六、世人の意志弱くして不當の要求と知りつゝ之を

容るゝと

七、社會の裏面に惡事醜行の多きと

此他尙墮落の原因となるもの一にして足らずと雖も究竟其の讀者との關係に於て先づ已に最先の用意を欠けるあるは墮落の第一步なりと謂ふ可し豈に顧はざる可けんや。

(五)最先の用意を誤まる　こゝに所謂最先の用意は最も喫緊なる用意にして新聞紙が文明の利器として存在するからは必らずや之なかる可からざる必要條件なり而して記者たるものゝ職責は實に此用意の中に存して正に此條件を遂行するにあり然れども一代新聞紙の傾向甚たしく營利的なるときは此用意は如何にして售らんかと云ふの一事に專ぱらなるに至り他の當然の任務を閑却して眞守を失ひ本領を沒するとはなるなり思うて此に到れば今日に於ては其用意を欠けるありと謂はんよりは寧ろ其用意を誤れりと謂ふの至當なるを覺ゆる也。

(六)新聞紙に對する余の所見　余の見る所に依れば新聞紙は Complete Synopsis として編輯せられ一日の下社會の萬象に付て其概況を知得せしむるを要し而して其論說より市井の瑣事に至る迄(よし其構思文飾は異るにもせよ)盡く是れ道理的批判に依りて殆んど同一の摸型中に鑄冶せられたるものならざる可からず即ち其紙面には首尾を一貫せる精神的統一なかる可からざるなり然るに多數の新聞紙は自己の獨自的嗜好又は偏私的感情に支配せられて Complete Synopsis たるの要目を欠けるのみならず紙面の統一を保つに於て甚だ不注意なり蓋し此弊は機關的新聞紙に於て殆んど其甚しきを極めつゝありて最も多く自黨自派の消息を傳ふるにも不拘他黨他派の爲には一行の文字だも寄與せざるが如きは事實に於て屢々見る所なるが此他尙之に類する實例多くして而して或る新聞紙の如きは第一面と第三面とは常に其歸趣を異にして論說記事を作れる精神の全然相背馳せるものさへあり抑も是れ讀者に對する或る用意を誤れる者にあらずして何ぞや且それ記事の配列は著く紙面の體裁に關係するものなれども其配列を無用視して不秩序に頓着せざるものゝ如きは其實例更に多きに勝へず乃ち新聞の編輯に付ては前記の二條件を行ふ外特別の技術的才能を發揮したるものにして初めて完全なりと謂ふを得可し而して此場合に於て論議の的確記事の精密なるを要するや論なきなり。

(七)新聞紙上の一大欠點?　既に然り而して今上述の

如き用意を以て編輯せられたる新聞紙は果して時好に投ず可きや否やと云ふに必らずしも時好に投ぜざるにあらず勿論作る事と賣る事とは特別の職掌に屬すれども賣るヿに於ての手段は必らずしも又或る厭ふ可き一二の劣策を施すに止まらずして他により多く高尚なる方法ある可し之を是れ問ふヿなくして徒らに品格の低下するを顧みず一意俗流に媚びて得々たるものゝ如きは抑も思はざるの甚だしき者なり特に又新聞紙の最も多く頒布せらる可くして購買力の比較的優勝なる階級に對し或る注意を拂ふヿなく其階級に對する同情の全く欠乏せるが如きは今日の一大欠點にあらざるなきか若し此觀察にして誤まりなくんば賣るヿの手段に於ても猶その高尚なる方法を用ゐるヿに想ひ及ばざる所ありといふ可し。

(八)なほ多くの要求あり　此他新聞社として社員の墮落を防遏するには之を優遇するヿ尤も切要なるべく又社會に對して公德の欠乏を訴ふるに當りては先づ其藁人形たる發行人編輯人を犠牲に供しつゝ筆者自身は奥深く隱れて無責任なる言議を弄するが如き惡德を學ばず記者たるものは何れも署名人たるの心を以てして論說記事を作らんヿを要す斯く數へ來れば世間多數の新聞社に對して要求す可き事項なほ多きも余が如きは地方新聞に於ける一個の伴食記者にして自から其提供せる條件の一部の實行をすら難んずるものなれば今はたゞ所見の一班を述ぶるに止めんのみ。

以上述べ來りたる所に依りて考ふるに新聞事業に伴ふ困難は作る事と賣る事とは宛然並行線を畫けるが如く適當に併進せしむるに在るも其間往々相背馳するヿあれば此二方面に當るものは共通の本分的目覺を有し苟くも之に戻るヿなく併進せん覺悟あるを要するなり乃ち知る是れ實務を識らざる學者の事業にあらずして又唯販賣して利を營まんヿを能事とせる商賈の事業に非ざるヿを、局に當る者豈に此一事を忘却すべけんや。

▲新聞社會の抱腹事

臍　茶　子(投)

一德川家康を東照宮或は權現樣とのみ唱へて、人の德川と呼び、家康といへば、甚だしく激怒する新聞記者あり。

一文學美術の記事を以て、悉く金錢の伴へるが如く邪推し、是が掲出を拒んで、得々明察を誇る新聞記者あり。

一花井お梅に會談したるを一代の名譽と心得る新聞記者あり。

一自家に不利なる部分を除き、利益ある部分のみを抄出して、人身攻擊的惡罵を放ち、以てエラさうに自家を吹聽せんとする狂犬的文學週報記

者あり。

一二號みだしの姦婬記事を而かも二つまで並べ載せて、表てに義俠の推賞をなす新聞記者あり。

一本社の主義は、國家主義でござるぞ、と、唱へて、社會主義に關する議論の掲載を遮る新聞記者あり。

一各種商店より毎月、イクラカ宛の手當を頂戴して、汲々、提灯持に勉むる番頭手代的新聞記者あり。

一ヘッポコ代議士の褌を擔ぎ廻つて、待合入りの御供に忠勤を拔んずる幇間的新聞記者あり。

一紙幣の代りに、肩書附きの名刺を通用せしむる新聞記者あり。

一村井弦齋を神の如く崇拜する新聞記者あり。

一老鼠堂永機を以て天下第一の宗匠と信ずる新聞記者あり。

▲斯くの如き慘事ありや

有磯逸郎（投）

中央公論記者足下、前號に於て杉村縱横君が「紳士的好新聞として敬愛し尊重する所の某新聞」と稱せる其の某新聞紙に於て又候不審に堪へざる三面記事出でたり即ち本月初旬より中旬に涉りて連載せられたる「末松夫人は伊藤博文の實子なる歟」の記事是なり然かも此の尊重すべき新聞紙は末松夫人は伊藤博文の實子なる歟てふ三面記事に掲ぐるにも尚「吾人の眼中には大勳位侯爵と下駄屋若くはテイ／＼屋との差等あるをなし倶に同等の人類のみ社會を組織する一細胞のみ」とスバらしき見識を示し斯くて此の尊重すべき新聞紙は末松夫人は伊藤博文の實子なる歟の標題の下に伊藤一家にも末松一家にも關係なき清水某の一族に拘はる一小些事を掲載しつゝありたり。

中央公論記者足下、余輩は伊藤末松兩家に關係なき一小記事と目へり然れ共右尊重すべき新聞紙は社會人事の大問題を捉へ得たるが如き面地を作り該記事の中途に於て『本紙が特に疑問の題目を掲げて世人を驚かしたる理由も末松男爵夫人生子が伊藤侯爵令孃にあらずして下駄屋の娘なるを驚けといふにあらず爵位權勢そんな下らぬものを高く離れて此事件の中心に甚だ重大なる問題を包有せるとは最初より擔任記者の深く見込む所なればこそ斯くも熱心に周密に甲乙二人の探訪員を勞して一枚づゝ上皮を剝ぎ取るなれ』と暗に後日の伏線を作り再び末松夫人の身上に筆を縱けたり而して結局此の尊重すべき新聞紙は此の疑問を如何に解決せるやといへは數日間讀者を疑問の裡に誘ひ其の好奇心を釣りたる某新聞紙は理屈に理屈を捏り勿躰に勿躰ぶつたる擧句の果は末松夫人は矢張伊藤博文の娘なりといふに終りて數日の記事數日の疑問は爰に一抹に附せられたるなり。

然かも此の尊重すべき新聞紙は該記事の局を結ぶに當り意氣揚々として斯くの如き慘事ありやと題し『世に斯る馬鹿々々しく且悲慘なるとありや而かも此の馬鹿々々しさは毫も悲慘の感を薄からしむる滑稽の趣味を帶はず馬鹿々々しきが爲に却て悲慘の甚しきを覺ゆる也、、、、事實は眞に小說よりも奇也世に斯くの如き奇談は二つと有り得べき筈なし作らんとして作り得べき事柄にあらず若し虛構或は捏造ならは如何なる作者にても今少しく巧みなる考案を出だし得べし」と那邊までも理屈を捏りて筆を收めたり、僅に市井の雜聞を耳にして之れ面白しと縱に私人の內情に立ち入り特に世の褒貶に神經過敏なるべき婦人の身上に對して恰も探偵小說を記するが如き筆を用ひて讀者を疑惑の中に置き而して實際は伊藤末松兩家に幾多の迷惑を與へ乍ら尙且その事實は眞に小說よりも奇なりと澄ましつゝあるもの世間豈斯くの如く馬鹿々々しくして且悲慘

なるとありや、敢て新聞評壇に訴ふる所以なり。

文部省廢すべし



米峰

我等が始めて文部省の廢止を唱へたるは、既に過去二年の事に屬せり。然るに頃者、現内閣の諸公が、行政整理の大英斷とやらいふ、凄じき改革を行はむとするに當り、まづ文部省を廢して、それを内務省中の一局となさむとするの意ありと傳へらるゝや、新聞雜誌記者のこれを賛するもの頗る多く、今は殆ど一國の輿論と稱するも不可なきが如き狀態とはなりぬ。我等今にして、こゝに再びこれを論するは、聊か蛇足の感なき能はずと雖も、しかも又全く無用なりとも言ふを得ざるべしと信ずるなり。若しそれ出來得べくむば行政整理もとより可なり、陸海兩省の合併も亦可なり、一閣三省の大英斷も不可なりとせす、大學の獨立も亦妨げなきが如し。たゞ此くの如きはこの論の所要にあらず、我等は直に文部省を廢止して而して後更に他に及ばむことを欲す、蓋し文部省廢止は、實に刻下の急務なればなり。

明治四年、始めて文部省の設置せられしより今に卅有餘年、その間國家教育のために貢献したるところ、もとより尠少なりと言ふべからず。若し父祖の功勞によりて、叙勳授爵せらるべきものならば、今の文部省と雖も、亦男爵位の値打はあるべし。されど、輓近數年間の文部省の如く、たゞ四つ目屋事件の如きものを惹起し、無垢純潔の少女をして、淫靡の風に染ましむるの他、何等のなすなきものならば、我等はこれが廢止を唱へざるべからず。たゞその所轄の官人中より、幾十百の醜奴を出して、社會の風教を紊りたるを以て、能事了れるが如く心得るものならば、我等はこれが廢止を叫ばざるべからず、たゞに六ヶしき法令を出し、七面倒なる干渉をなして、夫の國家教育の缺陷を補ひつゝある私立學校の撲滅を是れ事とするが如きものならば、我等はこれが廢止を賛せざる能はず。たゞ各學校卒業式の招待に應じて、高慢痴氣なる酒ッ面をつン出すことゝ、譯もわからずに盲判を押すことゝの他に

能なきものならば、我等は文部大臣の存在を要とせざるなり。然り、是等の罪狀、唯その一ッを有するも、尙且つ廢止を價す。況や今の文部省は數罪倶發。如上の罪狀悉くこれを併せ有するものなるに於てをや。

然るにこゝにチャンチャラ可笑しきは、この文部省廢止に反對するものゝあることと是れなり。その筆頭は即ちこれあるがために鼻の下の食殿の維持に差支へざる文部の官人ばら、下つては教育界の實情に暗き死學者、及び一部野次馬的野心教育家なりとす。而して彼等曰はく文部省は國家教育の首腦にして、人口の增殖するに從ひ、社會の進步するに伴うて、益々その働くべき範圍は擴大せられ來るべきが故に、今後年一年に、文部省の經費は多きを要し、文部省の官人はその員を加へざるべからず。然るに何者の愚か、これを廢して内務省中の一局となさむとはすると。成程一應筋の通りたる理窟なるが如しと雖も、實は大に口を開いて笑ふに堪へたる屁理窟なり、何を以てこれを言ふか。

凡そ事の何たるを問はず、その創始の時に於ては、人も多かるべく金も多かるへく、又時間も多かるへくして、而して事の擧がらざる事、實に齒痒き位のものなるなり。然れども、一應その計畫の大體を成就したる曉に至つては、たゞ主としてこれを守成し、間々その改善發達を計るを以て足れりとするなり。今我國教育事業の如き、もとより甚だ不備たるを免れすと雖も、初等教育より高等教育に至るまで、まづ以てその輪廓だけは、國力相應の程度に進みたりと言ふべし。今後はたゞ、力を守成に致して、その內容の充實を計るべきのみ。極言すれば、年度々々の帳簿の整理と、統計の製作との他には、用らしき用なきなり、何ぞ必ずしも特に一省を存して、大臣を置き總務長官を置いて、無用の經費を支出するを要せむや。縱令一局とし一課とすとも、少しく物の役に立ちさうな人間を撰んでこれを司らしめは、優に今の文部省以上の働きはなし得べきなり。

又或は曰はく、有つてさへ思ふ樣には働く能はざるもの、これを無くせば日本の教育界は闇となるに至らむと。何ぞ思はざるの甚しき。これを一家に見るに、耄者幼者病者の如きは、それ自身何事をも爲し得ざるのみならず、これあるがために却つて手足纏ひの邪魔となつて、壯者の活動を妨ぐるに至る。今文部省が各省の間に介在するは、實に耄幼病者の一家に於けるが如し。我等は必ずしも、文部省を有せざる米國の教育が、

果して如何なる狀態なるかを說かざるべし。何事も民間に一任して、干涉せず抑壓せず、常に保護と奬勵とに力むる英國の敎育事情は語らざるべし。たゞ上に學問の專賣所的なる文部省あるありて、一面には官學に入るにあらざれば學問を爲すこと能はざるが如く仕向けて、絕えず私立學校と競爭的態度を執らしめ、一面には法令を濫用して、私立學校の撲滅に力を竭すが如き、我大日本帝國の敎育の前途は、洵に寒心すべきものなることを言ふに止めむのみ。此くても尙、文部省の廢止を肯ぜざるものは、座して國の亡びむことを待つものにあらずして何ぞや。

更に數步を讓りて、將來再び文部を獨立の一省となすことありとするも、我等は兎も角も、一應は今の文部省を廢止せむことを主張せざるべからず。一ッ橋內なる見苦しき黑板塀の中、誠にケチ臭き建物を見て、これを他の各省の巍然として輪煥の美を競へるものに比し來らむか、文部省の無勢力は、眞に憐むに堪へたるものあるにあらずや。等しく大臣として、肩を並べて廟堂に立つと雖も、要求するところは一として容れらるゝことなく、豫算はいつもいの一番に削除せられて、新事業に手の下しやうなく、侮蔑蹂躙、萬事向ふからのなされ次第、無能伴食も、こゝに至つては寧ろ滑稽にあらずや、この無勢力、この無能、我等はこれを以て、後に起り來るべき文部省及文部大臣の殷鑑たらしめむが爲めに、殆ど懲罰的に今の文部省を廢止するの、頗る興味あることを感ずるものなり、或は又、明治政府の文部省とは、其れたゞ一個の建物、しかも極めて見すぼらしき一個の建物たるに過ぎずして、何等の活動、何等の貢献をも爲し得ざりしものなることを紀念せむがために、一まづこれを廢止することの、甚だ至當なることを信ずるものなり。

語を寄す、現內閣の諸公、文部省廢止は、實に行政整理の第一關門にして、これさへやッつけ了らむか、陸海兩省の合併も、府縣の廢合も、一閣三省も、殆ど力を勞せずしてその功を奏せむ。要は英斷に在り、狐疑逡巡して、猥りにこの好期を逸せざれ。若しそれ夫の大學獨立の如きに至つては、我等はもとより異論なしと雖も、たゞ一言諸公の注意を促さむと欲するは、これが條件として、敎育界學術界に於ける羅馬法王的權力を、大學に附與するが如きことあらむか、我等は斷々乎として承知が出來ないといふこと是れなり。以て如何となす。

國民教育の一大缺點

（中等教育に於ける國史科）

我れ中學校の教壇に立ちて、日本歷史を講授する毎に、今の少年の、餘りに物を知らざるに驚くなり。我等が小供でありし時は、本を製造するものも稀に、印刷の術も進まざりしがため、飴買ふ錢や豆の代を儉約した位ては、なか〱以て、一寸面白さうな本など買ふことは出來ざりしなり。我等は實に此く不便な時代の少年たりしと雖も、しかも憚ながら、今の少年に比すれば、餘程の物識りなりしなり。角力の先祖は野見の宿禰にして、將門を退治たのは俵藤太なることより、この俵藤太が、大百足を射殺したといふ珍談、さては源平の合戰で、熊谷敦盛の組討、義經の八艘飛、知盛の錨往生、ずつと下つて、信玄謙信川中島の合戰、加藤清正の虎退治、その他頼政の鵺退治や、曾我兄弟の敵討、頼光様の鬼退治より、文福茶釜に毛の生へた事件に至るまで、殆ど一として知らざるなかりしなり。これを以て學校に入り、正式に日本歷史のお話を承る時は、實にたゞもう、面白くつて〱たまらなかりき。然るに今の少年か中學の一年二年の生徒にして、和氣の清麿を知らず、八幡太郎を知らず、惡七兵衛を知らず、賤ヶ嶽の七本鎗を知らざるもの、滔々として皆然らざるなきの有樣なるは、實以て奇怪千萬ならずや。此くの如きが故に、最も興味ある歷史科は、徒に教師を勞せしむるに止まり、生徒を苦しましむるに過ぎさるなり。若し少しく手腕ある教師が、この弊を救ひ、歷史教授の効果を收めむと力むれば、悲しむべし、二年かゝつてやつと、鎌倉幕府の成立位までしか教へることが出來ざるなり、抑々是を如何すべきか。

不便な時代の少年たりし我等が、如何にしてあれ程まて日本歷史に精通(?)したかと言へば、是れ實に繪本、一名草雙紙なるものの賜なりしなり。我等が歡喜して手これを釋つるに忍びざりし繪本といふもの、これを今の少年に示さんか、彼等或は鼻にもひつかけざるべし、何となれば、今の少年は、遙に巧みに編まれ、遙に美麗に造られ、遙に面白く讀まれる、無數のお伽本を、自由自在に買ひ且つ讀むことを得べき、開けた時代に生れ合せたればなり。此くも便利の世に生れ、此くも自由自在を得たる今の少年は、一體どういふ譯にて、我等が少年たりし時に知り得し程の事をさへ知らざるか、他なし、曰はく、お伽噺の種類多きに過ぎ、取り

代へ引き代へ濫讀するがために、たゞ讀んで居る間だけは面白しとも感ずるが、未だ印象を殘さゞる間に、更に新しき他のお伽噺に心を奪はるゝに至る事、これその第一原因。お伽噺の濫作の餘弊として、その取材の範圍ます／＼擴大し、その擴大の結果は寧ろ作者の方で種切れとなり、按摩が電信柱に頭を打ッつけて瘤をこしらへたとか、ぼんやり小僧が鳶に油揚を攫はれたとか、イヤハヤ愚にもつかぬ冗談駄話が一小册子を爲して居るといふ始末、讀んで益するどころか、暇つぶしの錢失ひ、これ程間尺に合はないものはまづ以てなかるべし。こんなもの讀まんより、寧ろ猿蟹合戰花咲爺などの方が、ずンと面白く且つ有益なり。誰やらが曾て嘲ッたやうに、今の青年は、十八史畧、國史畧を讀まずして、太陽や中學世界を讀む、支那歴代の國號、源平興亡の跡をもわきまへずして、理想、抽象、客觀、主觀、などの文字をひねくると同じやうに、今の少年子弟、鷹と鷲との區別さへわからず、鯉と鮒との見別けさへつかない分際でありながら、木ッ葉文學者の寢言の餘りを珍重す、加藤清正も楠正成もあつたものにあらず。日本歴史のお話など、てンで耳に入らう筈なし、是れその第二原因。

我等つら／＼これを矯める方法を考へて、遂に一大名案を得たり、曰はく、お伽噺の取材の範圍を、歴史とか地理とか、動物とか植物とか、凡そ普通人間として、誰でも知つて居ることを要する邊に定め、それを極めて面白く、且つ有益に、そして少年が飛びつく程に面白がるといふことは六ケしいとしても、一度と言はず二度と言はず、幾度も／＼繰返して、見たり讀ンだりしたがりさうなものを製造し、家庭に於ては、父母兄姉の一の責任として、これが説明の勞を取るやうにし、夫のくだらなき、鳶の油揚、按摩の瘤的駄本を排斥したならば、定めてよからむといふこと、即ち是れその一策なり。是によりて彼等少年は、學校教育を受くる前に、少くとも歴史上偉大の人物の名位は覺え、地理上著名の都や山や川位は知り、植物の美しきこと、動物の愛憐すべきことなどを悟るに至るべし。これこの先入の知識、三ッ子の心百までとはゆかずとも、學校教育の力を助けることは、決して少々ならざるべきなり

次に第二策としては、日本歴史の教科書の書き方の惡いのと、そして中等教育の教授細目の不都合なのとを罵るなり。自慢ぢやないが、我等が中學の一二年にて

ありし時代は、隨分エラかりしなり、それもその筈、既に小學校に於て、授業生代理を一ヶ月位は勤めたことのある連中などが、どし〳〵繰り込ンで來るといふ始末なりしが故に、日本歷史と言つても、漢文で書いた國史略でやらせられ、支那歷史は十八史略、萬國歷史はスヰントンの萬國史、代數はスミスの大代數といふやうに、漢文にあらずんば英文、土佐日記や徒然草は、なぜ漢文か英文で敎へないのかと不思議に思つた位でありしなり。此くの如きエラキ生徒に對しては、敎科書が何であらうと、敎授細目がどうあらうと、少しも頓着するを要せざりしと雖も、今の中學生の如く、制服の釦を自分でかけることさへ出來ず、飴屋が來ると「母ちやん五厘」とあまへる程のものに對しては、餘程微細な點にまで、氣をつけてやらねばならぬこと勿論なり。然るに、今の日本歷史の敎科書といふものを見るに、一年級二年級と、二ヶ年かゝつて全體を敎授し了はる樣に出來て居るのはまづよいとして、その製造の方法が、あまり今の中學生の知識の程度を無視し、殆ど沒交渉ならざるなきやの感なくんばあらざるなり。

蘇我氏滅亡の原因如何、大化の新政とは何ぞや、天平時代の文物如何、保元平治の亂の原因及結果、鎌倉幕府の組織、曰はく何、曰はく何、今の中學の一二年生に、こンな事までしッかり呑込ませるといふことは、餘程難事にして、縱令これを能くすと言ふと雖も、そは僅々一週二時間、二學年の日子を以てしては、全く不可能の事に屬す、既に敎科書には、これ等の大事件が、三行五行乃至は半頁一頁に書き散らしてある以上は、實際敎授に臨み、これをヌキにする譯にもゆかず、呑込ませるには時間がない、まゝよ三度笠横チヨに被り、わかるとわからざるとは措いて問はず、制規の時間に制規の頁數だけやッつけて仕舞へといふが、今日の中學敎育に於ける實際の狀態なり。機械的敎授といふも、實にこゝらが行き止まりなるべし、こンなことして無駄骨折つて、得るところ畢竟如何。どうせ今の御規則に從へば、日本歷史は一年二年でやるばかりでなく、五年になつて又候繰り返すことになつて居るが故に、一年二年のところは、たゞ當り前に敎へて、そして彼等がすら〳〵と理會する、寧ろ愉快に面白く聞いて覺えて行くといふ位のところを限度とし、小六ヶ敷い史論や、制度の變遷などは、一切失敬して、たゞ辨慶が大長刀を振り舞はしたの、謙信が流星光底に

信玄を逸したとのいふやうなことをお伽噺に輪をかけた位の程度で、年代の順に書いたものを教科書として、あとは教師の腕次第、生徒の力次第、そこは宜敷然るべくやるを以て、頗る有功なる方法なりと信ずるなり。

一年二年の時、此く如くにして歷史上重要なる出來事を呑込み置き、更に五年へ行つて、その原因結果を論ずるもよし、風俗や制度や、文學や美術の事を話すもまた妨げなきなり。若し能ふべくんば、我等と雖も、一年二年のうちに、今の教科書にあるだけの事を、呑込ませたいは山々なれど、時間と勞力は到底これを許さない、縱令時間と勞力とが許したとしても、一年や二年で、そンなことまでやり了つて仕舞つては、五年へ行つてやることがなくなるの恐なきにあらず。

誠に五年級用の日本歷史教科書を取つて、これを一年二年級用のものに比較するに、その記載事項の少なきこと、その事實の說明の簡單なる事、その他到底、一二年級用のもの〻、比較的や〻整備せるに比するべくもあらず。勿論五年級に於て、日本歷史のための教授時間は、一週僅に一時間なるが故に、その出來得る限り、簡單なるを要すること當然なりとは言へ、五年になつて、一年二年て習ひしことよりも、もそッと簡單でつまらないお話を承はらむこと、如何ばかりか堪へ難からむ、是れ畢竟、實際に疎きお役人樣のこしらへたる教授細目の罪にして、又教育の機械的形式的なるより生じたる弊害なり。

要するに、修身國語と相並ンで、國民教育と最も重要なる一科として、大なる注意を拂はれつ〻ある日本歷史の教授の實際尚且つ此の如し。教育の功果の擧がらざるを歎ずるが如き、寧ろまだ正直の至りなり。



小說は野蠻の產

有美

小說は今や殆んと文學の大部分を占むるもの〻如く、文學者とは、即ち是れ小說家のことなり、小說を巧に綴るものに非れば、到底文學大家の間に伍すること能はざるが如きもの、これ實に今の文界の現狀なり。二東三文の三面記事を飴細工然と引き延ばしたる如きも

のを公刊して、しかも世間に怪まるゝこと無く、却て文學者を以て目せられ又崇めらる。當世小説家ほど仕合せ多きは無し。もし、之をして論説文ならしめば、書肆は一枚卅錢の値段にも首を傾くれど、小説の原稿は廿字詰廿行にて壹圓の高値を現はす。あゝ男子生れて小説家となるべし、決して、論説文の如き骨折り損の疲勞利けなる筆仕事に指を染むべからず。

されど、天下、クダラナク又不經濟なるもの、實に小説に如くは無し、小説は是れ智能發達し、理解力の鋭敏なる文明人の讀むべきものに非るなり。小説は實に野蠻の産なり。少なくとも、充分に事理を辨ずる力なき愚夫愚婦の外讀むに値せざるものなり。

今玆に五號活字菊版三百頁に餘る尨然たる一大小説本ありとせよ。その『お天氣で御座ります』『お熱う御座ります』と、誰れ彼れの別なく、百もガッテン二百も承知の極りきッたる文字を並べ綴りたる間に於て、其作者が其讀者に傳へんとする思想果して若干ありや。蓋し、頗る簡單なる二三――多くも五六のアイデャに過ぎざるべし。もし、之を普通の論文或は説文を用ひて明にせんか、二三行にして其意を盡し終るを得べきや必せり。 物理學書にブラマー氏水壓器なるものあり、パスカルの水壓原理を應用して製作せるものなり。もし、これにより綿花の如きを壓搾すれば、忽ちにして其容積を減ずること實に驚くべしと。今、假りにブラマー水壓器を用ひて、今の所謂小説なるものを壓搾せよ。其最後の容積、恐らくは減じて一頁大となり半頁大となり、或は遂に『皆無』に近きものとならん。古き西班牙の諺に傳へられたる Very little meat and a great deal of tablecloth とはこれ實に今の小説を言へるなり。

時これ金にして一刻千金なる廿世紀の文明界に於て、かく二三行にて萬事埒明くべきものを、作者原稿料の都合の爲めに、態々菊版三百頁大に引延ばされたる小説は、豈に特に貴重なる時間數刻を割ひて之を閲讀する煩を價するものならんや。是れ實に文明界の時間ツブシなり。宜しく之を廢滅せしむべきなり。

されど、小兒と病人とは消化力に乏しきものなるが故に、これに多量の水分を混合せる乳汁を與えて養はざるべからざる如く、野蠻人と愚夫愚婦とは、理解力の甚だ遅鈍にして事理を辨ずるに甚だ昧きものなるが故に、これに眞理の本體を示すも、容易に之を看取し之を消化してこれに會心すること能はざるを以て、二三行

にても事足るべき眞理を能く飲み込ませんが爲めに、特にヤクにもたゝぬ水を多量に混和して之を稀薄にも、所謂小説の形態となして、これを其人々に讀ませざるべからず。されど、健康躰にある成人は、此る乳汁を攝取する要なしとして固形食物を用ひざるべからざる如く、文明の進歩し智力の機敏なるものは、此る乳汁然たる水澤山の小説をガブ〳〵飲むべきの要なし。否な是れ却て其智力の發達を阻害するものなり。故に、文明の進歩は小説を撲滅す。玆に至りて以爲らく、小説は野蠻の產なりと。又、時間の迅速を貴ぶ文明の趣味に合一する能はざるものなりと。

川上の洋式演劇

川上音二郎盛に舊演劇排撃の聲を高めて、しかも遂に舊演劇に降伏の白旗を立てたり、その白旗とは何ぞや。曰く、洋式によりて『マーチャント、オブ、ヴェニス』と『サッフォ』とを演ずるに至れる一事是れなり。演劇は現に美術なるを以て、多少否な寧ろ大に實際の事實より離れて、其結搆を廓大せざるべからず。其筋立に於て然り、又その仕草に於て然り、其臺詞に於て然り。若し、この『廓大』を巧にする能はずんば、その演劇は即ち失敗す。日本從來の舊演劇は、能く此の間の消息に通じて、巧に『廓大』を其全部に施せり。川上が非常に攻撃して止まざりし所謂舊演劇の欠點なるものは、多く其間に行はれつゝある此の廓大を指せるものなりしを以て、川上は恐らく自ら『廓大』なくして尙ほ演劇あるを得べきを信じたるべく、此る『廓大なき演劇を稱して『正劇』とは名つけたるべし。されど、憐むべし『廓大』なくして遂に演劇あること無く、川上は自ら又正劇の失敗に終れるを自覺したるもの〻如し、

然り而して、その演劇に『廓大』あらしめて觀る者の心を動かし、又その醜を認めしむることなくして、たゞ美はしくのみ觀せしめんと欲せば、必ず舞臺を今の時と處に取るべからず。蓋し、今の時と處とに舞臺を取りて、しかも尙ほ『廓大』を逞ふせば、玆に觀者をして『奇怪』の感を懐かしむるに至り、折角の感興を損じ、又よく實際の事實に比較して其醜を見出さしむべければなり。總て、時間及空間の遠きにあるものは。幸にも其醜を沒却せらるゝものなり。是に於てか、沙翁の如きも、その舞臺を外國或は過去の歷史に取れり。日本の舊演劇の當世のことを演ぜざる實にこれが爲め

なり。

而して川上は『正劇』の失敗に終るは、その今の時處位を取りて『廓大』を施すべき餘地無きに依るべきを看破し、玆に始めて舊劇の遂に『正劇』の長者たるを覺へしも、今更ら甲を脫ぐの勇氣なく、玆に舞臺を純然たる外國に取り、觀者の其人情と光景とに眼慣れざるに乘じ、この間に巧を弄して『廓大』を施すべき餘地を作り、又肆に觀者の眼を誤魔化してブマを隱さんとせるもの丶如し。是れ川上が舊演劇に降參せるものにあらずして何ぞ。蓋し、時間の人心に及ばすところは、其空間の及ぼすところに等しく、その遠き外國の筋を演ずるは、古き時代ものを演ずると、毫も異るところなければなり。川上も又實に窮せりといふべし。序のことに、その臺詞をも西洋語と爲さば、全然その技藝の及はざるところを隱くすテレ隱しとなりて、更に一層の妙あらんかな。呵々。

瀧廉太郎氏逝く

西樂の我が邦に於て振ひ興らざるは、未だ天才を出さゞればなり。感興の湧くものある如き樂人の、出て丶人心の琴線に觸れざればなり。この間にありて獨り天才の光を放ち能く、人心に向迎するを得たりしもの、たゞ一瀧廉太郎ありしのみ。

東京音樂學校多年の調査によりて『中學唱歌』を出すや、中に『箱根八里』の曲あり。是れ實に瀧廉太郎氏の作るところなり。『中學唱歌』に載するところの樂曲、其數實に少なからず。されど、今や都鄙至るところに唱せられ、誰れ人によりても愛好せらる丶こと、この『箱根八里』の如きなるは無し。歌詞を作りて一地方特別の用にせんとする唱歌の如き又往々にしてこの『箱根八里』の曲を用ふるに至れり。かく其作りしところの樂曲が博く天下に傳唱せらる丶一事のみに依るも、以て瀧廉太郎氏が今日の日本西樂界に得易からざりし才なりしを知るに足るべし。若しその得意とせるピヤノの技に至りては、常に能く原作曲者の意を傳へて、聽くもの爲に數々涙あらんとし、時に或は心より拍手せざるを得ざりき。今の日本西樂家中にありて、かく原作曲者の受けし神與をレプロデュースするを得るもの、實にこの廉太郎氏一人なりしのみ。然るに、其漸く撰ばれて獨逸留學生となり彼の地に至るや、一年ならざるに不治の病を得、業未だならずして昨年中恨を呑んて歸朝し、のち靜養を怠らざりしも、去る七月某の日遂に其鄕里に逝けりと。妖妬心の激げしき西樂界のことゝて、彼等の間には却て今や眼の上の瘤を取られたる如くに、瀧氏の逝去を祝したるが如きも、是れ實に日本樂界の大恨事なり、此くの如くにして、西樂界は遂に永久に寂寞たらんなり。されど、その『箱根八里』の一曲が博く天下に唱せられ、後代に傳へらるべきを思へば、瀧氏たるもの、以て瞑すべく、吾人また少しく慰するに足る。あゝ禍なる哉、日本の西樂界。

▲稿餘錄

■文藝雜誌及小說類の口繪或は挿畫のトンデモなきところにて折られあるほど、沒趣味沒美術なるは無し。畫家たるもの宜しく其意匠を巧にして畫面を一頁大に縮め畫がき、若し止むなくんば、これを純然たる二頁

大と爲し、背縫をして中央を折りて左右に糊するやう綴らしむべきなり。

■姉崎學士歸りてまづ、お茶の水の好風景が鐵道工事に破壞せらるゝを嘆く。これ無用の心配にして、時間の永遠と其祝福とを無視せる愚なり。お茶の水今日の好風趣も、永き前の時間にあたりては、頗る沒風景なりと目せられたることあるべし。人力なして思ふまゝに其破壞を逞ふせしめよ。これ永き後の時間に對する建設なり。鐵道工事はお茶の水に風趣を添ふること更に一段ならん。

■天下に利あらざるものなし。藤村操の死は、默々たる天下の人生論を喚起せり。操以て瞑すべく、那珂博士以て誇るに足らんなり。

■坪内博士が自殺是非論の決着は、結局折衷主義とも評すべきものにして、或る自殺を否定し或る自殺を是認するにあり。而して、藤村の死の如きは、人生問題に對する苦悶―詳く言へば、究理慾を滿足せしめ離き苦痛を脱せんとせるよりせるものなれば、利己的のものとして否認せざるべからずといふにあり、同博士が其近頃切りに表を作りて精細ならんことを力めらるゝは甚だ博士の爲に取らざるところなり。これ愚なる獨逸學者の爲すべきところにして、英吉利學者の爲すべからざるものなり。

■『新著文藝』なる新雜誌出でたり。矢張り『文藝倶樂部』『新小說』などゝ同じ顏ブレにして、別に珍らしく新らしき變化を認めず。かくの如くにして果して成功すべきや否や甚だ疑はしきものなり。これを作者の爲に計るも又書店の爲に謀るも、それがしなる作者はなにがし雜誌の專屬とすること宜しき方法なるべし。然らば、作者はこれによりて原稿料をセリ上げるを得、書店は常にその作者專屬の讀者によりて賣行を計ることを得んなり。役者の贔屓の不可なる如く作者の贔屓も又不可なり。

■家庭雜誌第五號に載せられたる『細君の說法』と題するミッセス、カードルス、カーテン、レクチユアの飜譯は誰れの筆になりしか、甚だ以てツマキものなり。かの淺野文學士かスケッチ、ブックの譯書なぞ、兎ても其傍にだも寄りつけぬものと知るべし。

■柿崎文學博士は感心の心懸げある人なり。その七月の『太陽』に載せられたる自殺是非論の如き、實に『赤門出』には珍らしき感心なる論と申すべし。殊に、その言文一致體の文を巧に綴つるところ、感嘆の外なし。この人、この方向を取りて進まば、必ずや大成せん。

■新渡戸博士の英文を以てカーライルの文に私淑せるものなりと爲すは過れり。寧ろ最も能く英語バイブルに感化せられたりといふべきなり。『英文新誌』八月五日の號に載せられたる『The Students Summer Vacation』を讀まば、必ずや思ひ半ばに過ぎん。又この雜誌が今の英學界の文法主義に反抗して奮鬪するところ、實に心地よしとや言はん、氣味よしとや言はん。

■美妙齋山田武太郎の功を贊するもの。漸く多からんとするは、慶すべきことなり。これ實に謝恩の意を明にすることなり。日本速記術の最先工夫者源綱紀にして、もし國家より年金を受くべきものなるべくんば、美妙齋の如き、また當に然るべきものなり。

■東京座の八月狂言に高田佐藤藤澤等の新演劇を見る。高田は確にエラキところありて、團十郎と雖どもこの以上には出づる能はざるべしと思ふフシもあれど、評判の割にクダラヌは藤澤なり。この人萬事にコセ〳〵し、力めて細からんとするに骨折れど、到底大才に非ず。恐らくは大成覺束なからん。藤田の役者『演次』などいふもの、丸で役者になつて居らず、張もなければ、意氣もなし。もし夫れ佐藤の詩劇『平野國臣』に至りては、天下の大茶番これに如くものなし。寧ろ女學校あたりの親睦會餘興にも劣る。かの如き仕組のものならば、却て活人畫と作したるをよしとす。又藤川は却て藤澤に勝れる點なしとせず。

■神田川竹亭に『新橋藝妓演藝會』といふもの八月一日より七日までありしが、假令へ其お座敷無しの苦し紛れに出てたるものなりとはいへ、此ることは追々發達させたきものなり。

■『文藝界』は更に一層墮落するをよしとす。即ち六ケしき小說類など一切ヌキにして面白き講談物等を多くし、『俱樂部』のシタを行けば、必ずや讀者を增すを得んなり。

（八月廿日稿了）

▲滿月の無き一個月

歷史有て以來、人類有て以來、一個月の間に滿月の無かりしは只一度のみ。そは今より三十八年前、則ち千八百六十六年の二月にて、全年は一月に二度三月に二度の滿月有りて二月にはこれなかりし。天文學者の計算に依れば、此出來事は二百五十万年に唯の一度有る割合なりと云ふ。



雜評

都市の行路樹

祖庭

▲近來、いづれの都市でも、市區が改正され擴張さるに隨つて追々完備して來るから、行路樹の改良は必要な事である。道路の完全と同時に美觀を添へ、通行者に便宜を與ふるものは行路樹である。東京市の如き、現在の道路は楊樹を以て第一の行路樹とし、次ぎは櫻、楓樹の類である。楊樹は水邊が本場であるから、川緣や橋臺などには適當であるかも知らぬが、市街の繁華な所では最も迷惑の樹である。第一、技葉がさがつて通行人の妨害となり、第二、葉が小さいから夏日には樹陰に乏しい、又た幹も感心しない。次ぎに櫻は、花

時一週間位は人目を喜ばし、續いて葉櫻といふ景氣があるが、肝心の樹陰の必要な時になると毛虫が簇つて葉が穢なくなるし、其虫が落つるから婦人や小兒が恐れて樹下を通るのを好まない。それで是も不適當と思ふ。殊に花見は往來では殺風景である。私は寧ろ市街の櫻は皆取り除いて、花見は上野、隅田川、飛鳥山其他の場所に限りたい。其次ぎは楓樹、是も葉が少さいから感心しない。紅葉は瀧の川邊に讓つた方が可からう。

▲然らば何んな樹木が適當して居るかといふと、我國の如く樹木に富んで居る國では專門家に選擇させたなら良木が饒山あるであらう。古來、我國の行路樹は、海邊は男松、山地は女松と決まつて居るが、東京市の如き塵埃の多い地では、常盤木は到底堪えないから不適當であらう。それから冬月の道路を隱敝するから落葉樹が可い。私が稍々適當なるものと思ふ樹木は、七葉樹、槭樹、楝、欓、梓、楸、梣、槐、槲、梓、土原林、梧桐、欒華、櫟、櫸、楢等の外數十種あるが、是は種々の關係があつて一様でない。譬へば、寒暖、地質、それから速く芽出しして晩く落葉し塵埃に染まるもの、又は蟲害のないもの、成長の早きもの、葉の濶大なるもの、枝葉が繁茂して花の盛美ならず實の良好ならざるもの、夜間惡臭氣を放つもの、其他、衛生上の關係なども有るであらう。或は、道路に依りて一列に栽ふるものと二列に植ふるものと區別もあるから、是等は專門家の選擇を要する。

▲それから、此大市街の行路樹を如何なる方法を以て改良するかといふに、中々容易の事業ではないから一時に遠方より適當の樹木を取寄せて植ふるが如きは愚である。時期が長いやうではあるが苗木から仕立てた方が得策である。苗木は一万本五十圓乃至八十圓位のものを買ひ入れ、培養所は市の所有地で目下必要のない所が澤山あるやうに思ふ。又は官有地を借用したら饒多あらう。今日から數百万の苗木を植え附けて置いたら、成長の速い木は四五年乃至十年を待たずして市街の美觀を添ゆるであらう。此事業は、僅少な費を投じて、而して得る所の利益は漠大であり、且つ最も經濟で心切な遣り方であると思ふ。

▲樹木の培養法は、數年の間は前に陳べた趣向で可からうと思ふが、行路樹を植え附くるに當つては、同年生の樹木を幾らか保存して置いて若し缺げた時は同じ木を植えて美觀を害はぬやうに準備をして置かねばならぬ。此培養地は、市外で運搬の好い低價の土地を買

ひ入れて永遠に保存するやうにいたしたい。其計畫さへあれば、當分は假り植えても差支がなく、數年の後に至つて實行さへすれば可い。此事業は、今から初めても決して遲くはないと思ふ。由來、行路樹の方針は何れの都市でも確定して居ないやうに思はれる。果して左樣であるならば、改良に臨み現在の樹木を取捨るに莫大な費用が掛るから、早く調査に着手するが良いと思ふ。東京市の如きは年々、行路樹を植え附けるやうだから本年も豫算に編入してあるだらうが、一年早く植え附ければ一年早く美觀を添ふるものであるから、專門家に計つて一ヶ所でも本年から實行するやうにいたしたい。

▲外國では、行路樹は園藝に關する事業であるから、公園課で總て管理して居つて道路から得る所の收入は公園の維持費に充てゝ居る。其一ヶ月の收入は實に漠大なるものといふ事である。先に東京市は、市長其他も改選せられて就任の際であるから、是に調査の勞を執らるゝは決して無理の事ではあるまい。

▲此改良をせねばならぬといふ事に就いて、參考にすべき話がある。私が或る田舍に出張した事がある。市街が三千戸計りあるのに其樞要の町で毎朝、市がたつ。道路の幅員は僅かに四間位である。此窮屈な道路中に楊樹の行路樹が植えてある。其枝葉はさがつて賣買の人々が毎日邪間にして居るから、私が「何んな譯で楊樹を植えたかと旅館の主人に尋ねたら、「是は東京風であります」といつて答へた。此邊は七葉樹の名所で苗から二三年も經つと大きな木となるに拘はらず、東京の眞似をして居る。今一つは、或る縣下の行路樹の手入れをするため、東京から庭師を雇入れて樹木の手入れにかゝると、係りの役人が「楊樹は東京風に手入れをしろ」と命じたさうである。すると、庭師は「東京の楊樹は電線に支へるから頂邊から滅茶々々に切る習慣になつて居りますが、當地のやうな何も障りのない所では樹木の成長と風致とに重きを措いて培養した方が可い」と答へたさうである。畢竟、東京府は我國の首府で總ての摸範となる所であるから、一の事業を起すにも充分の研究を積んで府縣に卒先して諸般の改良をせねばならぬのである。

▲巴里の行路樹

世界都府の中行路樹の最も整頓し且つ美觀を極るは巴里を以て第一とす、毎年之に費やすところの費用街燈に次ぐ。

新罪言

藍川

▲如敝履

滄浪水濁起風波。其奈黨人離畔何。
玉堂深處又鳴珂。一去棄之如敝履。

▲撫白頭

寂寞衡門撫白頭。近來車馬往來稠。
吾舌猶存說自由。呼回二十年前夢。

▲猶未墜

青雲攀盡幾驚魂。又被人扶命脈存。
太郎元是一猢猻。欲墜搖々猶未墜。

▲長白山

肉食因循時局艱。紛々牛李幾時閑。
胡馬高嘶長白山。黨人離合君休說。

▲天狗泣

勿驚一萬二千圓。辯護料爲烟草烟。
鼻梁三尺落那邊。銀座街頭天狗泣。

▲是有能

臺閣欲崩猶未崩。經綸事々屬模稜。
畢竟無能是有能。太郎依舊叨恩寵。

▲一星火

末路英雄亦可憐。雞鳴狗盜舊盟遷。
安得再燃焦九天。寒灰尙宿一星火。

▲多衰耄

陌上轔々駕電車。老駑憔悴奈渠何。
玉食金衣擁翠娥。衣冠亦是多衰耄。

▲無用文

高談哲理漫紛々。無用少年無用文。
華嚴瀑布待諸君。今日何勞祖龍手。

▲狗肉多

漫慕虛榮逐世波。狡兒巧把少年羅。
其奈羊頭狗肉多。紛々大學爭標榜。

新へなづち

矩羅枳

富士登山會員なる尾上柴舟ぬしに詠みて
送りける前句附の中に

圖を披いて先づ細君に說明し
（此所が〳〵と〳〵）

雲の峰しらみのやうに這ひ上り

(六根清浄〳〵)

其當座意氣猶天井を凌ぐなり

(威張りこそすれ〳〵)

三四日羽根が生へてる心持ち

(ふわり〳〵と〳〵)

下山し腿を痛がる二階住み

(御苦勞な事〳〵)

日光中宮祠湖畔なる川上三槐の許へ云ひやりける前句附の中に

藤村は瀧壺の中で避暑旅行

(羨まれぬれ〳〵)

まう山も鼻についたと十日過ぎ

(退屈な事〳〵)

躰のいゝ島流しだと山で云ひ

(日の長い事〳〵)

川上三槐の咏みておこしゝ歌

百不足八十の隈路に通へばか荒瀧の音の常従異爾聞久

寛父古女史の咏める前句附

キユビツト矢の拂底に度々弱り

(忙しいと〳〵)

出版界の近況を聞きて咏める歌

石の上、ふりぬる人の、朝宵に、思ひ深かめて、物學び、明らむまにま、成り出でし、書ちふ物は、人國の、代々の寶と、昔より、人もたふとべ、そこ故に、其名は朽ちず、其いさを、長く傳はへ、黄金にも、玉にも勝され、然かれこそ、活字の業の、容易けく、開けしまにま、夷茶月の、仇事文の、世にひろく、行はれしを、人なげき、我もなげくを、猫の目の、早も移りて、富作る、捷徑知ると、成功と、名に負ふ、雑誌の刷高の、急に増せれば、都なる、文商人も、際物の、文作り人も、諸共に、一夜の内に、金持になるちふ法、外ッ國の、大金持の、越し方を、書きて綴れば、それおしも餓に泣く兒の、乳呑むなす、喜び讀むよ、世の青年ども



讀者之文壇

憂ふ可き現代の風尚
（教育者は何と思ふか）

TM生

舞踏や假裝戯の流行した時代は已に遠く過去つたが今にして思へば實によい歳をして居る連中迄が臆面もなく馬鹿な眞似をしたものである、けれども其時代と今とはどれ丈違ふかと云ふと不眞面目な程度に於ては餘り變つても居ない、それも其筈でツイことし死なれた某侯は随分花柳界で持てた人であつて侯が先年廣嶋へ來られた時などは一坐の官人に踊らせたと云ふ亂痴奇な事もあつた程不眞面目であつたにも拘はらず其人が風俗改良會とやらの會長であつたもの、世間の沙汰は迚も眞面目には聞かれないのである。

マアそれは夫として扨此頃余の鈍脳をひどく刺撃して居る事がある、それは他でもないが

（一）一二の高等な學校で演劇めいた眞似をする事

（二）貴婦人令嬢の中に活人畵とか何とか云ふものゝ役者になつて得意げに見られて居る者のある事

是等の仕方に付ては一向世間で何とも評定せぬかの様に思はれるが唯一つ日本新聞で學校の仕方を一寸非難した人があつたばかり其他では全く沙汰なしてある、そこで之は大分今の人氣に叶つて居る所作で何誰のお氣にも召した事であらうかと考へられるが儘よ余は余の一了簡として聊か之に對する鄙見を述べたいと思ふ。

世間に壯士俳優といふものが出來たのは明治廿一二年の頃であつたらうが其傾向といふものは恐ろしいもので青年書生の之に赴いた者は段々殖えて來て今の樣に盛んになつた、其中には俳優にして置くのは惜い人物もないではないがアレも三日すれば罷められまい事の一だらうからドウモ仕方がない、そこだテ人の習慣に養はれると云ふとは恐ろしいもので俳優めいた事が好

きてあればツイさういふ事をする、すれば段々それに近寄る、近寄れば遂にそれになつて了ふ、なつて了へばなかなか足を洗ふ譯には往かない、尤も必らずしも俳優になるのが惡いと云ふではないが可惜有爲の青年をそれにして置くよりは他のモツトよい事に役立てたいのは誰も願ふ所であらう。

然るに今言つた樣な次第で段々と壯士俳優も殖ゑたが夫等の點から考へ又一方で前の樣な事が行はれるのを思ひ合して見ると現代の一般の風尙は甚だ面白からぬものになつて居はすまいかと思はれる、勿論前の樣な事をする人はナニモ俳優になる積りでないとは知れ切つて居るのであつて其目的の甚だ善良なるには余と雖も感服して居らぬではないが併し其處までにはしなくても……と斯う思ふからして實はさういふ事を新聞紙上で見る度每に陰かに顰蹙して居るのである。

むかし羅馬では非常に貪食することの流行つた時代もあれば又英國では嬖臣が好んで毛を縮れさせることの流行つた時代もある、支那の書物にも楚王細腰を好んで宮中餓死多し抔といふ事もあるが之はよし虛僞か誇張にした處で一般にさういふ怪しい風尙になるのは何れの國にも能く有る事で其影響といふのはなか／＼容易ならぬものである、けれども擧世滔々これに赴て夫れがよい事として是認せられる時はツイそれに氣が固まつた風習になつて涅齒や纏足やコルセツトの樣に一寸改めることが出來なくなる、それはかりではなくて演劇的趣味、俳優的風尙を一般に推及ぼすと云ふ樣な事を上流社會や學生社會から（よし間接にもせよ）奬勵するかの樣な仕向を爲ると譯のわからぬ者は忽ち夫れに倣ふことになる、左なきだに下等社會はもとより世間のわからずやは娘に遊藝を仕込んで舞會などに出すことを得意として居るので每度小學校のしつけと家庭のしつけとが一致しないことが多いにも拘はらず今高等な學校やら上流社會で以てあゝいふ事を爲る事になるとサアたまらない「なんの構ふものかアノ人達だツて斯ういふ事をするではないか」と益々乘氣になつて了ふのである、元來何事も西洋かぶれて歐米で行ふ事は皆よいかの樣に心得て其眞似をするのは日本男兒又は日本婦人の本領といふものを沒却するのであつて甚だ感服し難い考へである、そんな事をしなくても或る目的を達する手段は澤山あるのであつてチツとも困ることはない筈であらうと思ふ。

今斯いふ處から推考へて見ると世間はよし不景氣で泣

いて居るにもせよ苟且偸安太平の夢を貪つて榮耀の餅の皮を剝き西鶴が云つた樣に「月代を夢見て剃らせる」と云ふ樣な連中が余程多くて大分其調子が狂つて居るらしい、今に看たまへ乾度田舍の小學校などでも演劇が始まらうし所在お祭禮騷ぎを起して子供などが大いに浮かれる時代が來るであらう。
ア、此現代一般の風尙は俳優的であつて演劇的趣味を學事の上社會事業の上にも加へて來たのである、ナント之は憂ふ可き現象ではあるまいか。

麵麭屋店頭の感

落葉女

今や都下幾万の學生諸君は茲暫く青山綠水の地に去り玉ふ、我パン屋たるものも此際大に靜養の機會を與へられたるを謝せむばあらず。
さりとて避暑などは夢にもなし得ざる所せめては一枝の禿筆を驅りて暫らく世の懊惱より免れんかな。
(一)博覽會開場せられて程なく我萬障を排して始めて關西下りを試みぬ、之れ勸工場を少し大きくした樣な博覽會を見度きためにあらずして、偶には雷樣の不在に由りて、憐れの店員にも心延々と打ちくつろかせ度くもあり、且つは名にしあふ須磨明石の月に俗腸を洗ふも一興と、大膽にも一週間の旅行を企てつ。
歸京すれば留守居なせる我實妹悄然として錢箱を指して曰く「姉上よ妹は姉上の如く御世辯がないから賣上額が少くして申譯ありません」と、我は實に其意外なる小妹の觀察に憤慨せざるを得ざりき。
世にあの人は如才がないから子弟が懷くとか、口先が甘いから釣込まれるとか、彼の女は愛嬌があるから人が好くといふ人あれど、之れ誤解の甚しきものなり、至誠正義を以てすら猶容易には動かざる當世の人心、況して根無き世辭と僞りの愛嬌を以て豈いつまでか欺き得んや。
さらば所謂人を吸引し、人に好かるゝの魔力は如何なる點に在りや、あゝ實に内に眞實の籠るあればなり、故に試みに見よ豪らき人物の下に訓陶さるゝ子弟は、其人物の高き程我こそは先生の最寵兒なりと己惚るゝものなり、之れ其先生なるものが八方美人主義を振蒔く故にあらずして、一己〳〵の性情に依て親切と眞實を以て彼等の踏むべき道を示せばなり、誰か僞善者に向つて崇拜に均しき尊敬を拂ふものあらむ、我れパン屋のお内儀さん、有美先生の痛罵なくとも薄德淺智の一賤婦なるを自覺せり、たとひ聲のしやがれる迄愛嬌

を述べ頭を千万返下げて嫣然たるも、誰か嚢中の黄金を拂ひ行くの愚をなさんや、只我は經濟の許す限り得意の便宜を計らんこと、實に我唯一の希望なるなり、されど事、心と屢々齟齬して、我が望みの遂げざるを憾みとするのみ、生徒募集にあれ商法の廣告にあれ、新聞の半ページを費して大々的廣告文を掲載し、或は一種異様の扮裝をこらして音樂隊様のものに數万の札を配布せしむるも莫大の廣告料に價する一片の眞實には如かざるなり。

(二)我店員を採用するに、學資なき學生を以てせず、是れ甚だ冷酷に似たれ共、我れに一つのオピニオンあればなり、勉學の傍ら勞働するといふには生活程度今日の如くしかし高からざりし十余年前の昔話となれり、所謂先覺なる人殊にキリスト教界の錚々たる先生方が、頻りに學生を奬勵して、青年は須らく獨立獨行の志なからざるべからず、妄りに人に依賴して憫みを乞ふは活氣ある青年の潔とせざる所なりと敎えたり、而して貧學生は課業の餘暇二三時間を割きて外國敎師に雇はれ、庭の隅を圓く掃木で撫で廻はし、或は學校のベルを鳴らす位にて容易に勉學するを得たり、されど今日は只食はん爲めにさへ日夜營々背に汗して、猶ほパンに有就くを得ざるに至れり、況して勉學をや、於是遂きには頻りに獨立苦學を主張したる先生方もギックリつかへて途方に暮れざるを得ざりしなり、されど先見の明ある方樣は早くも茲に心就き玉ひ、彼等貧書生の聊か望みある者をば富豪の家に養子に嫁に周旋して、一ト先づ彼等の始末を附けたるもありと聞く、あゝ幸福なる青年よ、諸君は一躍して豪家の婿君と出世せり。養父を欺きては學資を引出し。喫烟より初めてビールに進歩し、更に一鞭を加へて闇燈ほの暗き邊りに胡座をかき玉へ而して以前の渇を充たし玉へ、忘却は祝福なり昔の窮迫を忘れ玉へ、昔の戀人も忘れ玉へ而して君等は眞に最幸福の人たるべし、薄運なるは時勢おくれの愚正直者よ、今も猶先生方の煽動を眞に受けて、苦學以て獨立の志を貫かんと思へり、憫むべきは此種の迂幕なる青年なり。故に我以爲らく、少くも學資の半額を支辨し得るか、又は健康精神共に非凡の人にあらざるものは、寧しろ初めより勞働、別言すれば實業に心を入れ、尙ほ餘暇あれば勉學せん位の希望を以て方針を定めなば、何時如何なる怒濤に巻き込まるゝも、いつかは浮ぶ瀨も見出し得べく、割合に危險少く功多きに庶幾からんか、之れ空想にあらず、我の親し

く實見したる所なり、人は二人の主に事ふる事能はずと昔の聖者はのたまへり、學問と勞働との二途にまたがりては何れの一つに對しても、專心從事する事能はず、徒らに不可能事に向つて齷齪焦燥し、あたら青春の血と熱とを消滅し去る者幾何あるを知らず、亦悲慘の極ならずや、然らざれば彼等の或者は終に一種の破落漢、強請人となり了らんのみ、彼等の前途實に寒心すべきものあるなり。

(三)我又クリユチアンの子弟を採らざる一つの理由を有てり、されど恰も男を當てならぬものと諦めて猶ほ當にする如く、當世のクリスチアンほど信を措き難きなしと日頃絕望の聲を發しつゝ未だ一縷の命脈を繫ぎ、終らかとクリユチアンの優しき名に心を許して雇入れ、飼犬に手を喰まれしこと再三にあらざりき、彼等は所謂恩惠に馴れ易くして、感謝の念更になきものなり、橫着、生意氣、不正直、勞働厭ひ、不平、不滿足はクリユチアンの家庭と日曜學校より涵養せられ、注入せられたる諸德なり、又平等主義を妙に曲會して彼等の目には主僕の差別なく、主命を素直に服從することを能はざるなり、故に却て普通の年期小僧は辛抱強く使ひ能く、成績も亦數等彼等に優れるを見る、我は終にクリユチアンの子弟なるものに全く愛想をつかしたり。

(四)我又店員を使役するに可成男女合併して勞働せんことを奬勵せり、人は一種の好奇心を有てるものなり、恐い者見度さにて、甚しく束縛干涉を受くれば必ず反動を起し、險を冒かしても其恐ろしき者を窺ひ知り度く、觸れても見度なるものなり、されど自由に放任にして關門を開放し、常に男女相接近するの習慣を就け置けば、いつしか男女の區別といふもの互ひの目には著しく感ぜずなり、從つて醜態も伴ひ來らざるものなり、恰も妙齡の兄妹同棲する共其間の危險を疑ふものなきが如し、凡て斯る種類の怪聞は、いつも形式的學校若くは束縛干涉至らざるなきへボ道德呼はりの聲高き邊より洩るゝを常とす、我又之を聞けり府下最高等學校の敎授數名嘗而地方の旅舍に泊せる事あり、旅は恥の搔捨て客舍の無聊を慰めんとや妙な腕比べは八字先生の間に初まりたり。

甲先づ誇顏に言を發して曰く、余は處女の純潔を汚かしたること幾回、諸君我敏腕を感嘆せずやと、乙曰く僕は他國の花の幾枝かを盜みたり、丙之を打消して曰く諸君は未だ／＼我は外國婦人を手に入れたりと、

果呆然垂涎三尺彼が功名を大に羨みたりと、壁に耳あり障子に目あり氣慨ある宿屋の下女の口よりいつしか洩れ傳はりて我耳に迄達しぬ。

骨相學より見たる春畝先生

其二

赤坂の 觀相先生投

これから先づ、ズットお下り遊ばした御目じりから、光り輝やく御ん額へかけて、才智を現はす機關が現はれて居る。髮の生え際から上……といつた所で、今のやうな禿頭では、何處か生え際やら、判斷に苦しむが、前頭部の中ほど、婦人ならば、あれ富士額ですわと、オホン、鏡へ自惚れやうといふ所、是が高く出て居ると、御若い婦人は、おデコだの、おカメだの、といつて、酷く氣になさるが、骨相學の方でいふと、此處の出て居るのが却つて佳いので、其おデコたり、おカメてあるこそ、智慧が澤山ある徵候、良人にとつては至極有難いものてあるのに、御婦人方は何て是を氣になさるか、我輩トント合點が參らぬ。察する所、是が余り出て居ると、良人より余り智慧があり過ぎて、若し萬一尻にでも敷くやうなことがあつては、といふ舊幕時代の女今川流から、是を醜としたものであらう。若し、さうであるとすると、御本人樣にとりては氣の毒千萬の至りであるが、併し、明治の御代になつてから、女今川流もはやらなくなつて、四斗樽や、挽臼のやうなのが、侯爵夫人……オッと失敬、子爵夫人だの、男爵家令孃だのと澄まし込むやうになつたから、何もさう御心配なさるに及ばない。いや、なに、青年諸君、諸君は、是から先き、同じ學校もどりの海老部式部に目を着けるにしても、是等のおデコ孃、おカメ孃、換言すれば

▲骨相的美人

に目を着けて、早速青柳流を實行したが可からう、我輩も、獨身者である、直ぐかういふ美人を申し受けて、伊藤侯爵と共に艶名を流したいものであるが、惜しいことには、山の神が鎮座ましますから、さうは出來ない、オヽ。ツイ、婦人に計り身が入つて肝心の骨相は何處へか行つてしまつたが、話頭、前に戻つて、扨、伊藤侯のおデコ、是は失敬、伊藤侯のお額、其御額の最上部にある機關、是を比較機關英語で「コンパリソ

ン」といつて、是が發達して居るのは、物事の比較を取つて、其比較から割出して道理を辨ずる、即ち西諺にも、比較は智識を生むの母なり、とあつて……などゝ、むづかしく云はなくつても、侯の行動を御存じな方に夙くに御承知であらう。是に次いで此處へ鄰り合つて居る所、是は科學者などに著るしい特徴で、原因を推して結果を知るといふ作用、是が大きいのは發明や創造力などに長けて、人の考へによらぬ事を初める侯爵閣下が此能力に富んで居られることは、夫ほどの政治通でなくつても、苟も明治の政治史を知つて居るものは、大抵合點が行く筈……いや、日本人計りではない、外國人迄も認めて居る、所で此機關に次いで、賞め立てねばならぬのは、眼尻の所へある辨舌機關、眼尻の下つても辨だけは下らない。抑も、平和の武器は舌と筆とである、二十世紀の政治家は……などゝ聞いた風のことを云ふまでもないが、閣下が此武器に長けて在つしやることは、其ブランデー的酒量と共に隱れのないことである。閣下を悪くいふ人は、ナーニあれは伊藤の演說ではない、

▲ブランデーの演說

だ、何の舌が廻るものかといつて譏るが、是は辨を聞くことの出來ない聾のいふことで、今の大臣の中にだつて、草稿なしに饒舌り得るものが幾人あるか。成程ブランデーは召し上がるに相違ない。其勢ひを借りることもあらう。併し、それは、ほんの勢ひを借る丈けで、原は、どうしても、天凛の雄辨機關が發達して居るからである。若し、ブランデーで演說が上手になるといふなら、天下ブランデーを呑むものは、皆辨が上手にならねばならぬ筈、土手で水割のブランデーをあほるものや、繩暖簾でコップ一杯をきめ込むものは乾度雄辨家にならなければならぬのに、そんなことは、一向新聞にも見えない。いや、余りあほりつけると、却つて舌が廻らぬといふではないか。

短文（近時の出版物に就いて）

▲吾れ常に出版物と女郎との關係を言ふ、試みに擧げて見んか

(一)共に人氣商買にして客の悦を相手とす

(二)共に店頭の飾り物となりて顧客遊冶郎の一瞥を待つ

(三)表紙服裝共に派手を貴ぶ紅紫燦爛店頭に並列、以て人目を引かんとする一なり

(四)面さへよければ内容はどうでもよし

(五)女郎出版物共にツキ出しの日より半月又は二三ヶ月間最も善く賣る、其全盛期の短き相似たり

(六)出版物の古物と、女郎の古物は二束三文、誰れ顧みるものなし、其末路の憐れさ加減相似たり

(七)客の已に顧みるものなく、店晒らしとなつて其表紙の色褪せたるあゝ彼のお茶引き女郎と何ぞ相似るの甚しきや

(八)朝に越郎を送て夕に吳客、一片の朱唇萬人嘗む節操なんぞのあろう筈なし、只目指すはいかに欺いて人の金を捲き上げんかと云ふにあり、朝に戀愛物を描ひて夕に宗教物を書く、同一の材料萬事應用、主義なんぞのあらう筈なし、只願ふはいかに欺いて多く賣らんかと云ふにあり

(九)手練手管相似たり、浮氣相似たり、薄情相似たり、

(十)文士が書店への身賣りと、女郎が青樓への身賣りと、共に一生を汚がす相似たり共に苦さの爲めなる相似たり

(十一)海に千年山に千年の女郎は其手管に依りて客をアヤナスに最も巧みなり、海に千年山に千年の文士は其出版物に依りて世間をゴマカスこと最も老練なり

(十二)二度の勤めと云ふことは出版物と女郎のみに多し

(十三)其源氏名を撰ふに注意す、其題目を撰ふに注意す、共に人氣に大關係有り

(十四)田舍女郎田舍出版物其土臭きこと共に一なり

(十五)女郎界出版界共に冬枯れ有り共に紋日有り

(十六)共に青年を毒す

(十七)吉原細見の世に與ふる害と圖書目錄の世を誤まる害と伯仲の間に有り

(十八)出版屋の阿爺、女郎屋の親方、何ぞ強慾さ加減の相似たる何ぞそれ女郎と文士を虐遇するの相似たる

(十九)小格子有り大店有り、博文館金港堂はそれ角海老稻弁か、

(二十)出版物は死せる女郎なり、女郎は活ける出版物なり　(白金生)

▲博文館はどうても出版界の王てある、教科書事件の一頓挫、多くの書肆が秋風寂寞たるに反し、獨り、春風駘蕩の觀あるは博文館なり、且つ博文ものに近來比較的駄作物少なくなりたるも結構なり、併し同館特有の廉價と云ふこと漸々其特色を失はんとす惜むべし。　(波嶺)

▲色餓鬼青年共が歡迎した、大學館の亡國的出版物が、近來少し止んだので、やれやれ、と少し安心して、一息つけば、今度は、グット方面を變じて、成功秘訣とか、出世の何、立身の何、とかツて、本が、大分流行しだして、何んでも構はないから、早く月給鳥になりたいと、アセりつゝある、我利々々青年に、もてはやされて居る、人間の慾が、種々に變はる事は、近來の出版物てチヤント分る。(岡山、紫虹)

▲戀愛去りて後宗敎來り、成功來る、偖て此次に來たるものは何てある？冒險もの家庭ものこれ我輩の豫言。　(ち、か)

▲誰が何と云はうが近頃世を益した出版界の大關は

金森氏の貯金のすゝめ

弦齋氏の道樂小說

此二つてある　(H S.)

▲何れの階級を問はず、年を追ふて益華美に流れ行くは、我國現今の通弊てある。貴族院議員の多額納稅者ならば、金側の時計を持ても差支はあるまいが、天坪棒て世を渡る八兵衛には決して絹布を纏ふ事を許さぬ、人は自己の分限を知らなければならない、徒に豪奢に走る人々には少しく日本の富の程度を考て貰いたいものである。

一人でも多くの讀者を得たいと云ふのが著書出版の目的である、而して一人でも多くの讀者を得るには出來得る丈け廉價にこれを賣らればならぬ、ところが近時の出版物は如何である、內容はどんなでもかまはないて、唯モオー躰裁丈けを無暗に立派にする、其廣告に曰くさ

近來稀有の好著、世界無比の偉作、クロース背皮金文字入、頗る美本、以て室內の裝飾ともなす可し、當世紳士たるもの是非一本を備へざる可らず。

なんて實にあきれかへるではないか、だから價がステキに高くなつて、讀みたいと思ふ人でも經濟が許さぬところから、買ふ事も讀む事も出來ない樣なわけになる、これ著者の罪であらうか或は又出版書店の罪であらうか。

蘆花先生の『不如皈』『黑潮』は如何である、實に近來の讀みものであるにも係らず其價の安い事は彼の金色夜叉などに比す可きでない、宜なり『不如皈』『黑潮』が僅かの間に既に幾版と云ふ數を重ねて居る事やた、是單に『不如皈』『黑潮』が近來の傑作であるといふ許りではない。若しこれが春陽堂や博文館の手から出版されたものならば、吾々の如き貧乏者には迚ても讀まるゝ小說でない。

千古に傳ふ可き大著述であるならば、相當の躰裁も保ればならぬが、三文の價値もない駄小說までも、金ピカ銀ピカにする程日本の富は進て居るか。（芝觀父寄）



▲少し古くなつたが成功に就ての出版物は一時仲々の隆盛を極めたものであつた、頃日また藤村操の、投瀑以來めつきり倫理學に關しての著作が增したやうだ、何でも流行々々の世の中とは言へ、學者先生達の著書迄が投機的になつたのは情けない次第じやないか、（六兒）

▲先頃伯母さん所へ行つたら親類筋の女客が數人も來て居ての話に、「マア弦齋と言ふ人は眞個に私達の爲めになる事ばかり書いて吳れる人れ、嫁入前の娘達には是非讀ませたう御座いますワ、それにうちの娘などは弦齋と言ふとすぐ嫌な顏をするんですよ」とこぼして居た、覗いて見ると席上には食道樂酒道樂なんかゞ澤山積み出してあつた、そして自分は此人達の娘は必ず寬風懸風、椿姬なんかの愛讀者であらうと即座に考へた。（六兒）

▲淚香氏の天人論は發行當日既に賣切となり、今や第十版を出した、大分儲けましたナ。（華厳生）

▲有益なる近時の出版物、僕は之を弦齋の食道樂に推さざるを得ない、眞理も哲學も遂にパンの支配外に立つた事は出來なからう。（小庵人）

▲僕は世が文明になるに從て、出版物の多ひのには實際閉ひた口が塞らん位だ、曰く何曰く何曰く何と日々新刊物が增加する、而して其の內容は如何であるかと云ふに、殆んど千篇一律的だ、同じ樣な事を幾度も遠慮なく臆面なく繰り返して居る、同じ經濟書でも幾通り

あるか知れやしない位だ、ヤレ此書は文章平易、明瞭簡單であるとか、或は苟も經濟學の奥義を知らんと欲するの諸氏は須らく此書を座右に備へざる可らず、なぞと宜い可減な駄法螺を吹き立て世人を瞞着?して居る。有体に近時の出版物を評せば其内容よりも寧ろ外面に重きを置きはしないかと思はれる、試みに東都の書店に足を留めて見給へ千百の書籍は赤、青、白、黄、緑、紫等の諸色に彩色せられ彼方此方に互に入り亂れ、堂々たる書店は之れ一の絵草紙屋の感ありだ。先月の讀賣新聞に「頼山陽は日本外史を書く時に其表紙などに少しも氣を留めなかつたが今の書籍は之と反對に其内容よりも表紙の方に餘程苦心の跡が見えると書ひてあつたが、成る程實際動かす可らざる事實だ之れも現時へボ文學先生の跋扈が大に其原動力となつて居るのだろうよ。（信州稻荷山町R.S.T.）

▲文學的際物の出版は既に過去に屬し、目下の出版界を一見すれば滔々所謂成功てふ事に關するものならざるはなし、噫盛んなる哉成功書類の出版や、而も其嘖々として人心の歡迎を買ふに至ては吾人意外の感無き能はず、成功、成功！知らず國民を擧げてカーネギー、モルガンたらしむるの意乎、然れども米國に於てすら千萬の人中、僅かに一のカーネギーモルガンありて、千萬のカーネギー、モルガン無きは何ぞや、之れ百人に由て分配すべきを一手に横奪せるが爲めなりと知れ、吾人はかゝる病的思想の青年の前途を誤り、社會の組織を紊すを憂ふと同時に、出版界の之が爲めに跋扈されんとんとするを嘆ずる者也、心せよ、心せよ、苟くも筆を以て文壇の一角に立てる文士よ、常識と理性に鑑みてかゝる書類の亂作を謹みて可也。（葦西生）

▲一般の讀書眼が講談物や駄小說に飽いたと見えて、近頃俳書や及び偉人の言行錄や宗教的倫理的の出版物が漸く盛ならんとするは、我國讀書界の爲に嬉はしい兆であると思ふ（琵湖舟）

▲如何に我國人の根性の拙ないか、書籍に金を惜むかは、近時の出版物の多くは一圓以下特に二三十錢臺の小冊子が賣行のよきによつてもほゞ察しられるであろう（仝）

▲近時の出版書籍に上製並製の二様に別けて價に高下を付ける事をやり初めたが、我々貧生の爲には頗る意を得たやり方である、所謂ツクドク（積ンデ置ク）主義の連中には總皮金文字入てふ製本の美なのが好かろうが僕等は其内容さへ違はなけりや製本の体裁などはどーでも好いと云ふ方だから、少し高價の書籍には將來どし／＼此法で出版して貰いたいものだ（仝）

課題

我國の富豪に就いて（九月拾八日）

我國の女學生に就て（拾月拾八日）

新刊紹介

▲巽軒講話集　二編

文學博士　井上哲次郎述

東京日本橋區　博文館發行

著者曰く、人には動物的生命と精神的生命の二個あり、動物的生命を支ふるが爲めに營養を要するが如く、精神的生命を保つにも營養を要す、此書は精神的生命の食物として供したるものと、收むるところ卅二編、我國思想界の有ゆる方面に亘り巽軒一流の評論を下したるもの

宗教革新の前途
支那文明の缺陷
女子と文藝
理想と進步
人格の價値

等は最も有益の文字なり、巽軒宗の信者に採り營養分最も多き食物たらん（八拾錢）

▲大乘佛教史論　文學博士　前田慧雲著

東京本鄕　文明堂發行

大乘佛教の教理、系統の異同等を著者の明晰なる頭腦に依に分解し、之を歷史的に叙述したるもの、考證適確近來の好著なり、大乘の教理が佛陀在生の當時已に崩芽を發し居たることを例證し、眞如緣起論、阿賴耶緣起論、實相論等の出所變遷の次第を明かならしめ、併て其教理の槪梗を示す、佛教貫通の根本義を知らんとするもの、及び大乘佛說論者非佛說論者共に一讀して大に自家の誤謬を知るべし、村上博士の佛教統一論と兩々相對して佛教界近代著述の雙璧と稱するを得べし、製本堅牢、紙質頁好、（上製九拾錢並製七拾錢）

▲人間論　湯朝觀明著

東京日本橋　文綠堂書店發行

著者が人間と云ふ動物に就ての意見である、批評である、研究である、獨斷である、總論、生、社會、戀、死、結論の六章に分たれて、高才辨と云ふものを附錄として居る、一寸氣の利きたる躰裁能き本（三十三錢）

▲ヴイカー物語　淺野憑虛譯

京橋區銀座一丁目　大日本圖書株式會社發行

有名なるゴールドスミスのヴイカーオブウエーキフヰールドを、著者が巧みな言文一致躰を以て譯したもので、頭注など叮嚀に、原本と對照して益する所が多い。最も嬉しいのは近頃或一派の作家譯者が頻りに本文よりも所謂大家の序文を氣にするのに反して、是は至極輕妙に原著者の評傳を揭げて、宛然其人に接するの思を起さしめる。物語は譯者自らも馬琴の南柯夢めきたりと言つてゐる通り、總てが變幻極りなして、美くしい戀も語れば、嚴かな教も說き、田園あり、牢獄あり、悲慘あり、滑稽あり、詩思橫溢、獨り面白きヴイカーが人生觀のみには止らない。不淨な戀愛小說に渴仰してゐる青年、勝手な哲學熱に煩悶してゐる學生輩は是非一讀すべきである。我等は此書のかく世に出てたると共に、大に譯者の勞を謝せねばならぬ、（定價五拾五錢）

▲歲事記例句選　上　寒川鼠骨編

東京神田南甲賀町　內外出版協會發行

近來俳句に關しての出版物は頗る多いが、最も讀み易く、最も分かり易く、最もためになるのは蓋し此書であらう、部類を新年、春、夏、の五に分ち例句は廣く各時代の粹を拔いたものであるから、單に俳句が好きと云ふ人、又苟も俳句の片端をかぢつた程の者ならば必ず一本を供へ置く可してある。（定價參拾錢）

▲山家集　幸田露伴校訂

▲風流志道軒傳　饗庭篁村校訂

東京神田裏神保町　富山房發行

名著文庫の卷の八、九として出たもので、前者は近來頗々と各處より刊行さるゝ西行の詠歌集、後者は平賀源内風來山人の作、猶附錄には風來假名文選が添へてある。嚴正なる校訂を經たものであるから、他の是種のものとは大に勝れた箇所が多い、製本頗る雅美。(每篇一册貳拾錢)

▲嗚呼鑛毒論　田川大吉郎著

東京芝西久保巴町　現代社發行

鑛毒事件、誰か此聲を耳にして血の沸く思ひの起らぬものがあらうか、然も十中の八九、其血は著しく或一方に傾いて居る、一方の同情は同時に他の憎厭たる事は免がれない定則であるが、此間にあつて比較的中立不偏の態度を取つてゐるのは此書の著者である、其言ふ所も書いた所も最も中和で、夫が爲め嘗ては他の毀誹を招き攻擊も受けたやうであつたが、更に此に從來の見解を固守して現はれたもので、著者が此問題に付て何れ程眞摯でどれ程苦慮してゐるかは、此書に就ても明かに知られる、(定價參拾錢)

▲哲學館事件と倫理問題　續篇　清水清明編

東京本鄉四丁目五　文明堂發行

日本には必ず每年或忌々しき事件が起らねばならぬと見へる、そして其等の件は嘗て一も立派な解決を見た事はない、十何年已に久しい物質上の鑛毒問題が猶依然として解けない今日、政府は更に一步進んで哲學館事件と云ふ精神的鑛毒を社會に押流して、自らは之を冷視して居る、どーして之を默して居らる可きと此際多數學者の意見は發表され、輿論は烈しくなり、遂に問題の主眼者ム教授をして一篇の辯妄書を送らしむる迄に至つた、誰の責任ぞ、誰の罪ぞ、畢竟文部廢止など言ふ聲も此邊から沸いたのではあるまいか、兎に角我等は此事件の決して輕からざるを廣く社會に傳へ、一部の覺醒を促さんが爲に此書を勸める、若し夫れ諸大家の見解、諸雜誌の論評に至つては此書に就て知れ、(參拾五錢)

▲將來之宗教　新佛教同志會編

東京小石川原町三　同會出版部發行

要するに日本將來之宗教はいかゞなるべきかといふ問題を携へて行つて、宗教を云々する諸大家に問ふたのである。恐らくは新佛教徒に非ずんば能はざる所であらう、釋雲照氏を訪ひ、大道長安氏を訪ひ清澤滿之氏を訪ひ加藤博士を訪ひ片山博士を訪ひ、三十有餘名の意見を紹介したる勞は慥かに感謝すべきものがある。其同人境野哲君の如き所謂意見を聞いて之れを筆記する術に於ては說話者が充分滿足するだけの技倆を有して居る。現に井上哲次郎博士の自說の一字一句をも假借しない人で、境野君の明確な頭腦を賞讃されたといふことである。而して此書は境野君と小野君との主力に依つたものだ。編輯の體裁は餘りに親切過ぎて却て餘白の少いのは難有迷惑、附錄の訪問餘錄は洋食に附物の菓子のやう、三百五十餘頁、實質多量、(定價七拾錢)

▲新島襄先生の傳　博士　デビス著

京橋區尾張町二ノ十五　警醒社書店發行

全篇四百頁餘の中多くは新島先生の日記書簡等であるから、本書は先生の自傳といつてもよいのである。嗚呼同志社の現狀に鑑み、日本社會の今日を思ふて先生の傳を繙けば轉た感慨の切なるものがある。東の方福澤先生、西の方新島先生、此兩大關は日本の建設者である。今は如何。譯文雄健明確、美裝。(定價一圓廿五錢)

▲學校生活　嘉悦孝子女史著

東京神田錦町二丁目　新聲社發行

敎育家庭小說の第一編として出でたり、筆もやさしく、話も可愛し、婦女子ある家庭には缺く可からざる近來うれしき著述なり文壇は新に此女作者を得たるを祝さゞる可からず(定價參拾錢)

▲春草秋草　大町桂月著

東京神田錦町二丁目　新聲社發行

桂月の文一種の稚氣あり靑年に讀まる、此篇春草には美文を收め秋草には孝女烈婦傳を載す皆誦すべし、而も遂に佛演の一夜當年の意氣は見る可からず、(定價貳拾錢)

▲續俳句初步　河東碧梧桐著

東京神田錦町二丁目　新聲社發行

俳句を學ぶは難し、著者則ち斯道後進者の爲めに之を著す、說明圖解總て嚴正周到、親しく其人に就て聞くが如し、(定價二十錢)

▲通俗宗敎談　一二三

本鄕湯島一丁目　昌平館書店

前田長太氏主幹のもの天主敎の信徒に頒ちて、平易に宗敎談を聞かしむる目的なりと、福音講義、聖人傳記、宗敎講談、家庭譚叢等宗敎趣味を帶びたる家庭雜誌として讀むべきものなり、(一部定價五錢)

彙　報

●北米合衆國への移住民　去六月末を以て終りを告げたる米國の昨會計年度間に同國に到着したる外人移住者の數は總て九十二万千三百十五人にして前年度に比し十九万〇五百十七人の增加なり內歐羅巴より來りたる者は總て八十一万四千五百七人にして墺匈國より二十万六千〇十一人伊太利より二十三万〇六百二十二人露國及び芬蘭より十三万五千〇九十三人瑞典より四万六千〇二十八人獨逸より四万〇〇八十六人愛蘭より三万九千三百十人英吉利より二万六千二百十九人諾威より二万四千四百六十一人なり歐羅巴以外の國よりは日本より一万九千九百六十八人西印度より八千百七十人亞細亞土耳其より七千百十八人なりと

●清國開市塲の人口　清國戶部衙門の最近調査によれば同國各開市塲に於ける人口合計は六百五十八万四千餘人にして其內最も多數なるは漢口及び廣東の各八十五万人福州の六十五万人天津及び杭州の各七十万人上海の六十二万人なり其詳細は

牛莊	五万人	天津	七十万人
芝罘	六万人	重慶	三十万人
宜昌	四万人	沙市	八万人
岳州	二万人	漢口	八十五万人
九江	六万二千人	蕪湖	十一万二千人
南京	廿二万五千人	鎭江	十四万人
上海	六十二万人	蘇州	五十万人
杭州	七十万人	寧波	廿五万五千人
温州	八万人	三都澳	八千人
膠州	六十五万人	厦門	九万六千人
仙頭	三万八千人	廣東	八十五万人
三水	五千人	梧州	五万二千人
瓊州	三万九千人	北海	二万人

龍州	二万人	蒙自	一万二千人
思茅	一万人	合計	六百五十八万四千人

最近の領事報告による

●京城仁川の本邦人

京城	男	一、九七六	女	一、四七八	計	三、四五四
仁川	同	三、四一三	同	二、五六〇	同	五、九七三

●東京市內小學教員の俸給　正教員各區の俸給を比較するに尋常科に在つては四ッ谷區の十七圓五錢三厘を最高とし芝區の十五圓三十三錢三厘を最下とし其平均は十六圓三十三錢五厘、高等科正教員の月俸平均額は二十二圓六十五錢五厘にして之を尋常科に比すれば實に六圓の差あり而して其最も高きを日本橋區の二十三圓七十一錢九厘とし最も少きを牛込の十九圓六十六錢七厘とす次に准教員尋常科の平均は十二圓五十二錢六厘にして最も高きを麻布區の十三圓八十錢最も低きを日本橋區と小石川區との十一圓五十錢とし准教員高等科の平均を十三圓三十九錢一厘とし最高は深川區の十八圓最低は日本橋區の十圓なりと

●佛國に於ける肺病の增加　巴里小兒病院長プアリォー博士の調査したる所に據れば同國小兒の三分一は肺結核の爲に死亡する由にて、五千五百人の小兒死亡者中二千七百人は肺結核病者にして、其餘の一千五百人は諸種の流行病に罹りたるものなりと、又千九百年に於ける巴里の死亡者割合は一千人に就き五、七九にして世界の他の部分に於けるよりも最も多し、之に次ぐは匈牙利四、八其次は露國三、六二次は墺地利三、五伊太利三、三七獨逸二、九一芬蘭二、五四米國二、四七瑞西二、三七英吉利一、四一諾威一、九等なりと云ふ。

●古社寺保存補助費　古社寺保存會の決定に依り內務省より左の如く下渡したり

京都府鹿苑寺金閣	一萬圓
同府平等院鳳凰堂	九千百十一圓三十八錢
大坂府建水分神社社殿	三千九百八十五圓四十七錢
奈良縣東大寺大佛殿	四萬圓
奈良縣橿原神宮本殿	七千九百七十五圓八十錢
同縣淡山神社十三重塔	七千六百三十五圓十八錢
滋賀縣石山寺本堂	七千六百九十七圓七錢
同縣光淨院客殿	四千七百三十二圓十錢
愛知縣萬德寺多寶塔	三千六百二十四圓四十二錢五厘
廣島縣嚴島神社廻廊等	一萬五千圓

●米國に於ける自殺　米國エール大學の統計學及び社會學の講師ペイリー博士の說く所に據れば同國に於ける自殺者の數は次第に增加し、特に高等教育を受けたる者に自殺者多く、從事せる業務の困難なるもの程精神病に罹り易く、隨て自殺を企つること多しと、又博士が調査したる北米に於ける千八百九十七年より千九百一年に至る自殺者の年齡に對する割合は左の如し。

（自殺者百人に對し）	男子	女子
二〇歲以下	四、四	一三、三
二〇歲以上三〇歲以下	二〇、五	三〇、二
三〇歲以上四〇歲以下	二三、五	二四、八
四〇歲以上五〇歲以下	二〇、五	二二、二
五〇歲以上六〇歲以下	一四、四	八、七
六〇歲以上七〇歲以下	九、三	三、七
七〇歲以上	三、八	二、二
年齡不明	三、六	四、四

又巳婚者及び未婚者等の自殺割合は左の如く已婚者の自殺數は未婚者よ

りも稍多し。

	男子	女子	合計
未婚者	三、一二九	九二五	四、〇五四
已婚者	三、八一九	九五〇	四、八〇七
獨夫又は寡婦	四九六	一八三	六七九
離別者	一三七	五二	一八九
不明の者	二〇二	六九	二七一
合計	七、七八一	二、二一九	一〇、〇〇〇

●聖路易博覧會と我國　今博覧會の我國に對して割當たる各館の出品面積は大畧左の如しと

教育	三千平方呎	美術	一万平方呎
工藝	八万平方呎	運輸	三千平方呎
農業	六千平方呎	林業	四千平方呎
採鑛冶金	五千平方呎		

●本邦と外國博覧會　本邦政府が外國博覧會に參同したるは今回の聖路易博覧會を合し前後二十七回にて就中巴里(二十二年)市俄古(二十六年)及巴里(三十一年)の萬國博覧會に於ける本邦の出品人數等は左の如しと

博覧會名	出品人	出品點數	出品物價格
巴里(廿二年)・	四六二人	五、九二九	九七、七五七・六七四円
市俄古(廿六年)	二、五五五	一六、五一三	五一三、四七九・五四九
巴里(卅三年)	一、四二九	二三、八五七	六七五、八五六・二七五

●國定教科書の飜刻許可方針　文部省は左の方針に依りて調査しそれに抵觸する時は許可を與へざる由

一教科書事件に關係せざる事
一圖書を飜刻し得べき財力ある事
一中途廢止の憂ひ無きもの
一社會の信用を失ふ可き行爲なき事

●赤十字社の年醵金未納者　現在社員八十七萬二千三百四十四人年醵金三、二七八、五四二圓一七四にして本年度のみの收入額は二、二九一、四四七圓〇二三なり然るに其實收は七五九、一五八圓八九五此内譯本年度分五五七、九四四圓二六九前年度分二〇一、二一四圓六二六にして未納金累計二、五一九、三八三圓二七二の多きに及べり其内譯は本年十二月迄に收納す可き分を合して一七三三、五〇二圓七五四前年度七八五、八八〇圓五二五なり斯く未納金の多額なるは數年前より累積せる總額なりと

●日本銀行大株主　最近調査六百株以上の分左の如し

東京	内藏頭	六九、六六〇	大阪	鴻池銀行	一、〇〇〇
東京	侯爵鍋島直大	一、七九五	東京	三野村安太郎	八七五
神奈川	横濱銀行	一、七八〇	東京	北岡文兵衛	八五〇
山梨	若尾民造	一、五〇〇	神奈川	茂木銀行	八五〇
東京	三井八郎右衛門	一、四四三	東京	伯爵酒井忠道	八四〇
神奈川	原善一郎	一、二五〇	東京	男爵岩崎久彌	七五七
大阪	住友吉左衛門	一、一六一	福岡	伯爵立花寛治	七五〇
東京	島津忠濟	一、〇五〇	鹿児島	公爵島津忠重	七〇二
東京	德川總子	一、〇〇一	東京	伯爵松平賴聰	六二〇
東京	侯爵前田利爲	一、〇〇〇	東京	男爵川田龍吉	六〇〇
東京	安田善次郎	一、〇〇〇	兵庫	川崎正藏	六〇〇
東京	中村清藏	一、〇〇〇			

●日本一の大船七千一百噸に過ぎず　我邦現在の汽船は郵船會社の新造米國航船安藝丸(六千四百噸)を第一として六千噸以上のもの郵船會社に十六隻東洋汽船會社に三隻あり七千噸以上のものは今度始めて長崎造船所にて製造に着手したり同船は郵船會社の注文にかゝり三十八年一月竣工の上丹後丸と命名せらるへしと云ふ其噸數實に七千二百

明治三拾六年

公論日誌

其九

公論日誌

公論日誌

自七月二十日至八月二十日

七月二十日、●外電、過日來病氣危篤なりし羅馬法王レオ十三世は本日九十二歳の高齢を以て逝去され候、遺書は其財産全部を教會に與ふべしとの命に候、△萬國電信會議に於て規則改正の結果明年七月より五字を連ねたるものは總て一語と定むるに決し候△西班牙内閣はヴィラヴェルデ氏によりて新に組織され候、△米國大統領はトラストに關する法案提出の目的にて特別議會を召集する由傳へられ候。●内報、近衛、渡邊國武等を戴いて新聞紙出來候由、△横濱には又々ペスト新患者二名現はれ候、

二十一日、●外電、英國波斯間の通商條約批准せられ候、●内報、本日土用の入り、内地の温度は宮崎最も高くして六十六度四、東京は二十二度五、△八丈島廳には卅四年度決算に付て大疑獄起らんと致居り候●東京、鑛山監督署より本日足尾銅山鑛業主古河に對し除害命令を發し候、△貴族院勅選議員小野崎通亮逝去、

二十二日、●内報、内務省は來る八月十日より地方長官會議を開くに付き各知事に上京すべき旨を命令し△聖路博覽會事務員は同總裁より上奏の結果安廣以下三十二名に任命有之候、△軍艦笠置馬關近海に於て坐礁、●東京、昨今の呼び物は河口慧海氏にて候、△芳原遊廓は此頃の不景氣のため廢業する者多く有之候、●本月中旬の貿易概算左の如し

		三十六年七月中旬	一月以降累計額
輸出品價		六、五三九、五七四圓	一三八、四二九、三九七圓
輸入品價		六、九三六、五四二	一八〇、八九四、二四七
輸入超過		三九六、九六八	四 、四六四、八五〇
輸出	金貨及金地金	四七〇、〇〇〇	三、五四〇、三六三
	銀貨及銀地金	七三、二五六	一、二〇二、〇二一
	計	五四三、二五六	四、七四二、三八四
輸入	金貨及金地金	一五二、三六〇	一八、七五〇、一〇八
	銀貨及銀地金	一八二、二三四	二、〇八九、六五〇
	計	三三四、五九四	二〇、八三九、七五八
金銀輸出(入)超過		出 二〇八、六六二	入 一六、〇九七、三七四

二十三日、●外電、英のマールボロー公爵はオンスロー卿に代りて殖民次官に任ぜられ候、●内報、大藏省にて其屬官に盗まれし公債四十二枚は悉く發見され候、△青森に於て本日第五聯隊凍死者埋骨式を行ひ山階宮殿下も參列有之候、●東京、本日青山墓地内の井戸に某海軍中佐の愛兒二人死せるを發見致候死因に疑ひあるやに噂有之候、親達の愁傷如何ばかりと被察候、●片々 本年は新學士の賣口甚だ惡く内々下宿の隅に頭抱へて弱り居る連中も少からずと聞へ候、●會合 日本漆工常會、△銀行集會所總會

二十四日、●内報、故黒田伯樞密院議長たりし時より同院翰長たりし小牧氏は此度都筑馨六氏と更迭致し候、△本日又々藤村を擬して華嚴瀧に投じたる者有之候遺書に死後社會より狂と云ひ痴と笑はるるも覺悟の上なりとは情けなき次第に候、●東京 從來反目甚しかりし市會倶樂部、公民會は共に解散して相提携するに至り候市政刷新に付て何よりもうれしき事に候、何時迄も此儘に願度候

二十五日、●韓國京城發電、露兵百四十餘名遼陽より安東縣に來れりとの報有之候、●東京、來る九月府會議員の總改選の爲め目下各區各郡に候補者選定中に候、●内報 臺北よりの發電は本年一月よりの臺灣の黒死病者累計八百三十八人死亡者七十七人と報道致候、△濱松にては今朝より車夫二百餘名の同盟罷業を演じ居り候、△今夜又もや大阪博覽會に二人の盜賊忍び入り一人は直ちに捕へられ候、△正五位勳五等

農學博士澤野淳氏逝去、

二十六日、●外電　佛國の諸新聞紙は同國の商議員が英國議會によりて歡待せられたることに就き深く滿足の意を表し居候、△京城發、義州森林監理廳は露人との間に龍巖浦租借條約を締結致し候由、●内報　政友會德島支部は本日解散致し多數の脱會者有之候、△女白浪鬼神の阿米捕縛され候亭主は早速離縁狀を携へ警察に出頭して阿米に渡し候由、此人は遞信省會計課の御役人に候、●會合　東京教育會講演會

二十七日、●外電　英國勞働黨のヘンダーソン氏はペンナーカッスルに於て代議士に當選致し候、●内報　大阪博覽會の大賊本日大阪にて捕縛され候、△九月一日より瑞西ゼネヴァに開かる可き萬國赤十字條約改正會議は延期となりし旨本日公電有之候、△文相は本日府縣視學官廢止に決したる旨文部省高等官に内示致候、●東京　盲唖學校卒業生二人蓬場附近にて舟遊の折柄一人は海に飛入りて危く溺死せんと致候を辛く通りがかりの汽船に助けられ候、一は唖者にて他は聾者に候、

●會合　勸業銀行總會

二十八日、●東京　市學務委員は高等三四年廢止案を可決し市參事會に提議中に候處一方には又之に反對說起り居候△尾崎新市長は行政改革の主意により本日技師、事務員等四十名を罷免致候、此結果俸額一千餘圓を節減し得る由に候△此頃の熱暑に耐へ難き上に苛酷の鞭韃に逢ひ鐵道馬車馬の斃るゝもの多く有之、本日も此虐待の結果馬は跳つて車體轉覆し乘客負傷、馭者は直ちに罰せられ候、

二十九日、●内報　本日文部省にて左の五名に學位授與され候

授醫學博士(論文提出)　柏村貞一　仝上　高安右人

授文學博士(論文提出)　前田慧雲　仝上(大學院試驗)蟹江義丸

授農學博士(論文提出)　澤村　眞

三十日、●内報　此月逝かんとして殺伐の擧を聞くもの哉、宇都宮に於て今朝渡邊金一郎と云ふ者菊池某の一族六人及び泊客二人を殺害し、一人を斬り、猶其家に放火したる上自身は火中に投して燒死致し候、聞くだに物凄き事に候、△第七師團附騎兵隊に於て夕飯の際豚肉の中毒にて三名即死、四名危篤、入院者四十三名師團は大恐慌に候、△舊自由派の宣言書發表され候、

三十一日、●外電　露國内部には殆ど革命に近き運動の新兆候現はれ、コーカサス地方ミカイロヴォの勞働者は同盟罷工を爲し鐵道に妨害を與へ軍隊之を襲擊して十人を殺し、又オデッサ府に於ても同樣の騷動起り、バクの同盟罷工者は石油工場に放火して七十の鑿井塔を燒拂ひたる由に候、●内報　文部省にては十七名の海外留學生を選定致候、●東京　昨今芳原に帝國自由小僧と名乘る老壯士有之候、實は只の竊盜にて候、△拙者は加藤清正なりとて八寸の出刃を振り廻して暴るゝ狂人ありしを日本橋署にて取押へ候、△岡田純夫(休職岡山縣師範學校長)死去

八月一日、●外電　有名なる佛國の空中航行者サントス、デュモンは戰用に供する目的を以て佛國政府に空中飛行の小艦隊を送りたるに陸軍大臣は之を受けたる由に候、△羅馬法王の繼續者を定むる爲めのカーヂナル會議は莊嚴なる式を以て開始され候、●内報　大坂博覽會は午前九時閉會式を擧行致し候、清浦副總裁令旨を代讀し一場の演說をなし無事閉會、△華嚴瀑の下流に死骸一個浮び候、●東京　神田中學校は本年十二月限閉校を命せられしが本日廢校屆を差し出候

二日、●外電　英國パースに於てクリケット競技中千五百名の見物人の乘れりし高棧崩壞し負傷者百五十名、入院者二十餘名、●内報　曾禰藏相は其の持論たる府縣廢合意見を行政整理の一端として提議し、見

玉内相　清浦法相之に賛同したる由、●内報　本日又もや華厳瀧より死骸一個浮び出て候、△一時世を驚かしたる博覧會の賊は重禁錮六年の刑に神妙に服し候、●東京　深川區湯屋宮村某は湯錢の爭より浴客の一人を滅多打し猶肴物にて首を締め人事不省に至らしめが間もなく取押へられ候此人が府會議員なりとは呆れ果てたる話に候はずや、△本郷根津に住する徳島縣人藤本佐吉と云ふ人今回踏走車と稱する一種の自働車を發明し特許出願中に候、

三日、●東京　日本、改良、吾妻等の五點燈會社が昨今激烈なる競爭の結果遂に點燈人夫はストライキを引起し申候、△板垣伯は愈々新政黨創造のため地方に遊說する事に決し候由、△横濵にて蘭人の自殺有之候、瑞西領事の會計役にて年六十六、●會合　東京市醫會、

四日、●外電　新羅馬法王サルトーは九票に對する八票の多數にて當選致しパイアス第十世の稱號を執る可く、本年七十五歳、伊國の人にて候、●内報　岐阜縣養老郡高田町にて家族四人を斬り巡査を傷け人家四戸を燒拂ひて己れは火中に刀を腹に突立てたるまゝ飛入り死したる者有之候醜鼻の極に候、△埼玉縣北葛飾にも無慘なる三人斬有之犯人は逃走致候、●東京神田豊島町にも剃刀を以て臍下に横一尺八寸深さ二寸計を切り大小腸を摑み出したる者有之候△芝區の或下宿屋椽下より嬰兒の木伊乃發見され候、今は早や大理石の彫塑其儘に成り居り候

五日、●外電　佛國ロリエントに於て重大なる同盟罷工及一揆起り亂民は同盟罷工者の吟味せられつゝある法廷に石を投じて亂入し三時間に及ぶ大爭鬪を起し候、●内報　政友會茨木支部は舊自由派の運動激しきため存在も覺束なき有様に候、△露國領事の子息三人本日相州海岸にて泳遊中溺れんとして大磯の漁夫三名に助けられ領事は十四圓の禮金を漁夫に贈り候、●東京　品川海にても遊泳中二人の溺死者有之候

六日、●外電　バルカン叛亂愈々切迫せんとする模様に候、△印度總督カーゾン卿の任期は延長せられ候、●内報　又もや横濵にペスト發生但類似、●東京　人力車夫と迄なつて其餘暇に勉强せる一青年糊口に窮して書店より書籍持逃げ捕へられ候、道を聞く人にして此事あり淺ましの至りに候、△本日市内に四人の自殺者數へられ候、一は、鐵道、一は切腹、他は共に劇藥自殺に候、●會合　對外硬委員會

七日、●外電　羅馬法王は其當選を伊國政府に通知せざりしを以て首相は官吏に訓令を下し祝賀式等に參列すべからずと命じたる由に候、●内報　政友會廣島支部は本日解散し更に山陽同志會を組織致候、△佛國郵船東京號火災損害は約卅五萬圓餘にて候、●東京　淺草觀音境内の名物なる鳩は去月末より突然斃死するもの夥しく殆ど三百羽に至るより本日病鳩、死鳩等を醫科大學に送り豫防方法を委托致し候、△對外硬派と新聞記者は今夜偕樂園に會合致候、△本日藤村操を學び大久保線路にて轢死を遂たる青年有之候、一種の惡疫に襲はれたる者と思はれ候、●演藝　高田、藤澤等の新派合同大一座は東京座にて、狂言は短慮の刄。平野國臣。空中飛行機、●會合、新舊市長送迎會　上野精養軒にて、

八日、●外電　露國内部の不穩は猶ほ減却せずコザック兵はキーフに於て二千の同盟罷工者に向ひて發砲し二十七人の死傷者を見たる由に候●内報　文部彈止の聲に對し之に反抗の運動起り候、●東京　例年の通り今夜は兩國の川開きに候別に何の不幸もなく相濟み候、花火は大低煙草廣告なりしを或人は次第に江戸趣味の減少するなりと申しき△巣鴨の瘋癲病院にて　本日太神樂酒井一座を招き其技藝を入院患者に見物させ候何れも愉快に感じたる由、△深川の法界節下谷の納所坊主及び無賴漢の三名は無錢にて牛肉屋に上り結局二圓餘の支拂ひ出

來ず各々十日の拘留を頂戴致候、

九日、今日秋立ち申し候、●外電　羅馬法王の戴冠式は盛觀を極め候、△バルカン半島の騷亂は愈々激烈を極め居候、△露國の動搖は引續きてニコライエフ洲の知事を傷け、警官を殺し、亂民も二十名の死亡者と二百名の負傷者を出し候、●東京　本日の對外硬大會にては左の決議を致し候、

露國をして撤兵條約を履行せしめ淸國をして滿州開放を決行せしめ以て東亞永遠の平和を確保するは帝國の天職なり吾人は我政府が敢て懈怠せず速に之を遂行せんことを切望す

△品川線電車は漸く運轉を試みるに至り候、△會合　全國教育會有志者茶話會。

十日、●外電　土耳其モナスター駐在の露國領事ノスコウキー氏は原野より市へ歸る途中土耳其の憲兵等の爲に射殺され候△佛國內務大臣コムブ氏は馬耳塞に於て短銃を於て二回狙擊されたれども幸にして負傷せざりし由、●內報　內務省にて地方長官會議を開き田中山形縣知事の除くの外悉く參集、各大臣、各總務長官、各局長出席、首相桂及び內相兼文相兒玉、農相淸浦の訓示有之候、●文藝　博文館發行の西鶴名著集は風俗壞亂と認められ發賣停止せられ候、△樋口文藏（前滋北縣知事）死去

十一日、●內報　政友會熊本支部は悉く脫會し獨立團體を組立て候、●東京　又々數多き自殺者を出し候、劇藥二件入水三人、縊死、刃物各一人、但し總て死損ひて苦悶致居候△五厘銅貨に鍍金して二十錢に使用したる十二歲の少年有之候、恐ろ可き哉、●本月上旬の貿易概算左の如し

輸出品價		九、一七九、三二五
輸入品價		七、五七九、二〇四
輸出（入）超過	出	一、六〇〇、一二一
輸出	金貨及金地金	一三〇〇〇〇
	銀貨及銀地金	三九三〇七
	計	一六九、三〇七
輸入	金貨及金地金	九二、二〇四
	銀貨及銀地金	〇
	計	九二、二〇四
金銀輸出（入）超過	出	七七、一〇三

十二日、●外電　土耳古は露國に確言して露國領事の殺害者は最も重き刑に處せらるべしと云へり有殺害者を審問するためモナスターに軍法會議召集せられ候、△ソロウイッチ附近に於ける叛徒と土耳古軍との戰鬪は其後繼續し居り廿四個大隊の土耳古兵はアナトリアより同地に向け出發を命ぜられ候、●內報　福岡縣豐國炭坑瓦斯爆發、負傷者不尠候、△東京法科大學は九月より授業時間を一週十七八時に減縮する由、●東京　淺草公園の噴水は本日除幕式を行ひ候、

十三日、●外電　露國南部工業界の同盟罷工には五十万の勞働者關連し居る由に候、●內報　名古屋名物の東陽館出火の爲め燒盡し延燒二十四戶に及び候、●東京　不良凍氷三万斤取押へられたる者有之候、

十四日、●外電　バルカン半島の形勢は最も重大なるものあり、革命の氣運は東方に延びモナスター附近にては大戰ありし由に候、△露帝は勅令を發し露國東洋艦隊司令長官アレキシフ氏に最高權を與へて東洋の總督に任じ候、△露國領事ノスコースキー氏を殺したる憲兵は死刑に處せられ候、●內報　本日文部省にて左の入名に學位授與致し候、

法學博士　美濃部達吉　　工學博士　俵國一

以上東京大學總長推薦

工學博士　鋼木松之助　　仝上　小藤高彦

仝上　松村鶴造　　　仝上　青柳榮司
醫學博士　吾妻勝剛　　　以上京都大學總長推薦
醫學博士（論文提出）　朝倉文三

●東京　戲ヶ丘の殺人犯探偵に付四谷署長は賭金の懸賞を致候△金八圓五十錢入の蟇口を拾ひ警察に屆出て住所を問へば一所不住の者なりと答へ飄然立去りし乞食有之候

十五日、●外電　土耳其政府は嚢に殺されたる露國領事ノスコースキー氏の遺族に四十万フランの賠償金を贈ることに致候△英國議會は閉會致候△土耳其の軍隊はクルスケヴチ市を占領せし由、●内報　板垣伯の新政黨主義案は發表され候●東京　電車鐵道は本日より新橋上野淺草間の動力變更工事に着手今年中に完全の見込に候、●會合　日本銀行總會△文部省夏期講習會開會式

十六日、●外電　英國前首相ソールスベリー侯の病體頗る重く大に衰弱の由に候△セバストポルに碇泊せる露國黒海艦隊の一部は土耳其の海洋に向け出航を命ぜられ、△殺害されたる露國領事未亡人は土耳古より賠償金を受くることを拒み故領事が土耳古皇帝より授けられたる勳章を返附致候、●内報　日本鐵道會社にては自轉車を手荷物同樣無賃にて輸送致し候、●東京　千六百圓の預金證書を拾ひて屆出たる大工有之候

十七日、●外電　土耳其アスカア、サロニカ間鐵道にて軍用列車ダイナマイトを以て破壞され候、●内報　第十八議會に對する帝國黨の報告書本日發表され候、●東京　新橋鐵道構内に出火し貨車四輛を燒き候△菖蒲に名高き堀切小高園主今朝何者とも知れずに銃殺され嫌疑者捕へられ候

十八日、●外電　パナマ運河に關するコロンビヤ共和國と米國との條約は共和國の上院にて否決され候、△バルガン半島に於ける叛亂運動の擴張せるにより土耳其政府は新に五拾二大隊の兵を召集致候●内報　最近の報道に依れば露國東洋艦隊の所在左の如し

▲旅順口淀泊　一等巡洋艦五、二等巡洋艦五、甲鐵水雷驅逐艦十六水雷母艦二、水雷艇四、砲艦一

▲旅順口外碇泊　一等戰鬪艦（司令長官の旗艦）一、同（司令官の旗艦）一、同四、水雷母艦一、碎氷艦一

▲大連灣碇泊　水雷母艦一、砲艦一、運送船一

▲太沽碇泊　砲艦一

▲營口碇泊　砲艦一

▲仁川碇泊　砲艦一

▲上海碇泊　砲艦一

▲浦鹽斯德碇泊　一巡洋艦（旗艦共）三

△朝鮮今年の米作豆作は平年に比し一割以上の豐作に候へ故西村茂樹一周年祭、●會合　東京市參事會、△舊國民同盟會

十九日、●外電　マセドニアの一部會クルシエヴオ在住の基督教徒は悉く土耳其人の爲めに虐殺され候△七名の漫遊者アルプス登山中溪間に墜落し負傷致し候、●東京　岩谷天狗選擧違犯の辯護料は總計一万圓餘の契約に候由、△教科書收賄事件の追徵金は已に七万圓に達したりとか、何か有益なる公共事業に盡しては如何と思はれ候、△總武鐵道松尾驛附近にて颶風のため進行中の列車四輛轉覆致候

二十日、●外電　バルガンの動搖益す亂れアルバニア人はモナスター及ウスクブ間にて激しき暴動をなしサロニカの形勢は危機に陥り候△露國は土其耳政府に對し政治的性質を帶へる追加要求を提出致候●内報　本日は清帝第三十二回の御誕辰、即ち万壽節なる故在留清人は休業し

て誠意を表し居候、●本月中旬の貿易概算左の如し

輸出品價		八、四一四、二五七円
輸入品價		一一、四〇一、〇一三
輸入超過		二、九八六、七五六
輸出	金貨及金地金	五九〇、〇〇〇
	銀貨及銀地金	四三、二七〇
	計	六三三、二七〇
輸入	金貨及金地金	六二二、二二三
	銀貨及銀地金	一六七、一四九
	計	七九〇、三七二
金銀輸入超過		一五七、一〇二

△昨今九州佐賀縣廢止説盛に起り代議士等は之に反對運動を開始致候△今朝横濱港外の海に投じて助け上げられたる者有之、此人教育有るものにて斷腸の惑なる論文十枚計を或新聞社に送りたる由に候●會合對露同志會政談演説會、大井憲太郎、高野孟矩、工藤行幹等出席。△練習艦隊嚴島、橋立は吳に、松島は佐世保に何れも本日韓國馬山浦を拔錨し、また常備艦隊の主力たる敷島、朝日、富士等外十二艦は舞鶴に集中致候、△海軍大佐永峰光孚氏逝去。

●二十一日、●外電　土耳其は全然諸國の要求を容れ諸國艦隊の撤退を請求致候　●内報　商業手形の流通は本年に入りてより漸く増加の傾向有之東京交換所の調査にては上半期の交換高七億五千六百万圓に達し昨年の同期間に比し實に一億四千萬圓の増加を示し、下半期に入りても七月の交換高は昨年の同月に比し千四百三十萬圓を増加し本月は更に一層の増加を示すべき勢にて月末迄には確に一億一千万圓を超過すべしとの事に候、こは疑もなく財界の趨勢の愈々好況に向ひつゝあるを證するものに候、△横濱の木村萬四郎氏は開墾牧畜の目的を以て北大東島及ラサ島の無人島を向ふ廿五ヶ年間無税にて拜借したき旨を其筋へ出願致候、△千葉縣下に降雹ありて田畑を荒し、福井縣下の稻作にうんか發生して破害多き由。△兒玉内相は千葉縣下の模範村治を巡視致し候。●東京　喧ましき府縣廢合案と共に東京都制案を十九議會に提出する事に決し法制局にて取調中に候、△棚橋一郎山下谷次兩氏は實業家有力者の贊助を仰ぎ、速成的に銀行會社商社員及技手を養成する目的にて商工學校を新設する筈に候。△浪華薩俳優中村霞仙逝去。△大藏省の調査に係る去月末通貨流通高及増減比較左の如し（△印減）

種類	流通高	前期末比較	前年同月末比較
新金貨	一九、八二三、一五二円	二〇七、三〇〇円	八、二四一、〇一八円
舊金貨	八、九三六、九一四	△二、四二六	△八九、〇四〇
金貨合計	二八、七六〇、〇七七	二〇四、八七四	八、一五一、九七八
補助銀貨	五九、六一八、七三三	二、三五三	一、八五八、七一五
補助銅貨	一七、九二一、八九六	……	△一、八九六
補助貨合計	七七、五四〇、六二九	二、三五三	一、八五六、八一八
正貨合計	一〇六、三〇〇、七〇六	二〇七、二二八	一〇、〇〇八、七九六
兌換銀行券	二〇一、四〇七、七八八	△九、一五七、五九九	七、六六六、〇五二
通貨總計	三〇七、七〇八、四九四	△九、〇五〇、三七〇	一七、六七四、八四二

（參照）政府紙幣未償還高（七月末）一、五二二九、九四一圓銀行紙幣未償還高（同）四二三、六六一圓

（備考）正貨は發行高より鎔潰高、純輸出高及兌換銀行券準備高を控除し舊金貨は倍位に計算す
又補助銅貨中には白銅貨、青銅貨及新舊銅貨を含む兌換銀行券は月末發行高を示す

英國スウエル女子原著
高等師範學校教授本田增次郎譯

最新刊

家庭小説

驪語

くろうまものがたり

クロス製美本 定價金八拾錢 郵税六錢

此書の原本は**歐米の家庭**にて最も廣く**愛讀**せらるゝ書物てブラック、ビューテイといふ名馬の自叙傳である。書中紳士觀あり淑女觀あり家庭改良の論もあり社會公德の談もありて馬の觀察主張であるだけに皆**興味津々**として湧くが如くである譯文は極めて**平易流暢な言文一致體**て、而かも馬が人に話すやうに禮義ある詞遣ひをして其の上に十二度刷の美しい**彩色畫**をも加へてあるから、如何なる家庭にも歡迎せらるべき資格がありて、且つ幼年女子への贈物として極めて**清い有益な品**である

中央新聞文學記者 加藤眠柳著

最新刊

女子立志編

定價 上製金五拾錢 並製金參拾錢 郵税四錢

日本の婦人社會は、最近數年間に於て著しき變調を現はし來り、其團體的運動の如き、漸く世人の注意を惹んとするに至れり。然れども日本婦人は今尙社會の勢力なりと認識せらるゝに至らず、隨つて其社會の進歩に貢献せる女流の如き尙甚だ多からざるが如し。『英國士道物語』の譯者眠柳加藤米司氏、今回泰西の名媛十有九家を傳して世に公にせり。編中詩人あり、小説家あり、新聞記者あり、彫刻家あり、説教家あり、慈善家あり、書師あり、旅行家あり、社會改良家あり、ウイラード女史ならざるも皆これ無冠の女皇にして、其言、其行、其人、其德、すべて皆欽仰すべき也。婦人及家庭の最好最良の讀本として必ず大に歡び迎へらるべきを信ず。

博士リナアル原著
山田美妙譯

小説

血の涙

比律賓の革命は實に此書の鼓吹に基づいた

而も博士は此書の爲め政府と敎徒とに憎まれ**刑場一彈の露と消えた。**

比律賓革命の動機となつた此不朽の大作の内容を見んと欲せば本書を繙かざるべからず

是れ血である、涙である、虐政の如何ほど人類を苦しめたか、活ながらの修羅圖である。

●全一冊 定價三拾錢 郵税四錢●

出版元 東京市神田區南甲賀町八番地 內外出版協會